第一款　組織及選擧

第十一條　町村會議員ハ其町村ノ選擧人其被選擧權アル者ヨリ之ヲ選擧ス其定員ハ其町村ノ人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

一　人口千五百未滿ノ町村ニ於テハ　議員八人
一　人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ　議員十二人
一　人口五千以上一萬未滿ノ町村ニ於テハ　議員十八人
一　人口一萬以上二萬未滿ノ町村ニ於テハ　議員二十四人
一　人口二萬以上ノ町村ニ於テハ　議員三十人

第十二條　町村公民(第七條)ハ總テ選擧權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラルヽ者(第八條第三項、第九條第二項)及陸海軍ノ規役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

凡內國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町村公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選擧權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラルヽ者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十三條　選擧人ハ分テ二級ト爲ス

選擧人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選擧人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可キ者ヲ一級トシ爾餘ノ選擧人ヲ二級トス

一級二級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其町村內ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

選擧人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選擧ス其被選擧人ハ同級內ノ者ニ限ラス兩級ニ通シテ選擧セラルヽコトヲ得

第十四條　特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ選擧ノ特例ヲ設クルコトヲ得

第十五條　選擧權ヲ有スル町村公民(第十二條第一項)ハ總テ被選權擧ヲ有ス

左ニ掲クル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

一　所屬府縣郡ノ官吏
二　有給ノ町村吏員
三　檢察官及警察官吏
四　神官僧侶及其他諸宗教師
五　小學校教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

代言人ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選擧セラルヽコトヲ得ス

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選擧セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選擧セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ縁故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其縁故アル者町村長若クハ助役ニ選擧セラレ認可ヲ受クルトキハ其縁故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條　議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラルヽコトヲ得

第十七條　議員中闕員アルトキハ毎三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選擧ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選擧ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選擧トモ前任者ノ選擧セラレタル選擧等級ニ從テ之カ選擧ヲ行フ可シ

第十八條　町村長ハ選擧ヲ行フ毎ニ其選擧前六十日ヲ限リ選擧原簿ヲ製シ各選擧人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選擧人名簿ヲ製ス可シ

選擧人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限內ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ町村長ハ町村會ノ裁決(第三十七條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選擧前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選擧ニ關スルコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選擧ノ無效トナリタル場合ニ於テ更ニ選擧ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條　選擧ヲ執行スルトキハ町村長ハ選擧ノ場所日時ヲ定メ及選擧ス可キ議員ノ數ヲ各級ニ分チ選擧前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ選擧ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ選擧ヲ行ヒ次ニ一級ノ選擧ヲ行フ可シ

第二十條　選擧掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選擧人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ町村長若クハ其代理者ハ其係長トナリ選擧會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

第二十一條　選擧開會中ハ選擧人ノ外何人タリトモ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス選擧人ハ選擧會場ニ於テ協議又ヲ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　選擧ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選擧人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選擧人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選擧人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選擧人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選擧人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條　投票ニ記載ノ人員其選擧ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無効トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ

左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一　人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選擧權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四　被選擧人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選擧掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條　選擧ハ選擧人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選擧權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選擧ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ內國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選擧掛ニ示シテ代理ノ證トス可シ

第二十五條　町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區畫ヲ定メテ選擧分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選擧人ノミ此分會ヲ設クルモ妨ケナシ

分會ノ選擧掛ハ町村長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例ニ依リ掛員二名

若クハ四名ヲ選任ス

選擧分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム」

選擧分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選擧ノ手續會場ノ取締等總テ本會ノ例ニ依ル

第二十六條　議員ノ選擧ハ有効投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選擧スルトキハ(第十七條)投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十七條　選擧掛ハ選擧錄ヲ製シテ選擧ノ顚末ヲ記錄シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選擧錄ニ附屬シ選擧ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條　選擧ヲ終リタル後選擧掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ兩級ノ選擧ニ當リタルトキハ同期限內何レノ選擧ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限內ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選擧ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條　選擧人選擧ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選擧ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得(第二十七條第一項)

町村長ハ選擧ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ニ於テ選擧ノ効力ニ關シ異議アルトキ

ハ訴願ノ有無ニ拘ラス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

選擧ノ定規ニ違背スルコトアルトキハ其選擧ヲ取消シ又被選擧人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選擧ヲ行ハシム可シ

第三十條　當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條　小町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケス選擧權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款　職務權限及處務規程

第三十二條　町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラルヽ事件ヲ議決スルモノトス

第三十三條　町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

一　町村條例及規則ヲ設ケ並改正スル事

二　町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ揭クル事務ハ此限ニ在ラス

三　歲入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事

四　決算報告ヲ認定スル事

五　法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、町村稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

六　町村有不動產ノ賣買交換讓受讓渡並質入書入ヲ爲ス事

七　基本財產ノ處分ニ關スル事

八　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

九　町村有ノ財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十　町村吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事

十一　町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十四條　町村會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル町村吏員ノ選擧ヲ行フ可シ

第三十五條　町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十六條　町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條　町村住民及公民タル權利ノ有無、選擧權及被選擧權ノ有無、選擧人名簿ノ正否並其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選擧權(第十二條第二項)及町村會議員選擧ノ効力(第二十九條)ニ關スル訴願ハ町村會之ヲ裁決ス

前項ノ訴願中町村住民及公民タル權利ノ有無並選擧權ノ有無ニ關スルモノハ町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス

町村會若クハ町村長ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選擧ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條　凡議員タル者ハ選擧人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可ラサルモノトス

第三十九條　町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條　會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第四十一條　町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十二條　町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ其招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ開會ノ三日前タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條　町村會ハ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條　町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條　議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ町村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡參事會町村會ニ代テ議決ス

第四十六條　町村會ニ於テ町村吏員ノ選擧ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選擧ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十七條　町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十八條　議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選擧ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條　町村會ハ書記ヲシテ議事錄ヲ製シテ其議決及選擧ノ顚末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事錄ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ

町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

第五十條　町村會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條　第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ之ヲ町村總會ニ適用ス

第三章　町村行政

第一款　町村吏員ノ組織選任

第五十二條　町村ニ町村長及町村助役各一名ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ增加スルコトヲ得

第五十三條　町村長及助役ハ町村會ニ於テ其町村公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ揭載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其緣故アル者助役ノ選擧ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ其町村長ノ選擧ニ當リテ認可ヲ得ルトキハ其緣故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條　町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ選擧ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條　町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラス

町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ分掌スル場合(第七十條第二項)ニ於テモ亦同シ

第五十六條　町村ノ情況ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村長ニ給料ヲ給スルコトヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十七條　有給町村長及有給助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十八條　有給町村長及有給助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條　町村長及助役ノ選擧ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條　府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス若シ府縣參事會同意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以

テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得
府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條　町村長及助役ノ選擧其認可ヲ得サルトキハ再選擧ヲ爲ス可シ
再選擧ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選擧ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第六十二條　町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス
收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス
收入役ハ町村長及助役兼ヌルコトヲ得ス其他第五十六條第二項、第五十七條及第七十六條ヲ適用ス
收入役ノ選任ハ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六十一條ヲ適用ス
郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得
收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條　町村ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得
町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス

第六十四條　町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス
區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス區會（第百十四條）ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選擧ス

第六十五條　町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス
委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ選擧シ町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス
常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條　區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條　町村吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルヽコトヲ得

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款　町村吏員ノ職務權限

第六十八條　町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三　町村ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四　町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財產ヲ管理スル事

五　町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

六　町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

八　法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手數料、町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條　町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一　司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二　浦役場ノ事務

三　國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第七十條　町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ

治罪法（初編第百八十三）
第六條及九年太政官達第十七號（同第七十七號）第四項）參看

第七十一條　町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條　書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十三條　區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區內ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第七十四條　委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辦スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ隨時委員會ニ出席シテ其委員長ト爲リ並其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス

常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三款　給料及給與

第七十五條　名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額、報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス

第七十六條　有給町村長有給助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條　町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條　有給吏員ノ給料、退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條　退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキ其額舊退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ廢止ス

第八十條　給料、退隱料、報酬及辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章　町村有財產ノ管理

第一款　町村有財產及町村稅

第八十一條　町村ハ其不動產、積立金穀等ヲ以テ基本財產ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ」

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財產ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條　凡町村有財產ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條　舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條　町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徴收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徴收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條　使用權ヲ有スル者(第八十三條第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十六條　町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條、第八十四條)ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條　町村有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條　町村ハ其必要ナル支出及從前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラルヽ支出ヲ負擔スルノ義務アリ

町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手數料(第八十九條)並科料、過怠金其他法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村税(第九十條)及夫役現品(第百一條)ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第八十九條　町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數箇人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第九十條　町村税トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一　國税府縣税ノ附加税

二　直接又ハ間接ノ特別税

附加税ハ直接ノ國税又ハ府縣税ニ附加シ均一ノ税率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徴收スルヲ常例トス特別税ハ附加税ノ外別ニ町村限リ税目ヲ起シテ課税スルコトヲ要スルトキ賦課徴收スルモノトス

第九十一條　此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手數料(第八十九條)特別税(第九十條第一項第二)及從前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

科料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條　三箇月以上町村内ニ滯在スル者ハ其町村税ヲ納ムルモノトス但其課税ハ滯在ノ初ニ遡リ徴收ス可シ

第九十三條　町村内ニ住居ヲ搆ヘス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖モ町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條　所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ納稅者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業(店鋪ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條　數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滯在スル者ニ前條ノ町村稅ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課稅ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條　所得稅法第三條ニ揭クル所得ハ町村稅ヲ免除ス

第九十七條　左ニ揭クル物件ハ町村稅ヲ免除ス

一　政府、府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋

二　社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝、美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋

三　官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコトヲ得

第九十八條　前二條ノ外町村稅ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條　數箇人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村內ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部內ニ住居シ若クハ滯在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業(店鋪ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第百條　町村稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長ニ屆出ツ可シ其屆出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

第百一條　町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ準率ト爲シ且ツ之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

又急迫ノ場合ヲ除クノ外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條　町村ニ於テ徵收スル使用料、手數料(第八十九條)町村稅(第九十條)夫役ニ代フル金圓(第百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定期內ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度內ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第百三條　地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條　町村稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度內減稅免稅及償還ヲ請求スル權利ヲ失フモノトス

第百五條　町村稅ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財產並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第百六條　町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以內ト爲シ年々償還ノ步合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以內ニ還了ス可シ

定額豫算內ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度內ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス

第二款　町村ノ歲入出豫算及決算

第百七條　町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限リ歲入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第百八條　豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取リ之ヲ郡長ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財產明細表ヲ提出ス可シ

第百九條　定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコト得ス

第百十條　町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ（第百二十五條ヨリ第百二十七條ニ至ル）先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長（第六十八條第二項第三）又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第百十一條　町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ及毎年少クモ一回臨時檢査ヲ爲ス可シ例月檢査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時檢査ハ町村長又ハ其代理者ノ外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條　決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以內ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ付ス可シ第六十二條第六項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出ス可シ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告ス可シ

第百十三條　決算報告ヲ爲スキハ第四十條ノ例ニ準シテ議長代理者共ニ故障アルモノトス

第五章　町村內各部ノ行政

第百十四條　町村內ノ區（第六十四條）又ハ町村內ノ一部若クハ合併町村（第四條）ニシテ別

ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用（第九十九條）ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十五條　前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニ依リ町村長之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章　町村組合

第百十六條　數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併（第四條）スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

第百十七條　町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ（第百十六條第一項）組合會議ノ組織、事務ノ管理方法並其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

第百十八條　町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第七章　町村行政ノ監督

第百十九條　町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第百二十條　此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス」

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第百二十一條　監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ其事務錯亂澁滯セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徵シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第百二十二條　町村又ハ其組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百二十三條　凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第百二十四條　内務大臣ハ町村會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選ス可キコトヲ命ス可シ但改選町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第百二十五條　左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村條例ヲ設ケ並改正スル事

二　學藝、美術ニ關シ又ハ歴史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口一萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ

第百二十六條　左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコト

ヲ要ス

一　新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ增加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以內ノモノハ此限ニ在ラス

二　町村特別稅並使用料、手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

三　地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四　間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五　法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル步合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第百二十七條　左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事

二　基本財產ノ處分ニ關スル事（第八十一條）

三　町村有不動產ノ賣却讓與並質入書入ヲ爲ス事

四　各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事（第八十六條）

五　各種ノ保證ヲ與フル事

六　法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事

七　均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事（第九十條第二項）

八　第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村內ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事

九　第百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第百二十八條　府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ罷責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用ス可シ

一　町村長ノ懲戒處分（第六十八條第二項第五）ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三　本條第一項ニ揭載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、財產ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ（第六十七條）懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

四　總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會

ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得

第百二十九條　町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ判決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但訴願ヲ爲シタルトキハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

十八年内閣達第七十四號第三條（第二）參照

第八章　附則

第百三十條　郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第百三十一條　此法律ニ依リ初テ議員ヲ選擧スルニ付町村長及町村會ノ職務並町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第百三十二條　此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第百三十三條　前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シ

第百三十四條　社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第百三十五條　此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第百三十六條　現行ノ租税中此法律ニ於テ直接税又ハ間接税トス可キ類別ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百三十七條　此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第百三十八條　明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

初編第七第九第九十第百第百一參照

第百三十九條　内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

○市制町村制實施ノ際區戸長區書記役場筆生事務取扱方及區町村經費徴收支出方

明治二十一年八月十八日　内務省令第四號

第一條　市制及町村制實施ニ際シ新任市町村長ニ事務引繼結了ノ日ニ至ル迄ハ區長戸長

區書記役場筆生等ニ於テ從前ノ通事務取扱ヲ爲スヘシ

第二條　前條事務取扱中地方稅支辨ニ係ル吏員ノ給料旅費並ニ區役所戸長役場ノ經費ハ總テ該年度ノ豫算ニ據リ地方稅又ハ町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條　市制及町村制施行ノ期日ヲ定メタルトキ前條ノ地方稅又ハ町村費ニ關シ未タ該年度ノ豫算ヲ議定セス又ハ議定シタル豫算ノ不足アルニ於テハ從前ノ通府縣知事戸長ニ於テ府縣會町村會ノ議決ヲ取リ前條費目必要ノ豫算ヲ定ムヘシ

第四條　市制及町村制施行ノ日ヨリ市町村稅徵收ニ至ルマテ市町村必要ノ費用ハ第二條ノ費用ヲ除クノ外區長戸長ニ於テ其豫算ヲ設ケ區町村會ノ議決ヲ經テ假徵收ヲナスヘシ但新市町村ト舊區町村會區域ト符合セサル場合ニ於テハ各區町村會ニ於テ區々ノ豫算ヲ設ケサル爲メ府縣知事ニ於テ其標準ヲ示スコトヲ得

前項ノ費用ハ區町村會ノ議決ニ依リ現在セル區町村費又ハ共有金ヲ一時使用シ又ハ一時ノ借入金ヲ以テ其費用ニ充ツルコトヲ得

第五條　區長戸長ニ於テ取扱タル一切ノ金穀並會計帳簿ハ其金穀ノ種類及ヒ所屬年度ヲ區別シタル明細書ヲ製シ之ヲ市町村長ニ引繼クヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ第四條ノ金額ハ事務引繼前ニ支拂タルモノヲ除クノ外人口段別ヲ標準トシテ適宜各部分ニ配付シ其他ハ人口段別ノ最多キ部分ノ分屬シタル市町村長ヲ以テ主擔トシ其市町村長ニ引繼キ主擔市町村長ハ第七條但書ノ精算ヲ了シタル上

其所屬外ノ部分ノ分屬シタル各市町村ニ屬スヘキモノハ更ニ之ヲ其市町村長ニ引繼クヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ帳簿ノ類ニシテ分割スヘカラサルモノアルトキハ更ニ引繼クコトヲ要セス但閲覽ノ便ヲ妨クヘカラス

第六條　第四條第一項ニ依リ假徵收ヲナシタルモノハ追テ市町村會ニ於テ該年度ノ收支豫算ヲ議決シタル上市町村稅各納人ニ對シ差引徵收ヲ爲ス可シ

同條第二項ニ依リタルトキハ新ニ徵收シタル市町村稅ヲ以テ返償ヲ爲スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ最初配付ヲ受ケタル割合ニ應シ各市町村長ニ於テ之ヲ徵收シ主擔市町村長ニ於テ全額ヲ取纏メテ其返償處分ヲ爲スヘシ

第七條　區長戸長ニ於テ未タ精算ヲ了セサル區町村費ハ其引繼ヲ受ケタル市町村長ニ於テ之カ精算ヲ作リ市町村會ニ報告スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ主擔市町村長ニ於テ精算ヲ作リ主擔市町村長ハ其市町村會ニ報告シ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ニ於テハ主擔市町村長ヨリ之ヲ其各市町村長ニ送付シテ其市町村會ニ報告セシムヘシ

第八條　前條精算ノ場合ニ於テ殘餘金アルトキハ市町村長ニ於テ舊區町村ニ割戻ヲナス可シ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ主擔市町村長ニ於テ割戻ノ高ヲ定メ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村

ノ分ハ其市町村長ニ配付シ各其割戻ヲナスヘシ

第九條　第七條精算ノ場合ニ於テ不足金ヲ生シタルトキハ市町村會ノ決議ヲ經テ舊區町村ヨリ追徵補充スヘシ但一ノ區町村ニシテ二箇以上ノ市町村ニ分屬シタルトキハ主擔市町村長ニ於テ該年度區町村費實收入ノ割合ニ依リ其補充豫算ヲ作リ其所屬外ノ部分ノ分屬シタル市町村ノ分ハ其市町村長ニ送付シ各市町村會ノ決議ヲ經テ其舊區町村ノ部分ヨリ追徵補充スヘシ

第十條　不納ニ屬シタル區町村費ニシテ精算報告後ニ於テ追徵シタルモノハ各市町村ノ臨時收入トナスヘシ

第十一條　從前郡部ト經濟ヲ異ニセサル區若クハ郡部內ノ市街地ニ市制ヲ施行スルトキハ該市ハ地方稅費目中郡區廳舍建築修繕費並郡吏員給料旅費及廳中諸費ノ負擔ニ任スヘカラサルヲ以テ該費ハ市制施行ノ後ハ市ニ賦課セサルモノトス但第二條ノ諸費ニ係ルモノハ此限ニアラス

○市制町村制理由書ヲ頒布ス　明治二十一年四月二十五日　號外

市制町村制理由

本制ノ旨趣ハ自治及分權ノ原則ヲ實施セントスルニ在リテ現今ノ情勢ニ照シ程度ノ宜キニ從ヒ以テ立法上其端緒ヲ開キタルモノナリ此法制ヲ施行セントスルニハ必先ツ地方自治ノ區ヲ造成セサル可カラス地方ノ自治區ハ特立ノ組織ヲ爲シ公法民法ノ二者ニ於テ共ニ一個人民ト權利ヲ同クシ之カ理事者タルノ機關ヲ有スルモノナリ其機關ハ法制ノ定ム

ル所ニ依テ組織シ自治體ハ即チ之ニ依テ其意想ヲ表發シ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス故ニ自治區ハ法人トシテ財産ヲ所有シ之ヲ授受賣買シ他人ト契約ヲ結ヒ權利ヲ得義務ヲ負ヒ又其區域內ハ自ラ獨立シテ之ヲ統治スルモノナリ然リト雖モ其區域ハ素ト國ノ一部分ニシテ國ノ統轄ノ下ニ於テ其義務ヲ盡サヽルヲ得ス故ニ國ハ法律ヲ以テ其組織ヲ定メ其負擔ノ範圍ヲ設ケ常ニ之ヲ監督ス可キモノトス

國內ノ人民各其自治ノ團結ヲ爲シ政府之ヲ統一シテ其機軸ヲ執ルハ國家ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以ナリ國家ノ基礎ヲ固クセントセハ地方ノ區畫ヲ以テ自治ノ機體ト爲シ以テ其部內ノ利害ヲ負擔セシメサル可カラス

現今ノ制ハ府縣ノ下郡區町村アリ區町村ハ稍自治ノ體ヲ存スト雖モ未タ完全ナル自治ノ制アルヲ見ス郡ノ如キハ全ク行政ノ區畫タルニ過キス府縣ハ素ト行政ノ區畫ニシテ幾分カ自治ノ制ヲ兼子有セルカ如シト雖モ是亦全ク自治ノ制アリト謂フ可カラス今前述ノ理由ニ依リ此區畫ヲ以テ悉ク完全ナル自治體ト爲スヲ必要ナリトス即府縣郡市町村ヲ以テ三階級ノ自治體ト爲サントス此階級ヲ設クルハ分權ノ制ヲ施スニ於テモ亦緊要ナリトス蓋自治區ニハ其自治體共同ノ事務ヲ任ス可キノミナラス一般ノ行政ニ屬スル事ト雖モ全國ノ統治ニ必要ニシテ官府自ラ處理スヘキモノヲ除クノ外之ヲ地方ニ分任スルヲ得策ナリトス故ニ其町村ノ力ニ堪フル者ハ之ヲ其負擔トシ其力ニ堪ヘサル者ハ之ヲ郡ニ任シ郡ノ力ニ及ハサル者ハ之ヲ府縣ノ負擔トス可シ是階級ノ重複スルヲ厭ハスシテ却テ利益アリト爲ス所以ナリ

維新ノ後政務ヲ集攬シテ一ニ之ヲ中央ノ政府ニ統ヘ地方官ハ各其職權アリト雖モ政府ノ委任ニ依テ代テ事ヲ處スルニ過キス今地方ノ制度ヲ改ムルハ即チ政府ノ事務ヲ地方ニ分任シ又人民ヲシテ之ニ參與セシメ以テ政府ノ繁雜ヲ省キ併セテ人民ノ本務ヲ盡サシメントスルニ在リ而シテ政府ハ政治ノ大綱ヲ握リ方針ヲ授ケ國家統御ノ實ヲ擧クルヲ得可ク人民ハ自治ノ責任ヲ分チ以テ專ラ地方ノ公益ヲ計ルノ心ヲ起スニ至ル可シ蓋人民參政ノ思想發達スルニ從ヒ之ヲ利用シテ地方ノ公事ニ練習セシメ施政ノ難易ヲ知ラシメ漸ク國事ニ任スルノ實力ヲ養成セントス是將來立憲ノ制ニ於テ國家百世ノ基礎ヲ立ツルノ根源タリ

故ニ分權ノ主義ニ依リ行政事務ヲ地方ニ分任シ國民ヲシテ公同ノ事務ヲ負擔セシメ以テ自治ノ實ヲ全カラシメントス

ルニハ技術專門ノ職若クハ常職トシテ任ス可キ職務ヲ除クノ外概子地方ノ人民ヲシテ名譽ノ爲メ無給ニシテ其職ヲ執ラシムルヲ要ス而シテ之ヲ擔任スルハ其地方人民ノ義務ト爲ス是國民タル者國ニ盡スノ本務ニシテ丁壯ノ兵役ニ服スルト原則ヲ同クシ更ニ一歩ヲ進ムルモノナリ然レトモ人民ヲシテ普ク此義務ヲ帶ハシムルトキハ其任又輕シト爲サス故ニ一朝ニシテ此制ヲ實行セントスルハ頗ル難事ニ屬スト雖モ其目的タル國家永遠ノ計ニ在リテ效果ヲ速成ニ期セス漸次參政ノ道ヲ擴張シテ公務ニ練熟セシメントスルニ在リ是ヲ以テ力メテ多ク地方ノ名望アル者ヲ舉ケテ此任ニ當ラシメ其地位ヲ高クシ待遇ヲ厚クシ無用ノ勞費ヲ負ハシメス倦怠ノ念ヲ生セサラシムルトキハ漸ク其責任ノ重キヲ知リ參政ノ名譽タルヲ辨スルニ至ラントス且本邦舊來ノ制ヲ考フルニ無給職ニシテ町村ノ事務ニ任スルノ例アリ各地方ノ習慣固ヨリ一定ナルニ非ス且維新後數次ノ變革ニ依テ頗ル此習慣ヲ破リタリト雖モ今日ニ及テ之ヲ襲用スルコト猶難カラサル可シ是此制ヲ實施スルニ方テ多少ノ困難アルニ拘ラス漸次其目的ヲ達センコトヲ期シテ疑ハサル所以ナリ

然レトモ他ノ一方ヨリ之ヲ見ルトキハ又地方ノ情況ニ依リ多少ノ酌量ヲ加ヘサルヲ得サルモノアリ是ヲ以テ町村長ハ公選ト爲スト雖モ其選擧宜キヲ得サルトキハ臨時官選ヲ許シ或ハ官吏ヲ派遣シテ其事務ヲ執ラシムルノ例アリ又島嶼ノ地其他特別ノ事情アリテ此制ヲ實施シ難キ地方ニハ之ヲ行ハサルヲ許スノ例アリ(町村制第六十一條第百三十二條第百三十三條)其他十分ニ實地活用ノ方ヲ與ヘタレハ各地ノ實況ニ照シテ之ニ應スルノ便アルヲ信ス固ヨリ此等ノ法令ハ人民ノ情態ニ依リ智識ノ度ニ應シテ宜キヲ取ラサルヲ得ス徒ニ自治ノ理論ニ據テ俄ニ其完備ヲ求ムルカ如キハ立法者ノ愼重ヲ加フ可キ所ナリトス是本制多少ノ斟酌ナキヲ得サル所以ナリ

本制ヲ施行スルニ付テハ漸ヲ以テ郡府縣ノ制度ノ改正ニ及ハサルヲ得サルモノアリ今其概略ヲ舉クレハ郡ニ郡長ヲ置キ府縣ニ府縣知事ヲ置キ其選任組織等固ヨリ舊ノ如クシテ之ヲ改メスト雖モ府縣會ノ外新ニ郡會ヲ開キ府縣郡ニ各參事會ヲ設ケサルヲ得ス然レトモ是等ノ事ハ府縣郡制ノ制定アルヲ待テ始メテ定マル可キ事ニシテ今只之ヲ以テ本制ノ參考ニ供スルノミ

本制ニ制定スル市町村ハ共ニ最下級ノ自治體ニシテ市ト云ヒ町村ト云ヒ都鄙ノ別ニ依テ其名ヲ異ニスルニ過キス其制度ヲ立ツルノ原質ニ於テハ彼此相異ナル所ナシ元來町村トハ人民生計ノ情態ニ於テ其趣ヲ同クセサルモノアリテ細カニ之ヲ論スレハ均一ノ準率ニ依リ難キモノナキニ非スト雖モ本邦現今ノ狀況ヲ察シ舊來ノ慣習ニ依テ之ヲ考フルニ都會輻湊ノ地ヲ除クノ外宿驛ト稱シ町ト稱スルモノ施政ノ大體ニ於テ村落ト異同アルコトナシ故ニ今之ヲ同一制度ノ下ニ立タシメントス其施治ノ細目ニ至テハ或ハ多少ノ差異ヲ見ルコトアルヘシト雖モ此等ハ制度ノ範圍內ニ於テ執行者ノ處分斟酌宜キヲ得ルト否トニ在ル可キモノトス然レトモ都會ノ地ニ至テハ大ニ人情風俗ヲ異ニシ經濟上自ラ差別アリ故ニ之ヲ分離シテ別ニ市制ヲ立テ機關ノ組織及行政監督ノ例ヲ異ニセリ是固ヨリ町村制ト其性質ヲ異ニスルニ非ス其市民ノ便益ト實際ノ必要トニ出テ然ラサルヲ得サルナリ即現行ノ區制ニ繼續スル所ノモノナリト雖モ從來ノ區ハ郡ノ區域ヲ離レスシテ行政上別ニ吏員ヲ置キ事務ヲ處理スルニ過キサリシモ今改メテ獨立分離セシメ從來區ノ下ニ町アリシモ之ヲ改メテ市ヲ最下級ノ自治體ト爲サントス而シテ三府市街ノ如キハ其情況又他ノ都會ノ地ト同シカラサルモノアルヲ以テ市制中機關ノ組織等ニ於テ二三ノ特例ヲ設クルモノアリ今此市制ヲ施行セントスルモノハ三府其他人口凡ソ萬五千以上ノ市街地ニ在リトス尤郡制制定ノ時ニ至テ其要件ヲ確定スルコトアル可シト雖モ今內務大臣ノ定ムル所ニ從テ之ヲ施行セントス區ノ名稱ヲ改メテ市ト爲スハ三府ノ如キ一府內ノ區ト混同スルヲ避クルナリ町區ハ通シテ其組織ヲ同ス可キハ前述ノ如シト雖モ其大小廣狹ニ依リ又ハ貧富繁閑ニ依リテ自ラ事情ヲ異ニスルモノナキニ非ス故ニ或ハ一定ノ例規ヲ適用シ難キモノアリ是亦酌量ヲ加ヘ(法律ノ範圍ヲ廣クシテ地方ノ便宜ヲ與ヘントスルナリ(町村制第十一條第十四條第二十五條第三十一條第五十二條第五十六條第六十三條第六十四條第百三十三條)

市制町村制第一章　總則

凡市町村ハ他ノ自治區ト同ク二箇ノ元素ヲ存セサル可カラス即チ疆土ト人民ト是ナリ此二者其一ヲ缺クトキハ市町村ノ自治體ヲ爲スニ足ラサルナリ而シテ市町村ノ制度ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムト雖モ或ル界限內ニ在テ市町村ニ自主ノ權ヲ付與スルモノトス是ヲ市町村ノ基礎トス

第一欵ハ市制町村制ヲ施行スルノ地ヲ定メ(市制町村制第一條)法律上市町村ノ性質ヲ明ニシ(市制町村制第二條)次テ

第一元素タル疆土ニ關スル條件ヲ定ム(市制町村制自第三條至第五條)
第二欵ハ第二元素ニ關スル條件住民權公民權ノ得喪及住民權公民權ヨリ生スル權利義務ヲ規定ス(市制町村制自第六條至第九條)
第三欵ハ市町村ニ付與スル自主權ノ範圍ヲ示ス(市制町村制第十條)

第一欵　市町村及其區域

市町村ノ區域ハ一方ニ在テハ國土分畫ノ最下級ニシテ即國ノ行政區畫タリ一方ニ在テハ獨立シタル自治體ノ疆土タリ其疆土ハ自治體カ公法上ノ權利ヲ執行シ義務ヲ履行スルノ區域ナリ
故ニ市町村ノ區域ハ從來ノ成立ヲ存シテ之ヲ變更セサルヲ以テ原則トス然レトモ町村ノ力貧弱ニシテ其負擔ニ堪ヘス自ラ獨立シテ其本分ヲ盡スコト能ハサルモノアリ是其町村自己ノ不利タルノミナラス國ノ公益ニ非サルナリ是ヲ以テ有力ノ町村ヲ造成シ維持スルハ國ノ利害ニ關スル所ニシテ町村ノ廢置分合若クハ區域ノ變更等ニ付キ國ノ干渉ヲ要スルコト明ナリ固ヨリ關係アル土地ノ所有主及自治區ヲシテ利害ノ關スル所ニ依テ各其意見ヲ達スルノ機會ヲ得セシメ其意見一般ノ公益ヲ害セサル限リハ之ヲ採用セサル可カラス尤他ノ一方ヨリ論スルトキハ其關係者タルモノハ勉メスレハ自己ノ利害ニ偏シ永遠ノ得失ヲ顧サルカ如キコトアルヲ免レス故ニ一ニ其承諾ニ依テ決スルコトヲ得ス假令其承諾ナキモ之ヲ斷行スルノ權力アルヲ要ス然レトモ此等ノ處置タルヤ地方ノ情況ニ通曉スルヲ要シ且公平ヲ示サンカ爲メニ高等自治區參事會ノ議決ニ任スルヲ至當トス(市制町村制第四條)
本制ハ町村ノ分合ニ就テ詳細ナル規則ヲ設ケス各地ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地ヲ存スルナリ唯十分ノ資力ヲ有セサル町村ハ比隣相合併ス可キノ例ヲ設ク此ノ如キ町村ハ獨立ヲ有タシムルコトヲ得サルヲ以テ假令其承諾ナキモ他ノ町村ニ合併シ又ハ數箇相合シテ新町村ヲ造成セサル可カラス固ヨリ本制ニ定ムルカ如ク各市町村從前ノ區域ヲ變更セサルハ其原則ナリト雖モ現今各町村ノ大半ハ狹小ニ過キ本制ニ據テ獨立町村タル資格ヲ有スルヲ得サルモノ蓋少カラス故ニ合併ノ處分ヲ爲スモ亦已ムヲ得サル所ナリ然レトモ分合ノ例規ハ詳ニ之ヲ法律ニ制定セス其設急ヲ行政廳ノ見ル所ニ任スルモノハ各地ノ地形人情及古來ノ沿革ヲ參酌スルノ自由ヲ得セシメントスルニ在リ若シ其實行ニ方テ執行者ノ標準ヲ定ムルカ如キハ時ニ臨テ訓令ヲ發スルコトアル可シ之ヲ要スルニ町村ハ舊來ノ區域ヲ存シテ改メサルヲ原則トシ資力ナキモノハ之ヲ合併シテ以テ法律ノ冀望スル有力ノ町村ヲ造成センコトヲ期スルニ在リ又合併ノ爲メニ其區域廣濶ニ過キテ地形人情ノ自然ヲ失ヒ共有物ノ區域ヲ混シ其使用ノ便ヲ害スル等ノ事ナキヲ要ス然レモ今日ニ在テハ事情已ムヲ得サルモノアリテ十全ノ合併ヲ爲スコトヲ得ス又ハ合併ヲ以テ不便ト爲スカ如キコトアルヘシ故ニ町村制第百十六條ニ於テ町村組合ヲ設クルノ便法ヲ存セリ其組合町村ハ各獨立ヲ保チ而シテ共同シテ一定ノ事務ヲ處辨スルモノナリ其共同事務ノ範圍等ハ實地ノ需要ニ依テ便宜之ヲ議定スルニ任ス
凡區域ヲ變更スルニ方テハ必關係者ノ協議ヲ以テ財産處分又ハ費用ノ分擔ヲ定ムルヲ要ス是亦一定ノ例規ヲ示サス蓋此等ノ處分ハ強チ法理ニ泥マス專ラ情義ニ依ルヲ以テ穩當トス但其專斷偏私ノ弊ナカラシメンカ爲メ其處分ヲ參事會ニ任セリ而シテ其參事會ノ議決ニ對シテハ司法ノ裁判ヲ仰クヲ許サス
市町村經界ノ爭論ハ公法上ノ權利ノ廣狹ニ關スルヲ以テ公法ニ屬セリ故ニ此類ノ爭論ハ司法裁判ヲ求ムルヲ許サスシテ參事會ノ裁決ニ付シ終審ニ於テハ行政裁判所ノ判決ニ任セリ(市制町村制第五條)若シ之ニ反シテ民法上ノ所有權若クハ使用權ニ關スル爭論ハ固ヨリ司法裁判ニ屬スヘキヲ以テ其爭論者ノ一方若クハ雙方トモ市町村ニ係ルト雖モ參事會ノ裁決ニ付セス行政裁判ニ屬セサルハ勿論ナリ

第二欵　市町村住民籍及公民權

町村ト人民トノ關係ハ現行ノ法ニ於テ本籍寄留ノ別アリ現實ノ住居地ハ必シモ本籍地ナラス本籍ハ殆ント處名ヲ存スルニ過キサルモノアリ而シテ府縣會議員ノ選擧ノ如キ公法上ノ權利ハ本籍ニ屬シテ寄留地ニ屬セサルモノアリ甚タ事實ト相適セス蓋公法上ノ權利ヲ行フハ現實ノ利害ニ基ク可クシテ虛名ニ依ル可カラス故ニ本制ニ於テハ現行本籍寄留ノ法ニ依ラス凡市町村內ニ住居ヲ定ムル者ハ即市町村住民ニシテ本籍寄留ノ別アルコトナシ尤市町村住民籍即屬籍ノ例規ハ別ニ法令ヲ以テ之ヲ制定センコトヲ期ス故ニ茲ニ之ヲ詳述セスト雖モ要スルニ本制ノ行ハルヽ日ヨリ人民ト町

村トノ關係即町村ノ屬籍ニ付テハ從來本籍寄留ノ例ヲ一變スルモノナリ但戸籍上ノ事即戸主家族ノ關係ニ於テハ之ト相關スルコトナク從前ノ戸籍法ヲ存シテ之ヲ變更セサルナリ

市町村住民ノ權利ハ市町村ノ營造物ヲ共用シ其財産所得ノ使用ニ參與スルニ在リ但法律及市町村ノ條例規則ニ據ル可キハ固ヨリ言ヲ俟タス其義務ハ市町村ノ負擔ヲ分任スルニ在リ其義務ノ生スルハ即市町村ニ住居ヲ定メ住民ト爲リシ時ニ起ル但シ市町村內ニ住居ヲ定メス一時滯在スル者即其市町村住民ニ非サル者ト雖モ其滯在ノ久キニ至テハ市町村ノ負擔ニ任セシムルヲ當然トス(市制町村制第九十二條)

故ニ身羈旅ニ在ル者ト一時ノ滯在者トヲ除クノ外凡市町村內ニ住居ヲ定ムル者ハ即皆市町村住民タリ軍人官吏ノ如キモ亦皆然リ然リト雖モ軍人官吏ハ公民權ヲ行ヒ及市町村ノ負擔ヲ分任スル上ニ於テ例外ニ置クヲ必要ト爲スノ條件アリ即市制第八條第九條第十二條第十五條第五十五條第九十六條町村制第八條第九條第十二條第十五條第五十三條第九十六條ニ定ムル所ノ如シ又皇族ハ市町村ノ屬籍外タルコト勿論ナレハ敢テ本制ニ掲載セス

市町村住民中公務ニ參與スルノ權アリ又ハ義務アル者ハ別ニ要件ヲ定メテ其資格ニ適フ者ニ限ル之ヲ公民トス(市制町村制第七條)

公民ハ住民中ニ在テ特別ノ權利ヲ有シ重大ノ負擔ヲ帶ヒタル者トス其資格ノ要件ハ自ラ民度風俗ニ從ヒ各地方ノ情況ヲ酌ミ以テ其宜ヲ制スルヲ便ナリトス故ニ市町村ノ自主ノ權ニ任セ適宜之ヲ制定セシム可キカ如シト雖モ又一方ヨリ考フレハ各地方區々ニ出テ權利上公平ヲ失スルノ恐ナキ能ハス各國ノ例ヲ案スルニ是亦異同アリテ一定セス今本制ハ本邦ノ民度情體ヲ察シ併セテ各國ノ制ヲ參酌シ之ヲ制定セリ

各國ノ例ヲ案スルニ大略二類アリ一ハ則市町村住民ニシテ法律上ノ要件ニ適スルトキハ直ニ公民トナルノ法トシ一ハ則特別ノ手續ニ依テ公民權ヲ得ルノ法トス今第一ノ例ヲ以テ適當ト爲ス故ニ本制ハ市町村住民中市制町村制第七條ニ規定シタル要件ニ適スルトキハ直ニ公民タルヲ得ルモノトス

外國人及公權ヲ有セサル者ニハ公民權ヲ與フ可カラサルコト疑ヲ容レス本制ニ於テハ婦人及獨立セサル者モ亦皆公民外ニ置クヲ通例トス但市制町村制第十二條第二十四條ニ於テハ之ニ選擧權ヲ與フルノ特例アリ官府其他總テ法人タル者モ亦之ニ準ス其他ハ一般ニ二年以來市制町村制第七條ニ列記シタル要件ヲ有スルヲ要ス然ルニ一般ニ二年以上ノ制限アルハ或ハ不公平ヲ生スルノ恐アリト雖モ市町村會ニ於テ之ヲ特免スルノ權利ヲ有スルヲ以テ其甚シキニ至ラサル可シ其他多額ノ納稅者ニ就テモ亦之ニ類スル特例ヲ設ク(市制町村制第十二條)甲市町村ノ住民ニシテ乙市町村內ニ土地ヲ所有シ若クハ營業ヲ爲スカ爲メニ市制町村制第九十三條ニ從ヒ市町村稅ヲ負擔スル者アリ此ノ如キ者ニハ固ヨリ完全ノ公民權ヲ與ヘスト雖モ市制町村制第十二條ニ從テ特ニ選擧權ヲ行ハシムルモノトス蓋本制ニ定ムル要件中納稅額ノ制限ヲ設クル所以ハ市町村ヲ以テ其盛衰ニ利害ノ關係ヲ有セサル無智無産ノ小民ニ放任スルコトヲ欲セサルカ爲メナリ然レモ本制ニハ二級若クハ三級選擧法ヲ行フニ依テ幸ニ小民ノ多數ヲ以テ資産者ヲ抑壓スルノ患ヲ免ル可キカ故ニ其制限ハ之ヲ低度ニ定ムルモ妨ケナシ元來選擧權ヲ擴充シ以テ細民不滿ノ念ヲ絕タンコトヲ期スルハ此選擧法ノ他ニ優レリトスル所ナリ故ニ本制ニ於テハ二年以來町村內ニ於テ地租ヲ納ムル者ハ其制限額ヲ設ケス其他ノ納稅者ハ二圓以上トセリ而シテ其稅額直接國稅ヲ標準ト爲シ市制町村制第十二條第十三條ノ場合ノ如ク市町村稅ヲ標準トセサル所以ノモノハ現今町村費ノ賦課法タル各地方共同アリテ未タ完全ノ域ニ達セサルヲ以テ町村稅ニ依リ其標準ヲ立ツルハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テナリ

公民權ヲ得ルノ要件アル以上ハ其要件ヲ失フ者ハ又其權ヲ喪フ可シ(市制町村制第九條)即公民權ハ左ノ事件ト共ニ消滅スルモノトス

一國民籍ヲ失フ事

二公權ヲ失フ事

三市町村內ニ住居セサル事即住民權ヲ失フ事

四公費ヲ以テ救助ヲ受クル事

五獨立ヲ失フ事即一戸ヲ構フルコトヲ止メ又ハ治產ノ禁ヲ受クル事

六市町村負擔ノ分任ヲ止ムル事

七市町村内ノ所有地ヲ他人ニ讓リ又ハ直接國稅貳圓以上ヲ納メサル事

租稅滯納處分中ノ者ハ公民權ヲ喪失スルニアラスシテ停止セラルヽモノナリ其他市制町村制第九條第二項ニ記載セル場合ハ總テ之ニ同シ喪失ト停止トノ區別ハ停止ノ時ハ其權利ヲ存シテ只法律ニ定メタル事由ノ存スル間之カ執行ヲ止ムルニ在リ

公民權ヲ有スル者ハ一方ニ在テハ選擧被選擧ノ權利ヲ有シ一方ニ在テハ市町村ノ代議及行政上ノ名譽職ヲ擔任ス可キ義務ヲ負フモノトス此義務ハ渾テ法律上ノ義務ニ於ケルカ如ク強制シテ之ヲ履行セシメサル可カラス固ヨリ直接ニ之ヲ強制スルヲ得スト雖モ故ナク名譽職ヲ拒辭シ退職シ又ハ實際執務セサル者ヲ懲罰スルニ公務ニ參與スルノ權ヲ停止シ並市町村稅ヲ增課スルノ例アルハ即間接ノ裁制ヲ存スル所以ナリ(市制町村制第八條)

其裁制ヲ行フノ權ハ之ヲ市町村會ニ付與シ(住民權公民權ノ有無等ニ關スル爭論モ亦之ヲ市町村會ノ議決ニ任シ(市制第三十五條町村制第三十七條)之ニ關スル訴願ハ參事會ノ議決ニ付シ行政裁判所ニ出訴スルヲ許シテ以テ其權利ヲ保護スルハ皆本制大體ノ精神ヨリ出ツル所ナリ

第三款　自主ノ權

自主ノ權トハ市町村等ノ自治體ニ於テ其内部ノ事務ヲ整理スルカ爲メニ法規ヲ立ツルノ權利ヲ謂フ所謂自治ノ義ト混同ス可カラス自治トハ國ノ法律ニ遵依シ名譽職ヲ以テ事務ヲ處理スルヲ謂フ元來法規ヲ立ツルハ國權ニ屬スルモノナリト雖モ或ル範圍内ニ於テ之ヲ自治區ニ付與スル所以ノモノハ一國ノ立法權ヲ以テ周ク地方ノ情況ヲ酌量シ其特殊ノ需要ニ應スルコト能ハサルニ因ル固ヨリ市町村ノ法規ハ其市町村ノ區域内ニ限リ且國ノ法律ヲ以テ其自主權ニ任シタル事件ニ限リ效力アルモノトス其委任ノ範圍ノ如キハ古來ノ沿革及人民政治上ノ敎育ノ度ニ伴隨ス可キモノニシテ其範圍ノ廣狹ニ依テ利害ノ分ルヽ所立法官タル者最慎マサル可カラス今本邦各地方ノ情況ヲ裁酌シ自主ノ權ヲ適實ニ施行ス可キノ望ナキモノハ法律ヲ以テ之ヲ規定シ或ハ法律ヲ以テ模範ヲ示シ猶地方ノ情況ニ依リ自主ノ權ヲ以テ之ヲ增減斟酌スルヲ許サントス

市町村ノ自主ノ權ヲ以テ設クル所ノ法規ニ條例及規則ノ別アリ規則トハ市町村ノ營造物(瓦斯局、水道、病院ノ類)ノ組織及其使用法ヲ規定スルモノヲ謂ヒ條例トハ市町村ノ組織又ハ市町村ト其住民トノ關係即市町村ノ組織中ニ在テ權利義務ヲ規定スルモノヲ謂フ其法律命令ニ抵觸スルヲ得サルハ二者共ニ相同シ但條例ニ在テハ此外猶制限アリ即法律ニ明文ヲ掲ケテ特例ヲ設クルコトヲ許シ或ハ法律ノ明條ナクシテ自主ノ權ヲ許シタル場合ニ限ルモノトス明文ヲ以テ條例ヲ設クルコトヲ許シタル場合ヲ列擧スレハ市制ニ在テハ第十一條第十四條、第四十九條、第六十一條、第六十九條、第七十三條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第百二條、第百十三條、町村制ニ在テハ第十一條、第十四條、第三十一條、第五十二條、第五十六條、第六十五條、第七十四條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第百二條、第百十四條トス其他本制ニ於テ條例ト謂ハスシテ條例ニ均シキ規定ヲ許シタル場合モ亦少カラス其條例ト明言セサル所以ハ專ラ許可ヲ要セサルニ在リ(市制第四十條、第四十八條、第六十條、町村制第四十二條、第五十條、第六十四條)

條例規則ヲ新設改正スルハ市町村會之ヲ議決シ(市制第三十一條第一、町村制第三十三條第一)市制第百二十一條、第一及第百二十三條第一、町村制第百二十五條第一及第百二十七條第一ニ依リ許可ヲ受ク可キモノトス但町村制第三十一條及第百十四條ニ於テハ特例トシテ之ヲ郡參事會ノ議決ニ委任セリ是町村會ニ於テ此議決ヲ爲スヲ得ス又其議決ノ偏頗ニ失スルノ恐アルヲ以テナリ又本制施行ノ當初未タ市町村會ヲ召集セサル間ニ於テ條例ヲ以テ規定ス可キ事項ノ處分法ハ市制第百二十八條及町村制第百三十一條ニ依ル其他條例規則ヲ論セス公布ヲ竢テ初メテ他人ニ對シテ效力ヲ有スルハ一般ノ法理ニ照シテ疑ナキ所ナリ

市制町村制第二章　市會町村會

市町村ハ法人タル者ナレハ之ニ代テ思想ヲ發露シ之ニ代テ業務ヲ行フ所ノ機關ナカル可カラス其機關ニ代議ノ機關ト行政ノ機關トノ二者アリ

代議ノ機關トハ即市會町村會ニシテ其沿革ノ詳ナルハ今姑ク措キ往時町村ノ寄合ト稱セシモノニ起リ維新後ニ至テ府

縣會ト同ク各地方ニ町村會ヲ開キタリ然レトモ其法律ヲ以テ制定シタルハ即明治十三年ノ區町村會法ヲ創始トシ其後明治十七年ノ改正ヲ經テ今日ニ及ヘリ然レトモ其法律ハ會議ノ大則ヲ定メタルニ過キスシテ餘ハ之ヲ各地方ノ適宜定ムル所ニ任セタリ又全國ノ町村盡ク之ヲ開設スルニ非ス小町村ノ如キ會議ヲ設ケサルモ亦少シトセス今之ヲ改メテ會議ノ規則ヲ制定スト雖モ猶多少ノ酌量ヲ地方ニ任セ且小町村ノ如キハ代議會ヲ設ケサルヲ許シ代ブルニ選擧人ノ總會ヲ以テセリ

第一款　組織及選擧

代議機關ハ完全ナル權利ヲ有セル市町村民ノ選擧ニ出ツルモノトス其組織ノ方法ニ至テハ外國ノ例ヲ參考スルニ各多少ノ異同アリ蓋國ノ情況ニ適合スル完備ノ法ヲ立ツルハ易カラサル所ナリト雖モ今古來ノ沿革時勢人情ヲ考察シ傍ラ外國ノ例ヲ參酌シテ以テ其宜ヲ制定ス其要點左ノ如シ

一　選擧權

選擧權ハ素ヨリ完全ナル權利ヲ有スル公民ニ限リテ之ヲ有ス可シ然ルニ此權利ヲ擴張シ特例トシテ之ヲ公民ナラサル者ニ與フルコトアリ(市制町村制第十二條)是其人ノ利害ニ關スル所最厚ク且市町村稅負擔ノ最重キカ故ナリ此點ハ上ニ之ヲ詳述セリ

二　被選擧權

被選擧權ハ選擧權ヲ有スル者ニ限リテ之ヲ有ス可シト雖モ其市町村ノ公民ニ非サル者ニ至テハ假令選擧權ヲ有スルモ被選擧權ヲ有セス其他被選擧權ノ要件ヲ選擧權ノ要件ニ同クシテ別ニ之カ制限ヲ設ケサルハ適任ノ人物ヲ選擇スルノ區域ヲ徒ニ減縮セサランカ爲メナリ被選擧權ヲ與ヘサル制限ハ或ハ外國ノ例ヲ參酌シテ之ヲ取ルモノアリ或ハ地方ノ情況ニ照シテ已ムヲ得サルモノアリ又本制ニ於テハ無給ノ市町村吏員ニ被選擧權ヲ與ヘタリ市町村ノ行政事務ヲ掌ル名譽職ヲ擔任シ公共事務ニ從事スル者ヲ代議會ニ加ルヲ許スハ穩當ナラサルカ如シト雖モ地方ニ依リテハ多ク適任ノ人ヲ得可カラサルヲ以テナリ行政ト代議ト最利害ノ抵觸シ易キ場合ニ關シテハ市制第三十八條第四十三條第六十六條

第百十二條町村制第四十條第四十五條第百十三條等ニ於テ豫メ之ニ處スルノ法ヲ設ケタリ

三　選擧等級

本制ニ於テハ納稅額ニ依テ選擧人ノ等級ヲ立テ選擧權ヲ以テ市町村稅負擔ノ輕重ニ伴隨セシム蓋名譽職ニ任スルハ町村公民ノ輕カラサル義務ナレハ資產アル者ニ非サレハ之ニ任スルコト能ハス又其稅額ノ多寡ハ姑ク之ヲ論セサルモ其專ヲ自治ノ義務ヲ負擔スル者ニ相當ノ權力ヲ有セシムルハ固ヨリ當然ノ理ナリ今等級選擧法ヲ以テ常例トセルハ即此要旨ニ外ナラス等級選擧ノ例ハ本邦ニ於テハ創始ニ屬スト雖モ之ヲ外國ノ實例ニ照スニ明ニ其良結果アルヲ徵スルニ足ル本制被選擧權ノ資格ヲ廣クシテ而シテ其流弊ナキヲ信スル所以ノモノハ即此選擧法ニ依テ以テ細民ノ多數ニ制セラルヽノ弊ヲ防クニ足ルヘキヲ以テナリ

各地方ノ狀況ヲ見ルニ都鄙ニ依テ貧富ヲ異ニシ地形ニ依テ產業ニ別アリ故ニ各地ニ通スル一定ノ稅額ヲ設ケテ等級ヲ分ツコトヲ得ス又單ニ土地ノ所有ヲ以テ選擧權ノ標準トスコトヲ得ス是ヲ以テ等級法ヲ立テント欲スルニハ市町村內ニ於テ徵收スル市町村稅ノ總額ヲ標準トシ各自納稅額ノ多寡ニ依テ其順序ヲ定メ等級ヲ立ツルノ外他ニ良法アルヲ知ラス然ルニ市ハ通シテ三級トシ町村ハ單ニ二級トセルハ市民ハ戶口多ク貧富ノ階級アルコト町村民ノ等差少キカ如キニ非サルヲ以テナリ(市制町村制第十三條)但町村ニシテ特別ノ事情アルモノアリ例ヘハ選擧人寡少ニシテ其稅額ノ等差モ亦少ク或ハ一二ノ納稅者アリテ非常ニ多額ノ稅ヲ納ムルカ或ハ大町村ニ於テ其納稅者ノ等差樣メテ甚キノ類ニシテ二級選擧法ヲ適當トセサル場合モアル可シ此場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ三級選擧法ヲ設クルコトアル可ク或ハ等級ヲ設ケス或ハ更ニ他ノ方法ヲ立ツルコトヲ得セシメントス尤二級若クハ三級選擧法ヲ以テ常例ト爲スカ故ニ不得已ノ事情アリテ許可ヲ受クルニ非サレハ此特例ヲ設クルコトヲ得サル可シ

被選擧人ハ其區內級內ノ者ニ限ラスト爲スハ(市制第十三條第十四條町村制第十三條)市町村會ノ議員ハ全市町村ノ代表者タルノ原則ヨリ出ツルモノニシテ是亦實際ノ便宜ナルスル所ナリ

四　選擧ノ手續

選擧ノ事務タル其關スル所輕カラサルヲ以テ其細則ニ至ルマテ法律ヲ以テ之ヲ規定スルヲ要ス其單ニ手續ニ屬スル事項ト雖モ力メテ法律ニ之ヲ制定スル所以ノモノハ選擧ノ公平確實ナルコトヲ保シ行政廳ノ干涉ヲ防キ或ハ干涉ノ疑ヲ避ケンカ爲メナリ其頃序大略左ノ如シ

選擧ハ通例三年毎ニ之ヲ行フ之ヲ定期選擧トシ議員ノ半數ヲ改選ス其半數ヲ改選スルハ事務ニ熟練セル議員ヲ存續セシメンカ爲メナリ但解散ノ場合ハ此ノ如クスルヲ得ス又此法律施行ノ當初ニ於テ選擧セラレタル議員ハ初回ノ改選ニ方リ抽籤ヲ以テ半數ヲ退任セシムルニ依リ其半數ハ三年間在職スルモノトス若シ議員任期中ニ死亡シ若クハ退職スルトキハ直ニ補闕員ヲ選擧シ前任者ノ任期ヲ襲カシメサル可カラス之ヲ補闕選擧トス然レトモ屢選擧ヲ行フトキハ其煩ニ堪サルカ故ニ補闕選擧ハ定期選擧ヲ待テ之ト同時ニ行フヲ通例トス假令一二ノ闕員アルモ事務ニ支障ナカルヘキヲ以テナリ然レトモ若シ多數ノ議員退任スル等已ムヲ得ス補闕員ヲ選擧スルノ必要アルトキハ市制町村制第十七條ニ於テ之レカ便法ヲ設ク

選擧ヲ爲スノ準備ニ屬スル事ハ之ヲ行政機關即町村長若クハ市長及市參事會ニ委任セリ而シテ其事務ハ選擧ノ基礎タル選擧名簿ヲ調製スルヲ以テ第一トス本制ハ所謂永續名簿ノ法ニ依ラス選擧ヲ行フ毎ニ名簿ヲ新ニスルノ法ヲ取レリ(市制町村制第十八條)其調製シタル名簿ハ選擧前數日間關係者ノ縱覽ニ供シ異議アル者ハ市町村長ニ申立テ又ハ訴願若クハ行政訴訟ノ手續(市制第三十五條町村制第三十七條)ヲ以テ誤ヲ正ス可キ便利ヲ與ヘタリ此名簿ノ調製ハ選擧ヲ數日前ニ終結ス可キカ故ニ其結了ノ時ニ行ヒタル裁決ハ之ヲ執行ス可シト雖モ各訴願ノ確定終局ニ至ル迄往往其日ヲ曠クスルヲ得ス選擧ノ期日ニ至レハ其訴願ニ拘ラス之ヲ執行ス若シ名簿ニ錯誤アルカ爲メ選擧ノ無效ニ歸スルコトアレハ更ニ之ヲ申立ツルコトヲ得可シ又被選擧人當選ヲ辭シ或ハ選擧ヲ無效ナリト斷定セラレタル時ト雖モ更ニ名簿ヲ調製スルヲ要セス判決ニ準據シテ舊名簿ヲ訂正シタル上之ヲ用フルモノトシ之カ爲メニ更ニ關係人ノ縱覽ニ供シテ正誤申立ノ時間ヲ與フルニアラス唯名簿全體ノ不正ナルカ爲メ全選擧ヲ無效ナリトナシタル時ニ至テハ新簿ヲ調製スルコト已ムヲ得サルナリ

選擧ノ期日ハ町村長市參事會之ヲ定ム本制ニ據レハ選擧人ヲ召喚スルニハ公告ヲ以テ足レリトスト雖モ實際市町村ノ便宜ニ依リ各選擧人ニ對シ特ニ召集狀ヲ送付スルコトアルモ妨ケナシ其他投票時間ヲ定ムルハ市長町村長ニ任シタルヲ以テ市長町村長ハ選擧人ノ多寡及地形等ヲ參酌シテ之ヲ定ム可シ

選擧事務ノ統轄ハ之ヲ自治ノ吏員ニ委任シ(市制町村制第二十條)監督官廳ハ特ニ之カ監督ヲ爲ス可キノミ(市制第二十八條町村制第二十九條)而シテ選擧掛ハ集議體ニ編制セリ選擧掛ハ選擧人代理者ノ許否投票ノ效力等直ニ之ヲ裁決セサルヲ得スシテ此ノ如キハ一個ノ吏員ニ委任スルコトヲ得サルヲ以テナリ固ヨリ選擧掛ニ於テ右等ノ事件ヲ議決スト雖モ後ニ至リ選擧ノ無效ヲ申立ル者アルトキハ之ヲ裁決スル官廳ニ於テハ右議決ニ拘ラス至當ノ裁決ヲ爲ス可キモノトス

選擧會ハ選擧人ニ取リテハ公會ナリト雖モ(市制町村制第二十一條)其選擧ハ全ク秘密投票ノ法ヲ以テス即選擧掛ハ勿論其他何人ニテモ投票者ニ於テ何人ヲ選擧セントスルカヲ知ラシメサルモノトス故ニ選擧ノ際ハ投票ヲ用ヒ票中ニ投票者ノ氏名ヲ記載セス又之ニ調印セシメス封緘シテ之ヲ差出サシム(市制町村制第二十二條第二十三條)元來公選擧ト秘選擧トノ別アリ其利害得失ニ就テハ互ニ論アリト雖モ今特ニ地方自治區ノ選擧ニ就テ之ヲ考フルニ町村ノ事情タル居民常ニ相密接スルモノナレハ選擧ノ自由ヲ妨ケサランカ爲メニ專ロ秘密選擧ヲ以テ良法ト爲ス而シテ選擧權ヲ有セサル者ノ投票又ハ重複ノ投票ヲ防カンカ爲メニハ選擧人自ラ出頭スルノ例アリ(市制町村制第二十四條)又名簿ニ照シテ之ヲ受クルノ法(市制町村制第二十二條)アリ選擧人自ラ出頭シテ選擧ヲ行フノ例ヲ設クルハ毫モ選擧ノ利害ニ關セサル單ノ勸告ニ依テ之ニ投票ヲ託セントスルカ如キ者ヲ排除シ選擧ノ自由ヲ保護スル所以ナリ但市制町村制第二十四條第二項ニ掲クルモノハ已ムヲ得サルノ特例ナリトス選擧ヲ行フニ下級ヲ先キニシ上級ヲ後ニスルハ(市制町村制第十九條)下級ノ選擧人ヲシテ人ヲ擇フニ充分ノ區域ヲ得セシメンカ爲メナリ而シテ先ツ下級ノ選擧ヲ了ルノ後ニ上級ノ選擧ニ着手セシム可シ是一人ニシテ數級ノ選ニ當ルコトヲ防キ且上級ノ者ヲシテ下級ノ選擧ニ當ラサル候補者ヲ選擇スルコトヲ得セシムルモノナリ選擧ノ結果ヲ證スルカ爲メニ選擧錄ヲ製スルノ例(市制第二十六條町村制第二十七條)ア

ルハ選擧ノ效力ヲ議決スル證憑ヲ備ヘンカ爲メナリ

當選ノ認定ハ議員ノ選擧ニハ比較多數ノ法ヲ取リ(市制第二十五條町村制第二十六條)市町村吏員ノ選擧ニハ過半數ノ法ヲ用フ(市制第四十四條、町村制第四十六條)元來總テ過半數ヲ以テスルヲ正則トスレトモ事宜ヲ計リテ便法ヲ設ケタルナリ

選擧ノ效力ニ關シ異議ヲ申立ツルノ權利ハ選擧人及市長町村長ノ外公益上ヨリシテ其效力ヲ監査スルカ爲メニ郡長及府縣知事モ亦此權利ヲ有ス選擧人及市長町村長ノ異議アルモノハ市町村會ノ裁決ニ任シ郡長府縣知事ノ異議アルモノハ參事會ノ裁決ニ任シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノトス是實ニ利害上ノ爭ニアラスシテ權利ノ消長ニ關スレハナリ(市制第二十八條、第三十五條、町村制第二十九條、第三十七條)

一旦選擧ヲ有效ト定メ或ハ其效力ニ異議ナクシテ經過シタル後ト雖モ當選者被選擧權ノ要件ヲ選擧ノ當時ニ有セサリシコトヲ發覺シ或ハ其當時有シタル要件ヲ失フコトアル可シ斯ル場合ニ於テハ固ヨリ市制第二十九條、町村制第三十條ノ結果ヲ生ス可シ其裁決ノ手續ハ市制第三十五條、町村制第三十七條ニ據ル

五　名譽職

市制町村制第十六條第二十條第七十五條ニ依リ名譽職ヲ置クハ本制大體ノ原則ニ出ツルナリ

第二款　職務權限及處務規程

市會町村會ハ市町村ノ代表者ナリ其權限ハ市町村ノ事務ニ止マリ其他ノ事務ハ從來ノ委任ニ依リ又ハ將來法律勅令ニ依テ特ニ委任スル事項ニ限リテ參與スルモノトス若シ大政ニ論及スル等凡ソ此界限ヲ踰ユルモノハ則法律ニ悖戻スルモノナレハ法律上ノ權力ヲ以テ(市制第六十四條第二項第一號百二十條、町村制第六十八條第二項第一號百二十四條)之ヲ制セサル可カラス其他市制第百十八條、第百十九條、町村制第百二十二條、第百二十三條ハ皆市會町村會ノ怠慢ヲ防制スルノ權力ナリトス

市會町村會ハ代表機關ト爲スト雖モ(市制第三十條、町村制第三十二條)外部ニ對シテ市町村ヲ代表スルハ行政機關ノ任トス(市制第六十四條第二項第七、町村制第六十八條第二項第七)即市會町村會ハ專ラ行政機關ニ對シテ市町村ヲ代表スルモノナリ市制第三十一條以下及町村制第三十三條以下ニ列職シタル職務ハ皆此地位ニ依テ生スルモノトス

一　市會町村會ハ條例規則歲計豫算決算報告市町村稅賦課法及財産管理上ノ重要事件等ヲ議決ス市制第百十八條、第百十九條、町村制第百二十二條、第百二十三條ノ場合ヲ除クノ外行政機關ハ議會ノ議決ニ依テ方針ヲ取ラサルヲ得ス但其議決上司ノ許可ヲ得可キモノハ市制第百二十一條ヨリ第百二十三條ニ至リ及町村制第百二十五條ヨリ第百二十七條ニ至ル各條ニ依ル

二　市會町村會ノ執行ス可キ選擧ハ職セテ市制第三十七條、第五十一條、第五十八條、第六十條、第六十一條及町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條ニ在リ

三　市會町村會ハ市町村ノ行務ヲ檢査スルノ權利ヲ有ス其監査ノ方法ハ書類及計算書ヲ檢閲シ町村長若クハ市參事會ニ對シテ事務報告ヲ要求スルノ類是ナリ此權利ニ對シテ町村長若クハ市參事會ハ之ニ應スルノ義務アリ若シ市會町村會ニ於テ意見アルトキハ之ヲ官廳ニ具狀スルコトヲ得可シ

四　市會町村會ニ於テ官廳ノ諮問ヲ受クルトキハ之ニ對シテ意見ヲ陳述スルハ其義務ナリトス

五　其他市會町村會ハ或場合ニ於テ公法上ノ爭論ニ付始審ノ裁決ヲ爲スノ權アリ(市制第三十五條、町村制第三十七條)

市會町村會ノ議員ハ其職務ヲ執行スルニ當テハ法令ヲ遵奉シ其範圍内ニ於テ不羈ノ精神ヲ以テ事ヲ評議ス可シ決シテ

選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可キモノニアラス(市制第三十六條、町村制第三十八條)是固ヨリ法理ニ於テ明ナル所ナリト雖モ議員ノ職務ヲ以テ選舉人ノ委任ニ出ツルモノヽ如ク視做シ議員ハ選舉人ノ示シタル條件ヲ恪遵スヘキモノト爲スノ誤ヲ來サヽランカ爲メニ特ニ其明文ヲ掲クルナリ

處務規程ハ市制第三十七條ヨリ第四十七條ニ至リ町村制第三十九條ヨリ第四十九條ニ至ルノ各條ニ於テ之ヲ設ク此條規ハ概子説明ヲ要セサル可シ只茲ニ一言スヘキハ町村會ハ通例町村長若クハ其代理者タル助役ヲ以テ議長トシ(町村制第三十九條)市會ハ別ニ互選シテ議長ヲ置ク(市制第三十七條)此區別ヲ爲シタル所以ハ町村ニ在テハ町村長及助役ノ外事務ニ熟練スル者多カラスシテ殊ニ議長ノ任ニ堪フル者ハ概子少ク且一人一個ノ資任ヲ以テ行政ノ全體ニ任スル場合ニ於テハ成ル可ク議員ト密接ノ關係ヲ有セシムルコト必要ナレハナリ町村制第四十四條ノ場合ヲ除クノ外町村長及助役ニシテ議決權ヲ有スルハ其議員ヲ兼ヌル時ニ限ル可シ

市制町村制第三章　市町村行政

代議ト行政トハ各別箇ノ機關ヲ設ケサル可カラサルハ已ニ之ヲ記述シタルカ如シ而シテ町村ノ行政ハ之ヲ町村長一人ニ任シ補助員即助役一名若クハ數名ヲ置キ以テ之ヲ補助セシム市ニ於テハ之ヲ市參事會ニ任セリ市長ハ其會員ノ一人ニシテ其會ノ事務ヲ統理シ外部ニ對シテ參事會ヲ代表スルノ權ヲ有ス即町村ハ特任制ヲ取リ市ハ集議制ニ依ルモノナリ抑地方ノ自治行政ニハ集議制ヲ以テスルニ若クモノアラス然ルニ獨リ市ニ施シテ之ヲ町村ニ適用セサル所以ノモノハ集議制ハ特任制ニ比シ頗ル錯綜ニ涉ルノ弊アリ而シテ小町村ノ行政ハ力メテ簡易ノ編制ニ依ルヲ要スルヲ以テナリ且集議制ヲ行ハント欲スレハ名譽職ヲ以テ行政ニ參與ス可キ適任者ヲ多ク求メサルヲ得ス而シテ此事タル今日ノ情況ニテハ都會ノ地ニ非サレハ望ム可カラサレハナリ大町村ニ於テモ亦此集議制ヲ施行ス可キ必要アリヤ否又之ヲ施行シ得可キヤ否ハ姑ク將來ノ變遷ヲ俟テ知ル可キナリ

本制市町村行政ノ條規ハ力メテ活用ノ區域ヲ廣クシ以テ各地方ノ情況ヲ斟酌スルノ餘地アラシメンコトヲ務メタリ

町村長、助役、市參事會及市長ハ皆是市町村ノ機關ニシテ國ニ直隸スル機關ニアラス是ヲ以テ此機關ニ屬スル吏員ハ總テ市町村自ラ之ヲ選任スルヲ當然トス是各國ノ通則ニシテ其效益亦實際ノ經驗ニ著ハルヽ所ナレハ本制モ亦之ニ倣ヘリ(市制第五十一條、第五十八條、第五十九條、第六十條、第六十一條、町村制第五十三條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十五條)然レトモ市町村ハ又國ノ一部分ニシテ市町村ノ行政ハ一般ノ施政ニ關係ヲ及ホシ從テ國家ノ利害ニ關セサルコトナシ且市町村及其吏員ニ委任スルニ國政ニ屬スル事務ヲ以テスルコトアリ市制第七十四條、町村制第六十九條ノ如キ是ナリ市長ノ選任ハ市會ヨリ候補者ヲ推薦シ裁可ヲ求ムルノ例アルカ如キモ亦此理由アルニ依ル(市制第五十條)但其選任ノ例ヲ異ニスト雖モ市長ハ均ク市ノ機關ニシテ一ノ市吏員ナリ法律上ヨリ其地位ヲ論スルトキハ一面ハ市ニ屬シ一面ハ國ニ隸ス猶町村長ノ町村ト國トニ兩屬スルカコトシ此資格ハ選任ノ例ヲ異ニスルカ爲メニ變更スルコトナシ其他樞要ノ市町村吏員即町村長、市町村助役、收入役ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケシメ其認可ヲ得サルトキハ其選擧ハ無效ニ屬スルカ故ニ(市制第五十二條第五十八條町村制自第五十九條至第六十一條)國ノ治安ヲ保持スル上ニ就テハ十分ノ權力ヲ有スルヲ得可シ又之ヲ認可スルニ方テ徒ニ其活動ヲ牽制セサランコトヲ欲シ認可ヲ拒ムニ一定ノ理由ヲ示サス其地ノ事情ト人物トヲ參酌シテ其認可不認可ヲ決スルヲ得セシメントス其裁決ノ權ハ專ラ地方分權ノ原則ニ準シ之ヲ郡長又ハ府縣知事ニ委任セリ然レトモ其公平ヲ失スルノ弊ヲ防カンカ爲メ若クハ偏私ノ誹ヲ免レンカ爲メニ其認可ヲ拒マントスルトキハ郡參事會又ハ府縣參事會ノ同意ヲ得ルヲ必要ト爲セリ又已ニ官廳ノ認可ヲ受ケシムルノ法ヲ設クルトキハ其結局ノ處分法ナカル可カラス即其選擧遂ニ適任ノ人ヲ得スシテ已ムヲ得サルトキハ官廳ヨリ其代理者ヲ特選シ若クハ官吏ヲ派遣シテ市町村ノ事務ヲ執ラシムルコトヲ得可シ以上ノ例規ニ依リ市町村吏員ノ選擧ヲ以テ之ヲ市町村ニ委任スルモ國ノ治安統一ヲ保ツコトニ於テ毫フ可キノ弊ナキヲ信ス

町村ニ於テ吏員ヲ選任スルノ權ハ之ヲ町村會若クハ總會ニ委任シ(町村制第五十三條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條)市ニ於テハ之ヲ市參事會ニ委任シ參事會員委員及收入役ノ選定ニ限リ之ヲ市會ニ委任セリ(市制第五十一條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條)

市町村ノ吏員ヲ選任スルニ付テハ固ヨリ法律上ノ要件ヲ恪守セサル可カラス其要件ハ市制第五十五條第五十八條第六

十條第六十一條町村制第五十三條第五十六條第六十四條第六十五條ニ在リ其他ノ制限ハ刑法等他ノ法律ニ存ス

其他市町村吏員組織ノ大要ハ法律中ニ定ムルモノアリト雖モ各地方情況ヲ異ニスルヲ以テ市町村ノ自主權ニ廣濶ナル餘地ヲ與フルコトヲ得可ク又之ヲ與フルヲ要スルナリ

本制ニ定ムル市町村吏員ハ左ノ如シ

一　町村長

町村長ハ町村ノ統轄者ナリ即町村ノ名ヲ以テ委任ノ強制權ヲ執行スル者トス其強制權ノ幾部分ハ既ニ町村制中ニ制定セリト雖モ(例ヘハ町村制第百二條ノ類)多クハ別法ヲ以テ之ヲ設ケサル可カラス其他町村長ハ町村ノ事務ヲ管理スルノ任アリ故ニ一方ニ在テハ町村ニ對シテ其執行ノ責任ヲ帶ヒ一方ニ在テハ法律ノ範圍內並官廳ヨリ其權限內ニテ發シタル命令ノ範圍內ニ於テ百般ノ事項ニ渉リ町村ノ幸福ヲ增進シ安寧ヲ保護スルヲ務メトス而シテ町村長ニ於テ町村會ノ議決ニ依ラスシテ之ヲ施行スルコト能ハサル而已ナラス猶其議事ヲ準備シ議決ヲ執行スルノ義務アリ故ニ町村會ニ於テ法律ニ背戻スルコトナク其權限內ニテ議決シタル事項ハ假令町村ノ爲メニ不便アリト認ムルモ町村長ハ之ヲ執行セサルヲ得ス唯町村長其議決ニ對シテ大ニ意見ヲ異ニシ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村制第六十八條第二項第一ニ從テ議決ノ執行ヲ停止スルノ權ヲ有ス即之ヲ停止シテ郡參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得可シ其法律命令ニ背キ又ハ權限ヲ越ユルモノモ亦之ニ同シ尤僅ニ利害ノ見込ヲ異ニシタルノミニテハ未タ以テ之ヲ停止スルノ理由ト爲スニ足ラス必公益ヲ損害ストムルニ限ル可シ濫公益ノ爲メニ町村長ヲシテ此停止權ヲ有セシムルハ或ハ之ヲ濫用スルノ恐ナキニ非スト雖モ今日町村治ノ未タ整備セサルヨリ考フルトキハ姑ク此例ヲ存スルノ已ムヲ得サルモノアリ又監督官廳ヨリ町村長ニ停止ヲ命スルハ國ノ利害ニ關シ已ムヲ得サルモノニシテ監督官廳モ亦常ニ町村會議決ノ報告ヲ徵シテ其注意ヲ怠ラサル可シ其停止權ヲ濫用スルノ弊ハ參事會ノ參與アルヲ以テ自ラ之ヲ防制スルコトヲ得可シ其行政裁判所ヘ出訴スルノ權ヲ法律勅令ニ背戻シ及權限ヲ踰越スルノ場合ニ限リタルハ行政裁判所ハ專ラ法律上ノ爭論ヲ判決ス可キモノニシテ公益ニ關スル事ハ一ニ利害ノ爭ニ過キサレハナリ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴シ若クハ內務大臣ニ訴願スルヲ得可キコト町村制第百十九條及第百二十條ノ規定ニ依テ明ナリ

其他町村長ノ町村事務ハ町村制第六十八條第二項第二ヨリ第九ニ列記シタル條件ニ依テ明ナリ其各條件ニ關シテハ茲ニ說明ヲ要セサル可シ町村會ノ定額豫算ニ關スル職權ニ依テ町村長ノ權利ニ制限ヲ加フル所以ハ第四章ニ於テ之ヲ說明ス可シ又町村會ノ議決町村制第百二十五條以下ニ從ヒ官ノ許可ヲ受ク可キモノハ之ヲ受クルノ前ニ施行スルヲ得サルコト固ヨリ言ヲ俟タス且時宜ニ依リテハ監督官廳ノ懲戒權ヲ以テ之ヲ強制スルヲ得可シ

町村制第六十九條ニ列記シタル事務ニ關シテハ町村長ハ全ク前述ノ場合ト異ナリタル地位ヲ有スルモノトス已ニ前章ニ記述シタル如ク國ハ町村ヲシテ國政ニ關スル事務ニ參與セシムルコトアル可シ之ヲ參與セシムルノ法二アリ國政ニ屬スル事務ヲ以テ町村ニ委任シ其自治權ヲ以テ之ヲ處辨セシムルモノアリ又其事務ヲ町村ニ委任セスシテ直接ニ町村長其他町村ノ吏員ヲ指定シテ之ヲ委任スルモノアリ此區別ノ緊要ナル點ハ第一ノ例ニ據レハ斯ル事件ノ議決モ亦町村會ノ職權ニ歸シ町村長若クハ當該吏員ハ此事件ニ關シ町村會ニ對シテ責任ヲ帶ヒ且常ニ其監視ヲ受クルモノトシ第二ノ例ニ據レハ町村長ハ直接ニ官命ニ依テ事務ニ從事シ町村會ト相關セス此事務ニ關スル指揮命令ハ直ニ所屬官廳ヨリ之ヲ受ケ特ニ其官廳ニ對シテ責任ヲ帶フルモノトス元來甲乙二例ヲ比較スルトキハ互ニ得失アリト雖モ今日ノ情況ニ照シ事務ノ擧行ヲ期スルニ付テハ乙法ヲ採リテ之ヲ第六十九條ニ明言セリ但細則ニ渉ルモノハ別法ニ譲ラントス且此乙法ヲ行フニ至テハ其委任ノ職務ニ付キ生スル所ノ費用ハ何レノ負擔ナルカヲ明言セサルヲ得ス依テ同條末項ニ之ヲ掲ク其他町村固有ノ事務ニ要スル費用ハ町村ノ自ラ負擔ス可キコト言ヲ俟クスシテ明ナリ

二　町村助役

助役ハ各町村ニ一名ヲ置クヲ通例トス然レトモ各地方ノ需要ニ應シテ或ハ之ヲ增加ス可キコトアリ之ヲ町村條例ノ定

ムル所ニ任セリ(町村制第五十二條)助役ノ町村長ニ屬スルハ共ニ集議體ヲ爲スニアラス町村役場ノ事務ハ皆町村長ノ專決ニ在リ其責任モ亦町村長一人ニ屬ス故ニ助役ハ其補助員ニシテ一ニ町村長ノ指揮ニ從ヒ之ヲ輔佐スルモノトス唯町村長故障アリテ之ヲ代理スル場合及委任ヲ受ケテ事務ヲ專任スル場合ニ限リ自ラ其責任ヲ負フモノトス但事務ヲ委任スルニハ町村會ノ同意ヲ得ルヲ要シ町村制第七十條其町村長ニ委任ノ事務ニ係ルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クルヲ要ス(町村制第六十九條)

三　市參事會

市ニ於テハ市長及助役ヲ盟クコト町村ノ制ニ同クシテ別ニ名譽職參事會員若干名ヲ置キ合セテ集議體ヲ組織シ之ヲ市參事會トス是町村ノ制ト異ナル所ナリ助役及名譽職參事會員ノ定員ハ市制第四十九條ニ之ヲ定ムト雖モ市ノ情況ニ依リ增減ヲ要スルトキハ市條例ヲ以テ之ヲ增減スルコトヲ得可シ(市制第四十九條)市長ハ一箇ノ決議權ヲ有シ員數相半スル時ハ專決スルコトヲ得此集議會ノ職務ハ全ク町村長ノ職務ト其例ヲ同クス(市制第六十四條)其詳細ノ說明ハ茲ニ要セサル可シ其處務規程ハ本制ニ於テ多ク設クルヲ要セス(市制自第六十五條至第六十八條)其細目ニ至テハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ムルコトアル可シ

市長ハ市ノ固有ノ事務ヲ處理スルト委任ノ事務ヲ處理スルト各別段ノ地位ヲ占ムルモノトス即チ市ノ固有ノ事務ニ就テハ參事會ノ議事ヲ統理シ之ヲ準備シ議決ヲ執行シ時ニ臨テハ議決ノ執行ヲ停止シ(市制第六十五條)外部ニ對シテ市ヲ代表スルモノニシテ唯急施ヲ要スル場合ニ限リ議決ヲ俟タスシテ專行スルコトヲ得可シ(市制第六十八條)然レトモ市制第七十四條ニ列擧スル委任ノ事務ニ就テハ參事會ノ參與ヲ受ケスシテ專行スルモノトス此區別アルハ即前述ノ乙法ヲ取リ之ヲ市ニ委任セスシテ特ニ市長ニ委任シタルニ依ル

市助役及其他ノ參事會員ハ會中ニ在テハ市長ト同一ノ議權ヲ有スト雖モ議事外ニ在テハ町村助役ノ町村長ニ於ケルト同ク市長ニ對シテ補助員ノ地位ニ在ルモノトス(市制第六十九條第七十四條第二項)殊ニ都府ノ地ニ於テハ分業ノ必要ナル可キヲ以テ事務ヲ分テ參事會員ニ專任セシムルコト最緊要ナリトス此需要ニ應センカ爲メ本制ハ之ヲ市條例ノ適

宜定ムル所ニ讓リ(市制第六十九條第三項)以テ各地方ノ便ニ從ハントス

四　委員

委員ヲ設クルハ市町村人民ヲシテ自治ノ制ニ習熟セシメンカ爲メニ最效益アリ委員アルトキハ多數ノ公民ヲシテ市町村ノ公益ノ爲メニ力ヲ竭スコトヲ得セシメ自治ノ效用ヲ擧クルコトヲ得可シ何トナレハ市町村公民ハ特リ會議又ハ參事會ニ加ハルノミナラス委員ノ列ニ入リテ市町村ノ行政ニ參與シ之ニ依テ自ラ實務ノ經驗ヲ積ミ能ク施政ノ難易ヲ了知スルコトヲ得可シ又地方ノ事情ヲ表白スルノ機會ヲ得テ大ニ專務吏員ノ短處ヲ補フコトヲ得可シ益シ委員ハ自治ノ制ニ於テ緊要ナル地位ヲ占ムルモノニシテ本制施行ノ際委員ノ設ケヲ促シテ市町村公民ヲシテ之ニ參與セシメンコトヲ務ムヘシ委員ノ廢置ハ固ヨリ市會町村會ノ決議ニ在リ其組織及職務ハ市町村條例ノ定ムル所ニ在リト雖モ町村長及市參事會ハ正系ノ行政機關ニシテ委員ハ其一部分ニ參與スルニ過キサレハ委員ハ町村長若クハ市參事會ニ從屬シ概チ市長若クハ町村長ヲ以テ委員長ト爲シ參事會員ヲ以テ多ク之ニ加ヘ市會町村會議員モ亦成ル可ク此委員ニ列セシメンコトヲ要ス市會町村會ノ議員ニシテ行政ノ事務ニ加ハルトキハ能ク施政ノ緩急利害ヲ辨識シ行政吏員ト互ニ協同シテ事務ヲ擔任スルノ慣習ヲ生シ自ラ代議機關ト行政機關トノ軋轢ヲ防制スルコトヲ得可シ

五　區長

區域廣濶又ハ人口稠密ノ地ハ施政ノ便ヲ計ランカ爲メ之ヲ數區ニ分ツノ必要アル可シ故ニ本制ハ市町村ニ區ヲ劃設スルコトヲ許シ之ニ區長及代理者ナル行政ノ機關ヲ設置セリ此機關ハ其市町村ノ行政廳ニ隸屬スルモノニシテ其指揮命令ヲ奉シテ事務ヲ區內ニ執行スルモノトス其委任事務ノ範圍ハ土地ノ情況ト市町村行政廳ノ酌量ニ在ルモノニシテ豫メ之ヲ定メスト雖モ區長ハ名譽職ニシテ別ニ區ノ附屬員ナル者アルニアラサレハ(三府ヲ除クノ外實際此事情ヲ斟酌セサル可カラス要スルニ區ハ市町村內別ニ特立シタル一ノ自治體タルニ非ス區長モ亦其固有ノ職權アルニ非スシテ單ニ町村長市參事會ノ事務ヲ補助執行スルノ便ニ供フルニ過キス故ニ區長ハ市町村ノ機關ニシテ區ノ機關ニ非ス區ハ法人ノ權利ヲ有セス財產ヲ所有セス歲計豫算ヲ設ケス又議會若クハ其他ノ機關ヲ存スルコトナシ蓋區ヲ設クルトキハ施

政ノ周到ナルヲ得可ク、一市町村内ノ各部ニ於テ利害ノ軋轢スルヲ調和シ、市町村費ノ賦課ノ不平衡ヲ矯メ又能ク行政ノ勞費ヲ節略スルヲ得可シ要スルニ區長ヲ設クルハ更ニ自治ノ良元素ヲ市町村制中ニ加フルモノニシテ舊制ノ伍長組長等ノ例ヲ襲用セルナリ但從前ノ區内ニ存スル戸長ノ類ト混ス可カラス又區ニシテ從來固有ノ財産アル時ノ例ハ第五章ノ説明ニ詳述ス可シ

六　其他ノ市町村吏員

以上市町村吏員ノ外收入役アリ(市制第五十八條町村制第六十二條)其職掌ハ市町村有財産ト連帶シテ説明ス可シ又書記其他技術上ニ要スル吏員アリ又使丁ナル者アリ機械的ニ使用スル者トス此等ノ吏員ヲ置キ相當ノ給料ヲ與フルハ市町村ノ義務トス(市制第五十六條町村制第六十三條)

町村ニ於テハ書記其他ノ吏員ヲ置キ俸給ヲ支出スルノ義務アリト雖モ本制ハ小町村ノ爲メ一ノ便法ヲ設ケ町村長ニ一定ノ書記料ヲ給シテ其便宜ニ從ヒ書記ノ事務ヲ保擔スルヲ許サントス此便法ヲ設ケ及其書記料ノ額ヲ定ムルハ町村會ノ職權ニ在ル可キモノトス(町村制第六十三條第一項)若シ町村長ニ於テ其金額ニ不足アリト爲ストキハ町村制第七十八條ニ依リ之ヲ郡參事會ニ申出ツルコトヲ得可シ其他ノ細目ハ今之ヲ制定セス蓋書記料ヲ給與スルトキハ町村長ニ於テハ自ラ其事務費ヲ節約スルヲ得可シ監督官廳モ亦能ク是ニ注意シ公務上支障ナキ限リハ町村ニ説示シテ繁雜ヲ省キ冗費ヲ減センコトヲ務メサル可カラス要スルニ本制ハ分權ノ主義ニ依リ名譽職ヲ設ケ從テ從來ノ町村費ヲ節減センコトヲ期スト雖モ若シ市町村ニ於テ度外ノ節約ヲ行ヒ依テ公益ヲ害スルニ至ラントスルトキハ監督官廳ニ於テハ則チ之ニ干渉スルノ道アリ

市ハ勿論其他大ナル町村ニ於テハ文化ノ進ムニ從ヒ高等ノ技術員(法律顧問、土木工師、建築技師、衛生技師等ノ類)ヲ使用ス可キ必要ヲ生スルニ至ル可シ之ヲ使用スルニハ或ハ通常雇入ノ契約ヲ以テシ或ハ市町村吏員ト爲スコトアル可シ又時宜ニ依リ之ヲ有給ノ助役トシテ任用スルノ便アリ本制ハ此件ニ關シテハ全ク市町村ノ自由ニ任セントス尤督察學事等ノ爲メニ特別ノ人員ヲ置クニ付テハ別段ノ法規ヲ要ス可シト雖モ若是別法ヲ以テ定ム可キモノナリ

市町村ノ公務ニ任スル者ハ名譽職ト專務職トノ二種ニ分ツト雖モ本制ニ於テ主トシテ名譽職ヲ擴張シタル理由ハ上ニ之ヲ論述シタルカ如シ又本制ニ於テ名譽職ト爲ス可キコトヲ規定シタル場合ニ於テハ市町村ハ必之ニ遵依ス可シ決シテ有給職ト爲スヲ得ス然レトモ小町村ニ於テ名譽職ニ屬スルモノト雖モ大市町村ニ在テハ專務吏員ヲ置クヲ要スルコトアリ專務職トハ特別ノ技術若クハ學問上ノ養成ヲ要スル職務並事務繁多ニシテ本業ノ餘暇ヲ以テ無給ニテ負擔セシムルコト能ハサル職務ナリ此ノ如キ職務ハ有給吏員ト爲スヲ常例ト爲セリ此條理ノ範圍内ニ於テ市町村ハ自己ノ便宜ニ依リ有給吏員若クハ無給吏員ヲ置ク可キモノトス

今本制ニ於テハ市長市助役市町村收入役及市町村附屬員使丁ハ皆專務吏員ト爲ス可キ者トス町村長町村助役ハ名譽職ト爲スヲ原則トスト雖モ町村ノ情況ニ依テ之ヲ有給ノ專務職ト爲スヲ得セシム(町村制第五十五條第五十六條)市參事會員(市長助役ヲ除ク)委員區長ハ名譽職トス但三府ノ區長ハ有給吏員ト爲スコトアル可シ

專務吏員及名譽職吏員ハ共ニ市町村吏員ナリ本制ニ於テ其區別ヲ爲サヽルモノハ總テ此兩種ニ適用スルモノトス又市町村吏員タル者ハ其何レノ種類ニ屬スルニ拘ラス法律ニ遵據シテ所屬ノ官廳及市町村會ニ對シテ從順ナル可ク均シク懲戒法ニ服從ス可シ其懲戒ヲ行フハ町村長及市參事會(町村制第六十八條第二項第五、市制第六十四條第二項第五)及監督官廳(郡長府縣知事)ノ任トス(町村制第百二十八條市制第百二十四條)懲戒ノ罰トシテ本制ハ左ノ三種ヲ設ク

一　譴責
二　過怠金
三　解職

譴責又ハ過怠金ニ處スルハ當該吏員ノ專決ニ屬シ其處分ニ對スル訴願モ均ク當該吏員ノ裁決ニ任シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得セシム是專ラ懲戒權ノ執行ヲ嚴肅ナラシムル所以ナリ獨リ解職ノ處分ニ對シテハ大ニ保護ヲ加ヘサル可カラス(但隨時解職シ得可キ吏員ハ懲戒裁判ノ法ニ依ラス解職スルヲ得セシム)故ニ本制ハ解職ノ理由ヲ指定セルノミナラス(但行狀ヲ紊亂シ廉耻ヲ失フトハ公務上ニ止マラス私行ニ關スルコトモ含蓄スルモノナ

リ)郡參事會府縣參事會ナル集議體ノ裁決ニ任セリ(市制第百二十四條町村制第百二十八條)

專務吏員及名譽職吏員トモ職務上大率ネ同一ノ權利義務ヲ有スト雖モ深ク其性質ニ就テ考フルトキハ互ニ相異ナル所アリ專務職ヲ辭スルハ吏員ノ隨意ニ在リト雖モ名譽職ハ公民ノ義務トシテ之レニ應セサルヲ得ス其已ニ擔當シタル職務ヲ繼續スルノ義務アルト否トニ付テモ亦此差別アリ(市制第八條、第五十五條第三項、町村制第八條、第五十七條)又市制第五十六條第五十八條及町村制第五十八條、第六十二條ノ制限ノ如キハ專務吏員ニ非サレハ負擔セシムルコトヲ得ス

市制第五十九條、町村制第六十三條ニ記載シタル吏員ハ其任用ノ時此等ノ關係ヲ約定スルヲ可トス有給職ニ任用スルニ其市町村ノ公民タル者ニ限ラサルハ徒ニ選擇ノ區域ヲ減縮セサランカ爲メナリト雖モ高等ノ有給吏員ニハ其職ニ就クト同時ニ其市町村ノ公民權ヲ付與スルコト當然ナリ(市制第五十三條、第五十八條、町村制第五十六條、第二項第六十二條)專務吏員ハ一身ノ全力ヲ擧ケテ市町村ノ爲メニ盡ス可キヲ以テ相當ノ給料ヲ受クルハ元ヨリ至當ナリト雖モ名譽ノ爲メニ就職スル公民ニハ給料ヲ給セス(市制町村制第七十五條)尤市町村ノ公務ノ爲メニ要スル實費ハ之ヲ辨償セサルヲ得ス唯其名譽職ノ事務頗ル繁忙ニシテ本業ヲ妨ケラルヽトキハ多少ノ報酬ヲ與フルハ當然ナリ其額ハ固ヨリ勤勞ニ相當セサル可カラス此規則ハ町村長(町村制第五十五條第二項)ハ勿論町村助役及名譽職市參事會員ニシテ市町村事務ヲ分任スル者(市制第六十九條第二項町村制第五十五條第二項)ノ爲メニ之ヲ設ク其報酬額ハ市町村會之ヲ議定シ(市制町村制第七十五條)其額ニ關スル爭論ハ市制町村制第七十八條ニ依テ處分シ司法裁判ヲ求ムルヲ許サス

有給市町村吏員ノ財産上ノ要求ハ上ニ記載シタル理由アルニ依リ其職重ケレハ從テ其給料ニ關シテ官廳ノ干涉ヲ要スルコト多シトス尤給料額ハ元來市町村ノ自ラ定ムル所ニ任シ條例ヲ設ケテ之ヲ一定シ又ハ選任ノ前ニ方テ議會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム可シ然レトモ監督官廳ハ斯ク市町村ノ定ムル給料ヲ以テ多キニ過キ又ハ不足アリト爲ストキハ認可ヲ拒ミ所屬ノ參事會ヲシテ之ヲ斷定セシムルノ權利アリ

有給市町村吏員ニハ退隱料ヲ給スルヲ當然トス然レトモ市町村吏員ニ對シテ官吏ノ恩給令ヲ適用スルコトヲ得ス是其地位ノ異ナルノミナラス市町村吏員ハ定期ヲ以テ選任セラレ任期滿限ノ後ハ再選若クハ再任ヲ受クルニ非レハ其職ニ在ラサルヲ以テナリ若シ其吏員任期滿限後再選若クハ再任セラレサルトキハ退ニ糊口ノ道ヲ失フニ至ル可シ故ニ此結果ヲ防クニ非サレハ一方ニ在テハ有力ノ人進テ市町村ノ職ニ就クコトヲ屑シトセサル可ク一方ニ在テハ再選ニ依テ生計ヲ求ムルカ如キ輩ヲシテ常ニ市町村會ノ鼻息ヲ窺ヒ以テ公益ヲ忘レシムルコトナシトセス加フルニ市町村ノ職務ハ昇等增給ノ途少キヲ以テ其退隱料ヲ給スルハ官吏ヨリ厚クスルヲ至當トス然レトモ目下一定ノ法律ヲ以テ之ヲ定メンヨリハ寧ロ市町村ノ條例ヲ以テ之ヲ設定セシムルノ便ナルニ若カサルナリ

有給ト無給トヲ論セス凡市町村吏員ノ職務上ノ收入ハ市町村ノ負擔タルコト疑ヲ容レスト雖モ之カ明文ヲ掲クルモ亦無用ニアラサル可シ(市制町村制第八十條)

市町村ト吏員トノ間ニ起ル給料及退隱料ノ爭論ハ司法裁判ニ付セス市制町村制第七十八條ニ依テ處分ス可キナリ其保護ハ此方法ヲ以テ足レリトス

結局ニ至テ猶注意ス可キコトアリ抑退隱料ノ規則ヲ設クルトキハ市町村ノ負擔ヲ加重スルノ恐アリト雖モ他國ノ實驗ニ據レハ決シテ多額ノ負擔ヲ爲スモノニアラス市町村ニ於テハ多クハ適任ノ吏員ヲ再選シ吏員モ亦再選ヲ受ケサルトキハ必他ノ地位ヲ求メサル者アラサル可シ故ニ實際退隱料ヲ支出スルノ場合ハ甚少カル可キナリ又一方ヨリ論スルトキハ市町村ノ盛衰ハ有爲ノ人材ヲ得ルノ多少ニ關シ有爲ノ人材ヲ得ルト得サルトハ其生計ヲ安全ナラシムルト否トニ關スルモノニシテ市町村自治ノ權ヲ得ルニ於テハ退隱料負擔ノ如キハ之ヲ重シト謂フ可カラス況ヤ有給ノ町村長助役ヲ設ケサル町村ニ於テハ此負擔ヲ受クルノ場合少キニ於テヲヤ又況ヤ名譽職ヲ設クルニ於テハ行政ノ費用大ニ減少ス可キニ於テヲヤ蓋市町村ノ繁榮ハ斯ノ如キ法アリテ始メテ將來ニ期望ス可キナリ

市制町村制第四章　市町村有財産ノ管理

市町村ニ於テ自ラ其事業ヲ執行スルニ付テハ必之ニ要スル所ノ資金ナカル可カラス故ニ各市町村固有ノ經濟ヲ立テ以テ必要ノ費用ヲ支辨スルノ道ヲ設ク可シ即市町村ハ財産權ヲ有スルコト概ネ一個人ト同一ナリ然レトモ細ニ觀察スルトキハ其一個人又ハ私立組合ノ類ト相異ナルモノハ市町村ノ事業及支出ノ大半ハ法律規則ニ依テ定マリ市町村民ニ對

シテ其義務トシテ負擔セシムルコトヲ得ルノ一點ニ在リ蓋市町村ノ經濟ハ之ヲ汎論スルトキハ一個人ト同一ノ權利ヲ有スルモノニシテ市町村ハ自ラ其經濟ヲ管理スルノ專權アリト謂フ可シ而シテ之ニ二樣ノ制限アリ第一市町村ノ資力ハ大ニ國家ノ消長ニ關係アルヲ以テ政府ハ須ク此點ニ注意セサル可カラス第二政府ハ市町村ノ經濟ヲ以テ國ノ財政ニ抵觸セサラシメ之カ爲メニ國ノ財産ヲ涸渴セサランコトヲ務メサル可カラス故ニ市町村ノ財政ヲ以テ立法ノ範圍ニ入レ立法權ヲ以テ市町村ノ財政ニ關スル法規ヲ設ケテ之ヲ惜避セシム可キ而已ナラス其經濟上ノ處分苟モ國ノ利害ニ關渉スルモノハ皆政府ノ許可ヲ得セシメントス

以上ノ論點ニ關スル規定ハ市制第四章及第六章並町村制第四章及第七章ニ職ス抑市町村ノ經濟ニ對シ政府ノ干渉スル所ノ程度ハ自治制度ヲ論スル者ノ視ル所ニ依テ各異ナル所アル可シト雖モ要スルニ市町村ノ行政ニ對シ官廳ノ監視ヲ重シテ之ヲ拘束スルニ過クルトキハ其弊ヤ遂ニ市町村ノ便宜ヲ妨ケ其自ラ進テ幸福ヲ求ムルノ道ヲ阻碍スルヲ免レサラントス然レトモ一方ヨリ見ルトキハ自ラ從來ノ慣行アリテ遽ニ之ヲ變シ難キモノアリ故ニ漸ヲ以テ市町村ノ自主ヲ擴張スルヲ是ナリトス此點ニ於テハ本制ハ最慎重ヲ加ヘ今日ノ情勢ニ照シテ適度ヲ得タリトスル所ヲ以テ制定セリ

市町村ノ法人タルハ已ニ法律ノ認ムル所ナレハ市町村ノ財産ヲ所有スルノ權利ヲ有ス可キコト固ヨリ疑ヲ容レス而シテ市町村財産ニ二種ノ別アリ(甲)市町村ノ費用ヲ支辨スルカ爲メニ消費スルモノアリ例ヘハ土地家屋等ノ貸渡料營業ノ所得市町村稅及手數料等ノ如キ是レナリ又基本財産ト稱スルモノアリ基本財産ハ其入額ヲ使用スルニ止マリ其原物ヲ消耗セサルモノトス蓋此區別ヲ立ツルハ市町村ノ資力ヲ維持スルカ爲メニ極メテ緊要ナルモノニシテ國家ハ特ニ市町村ノ基本財産ヲ保護シテ其濫費ヲ防カサル可カラス且經常歲入ノ外ニ臨時ノ收入例ヘハ寄附金穀ノ如キハ成ル可ク經常歲費ニ充テシメサルヲ要ス唯寄附者ニ於テ寄附金支出ノ目的ヲ定メタルカ或ハ非常ノ水害若クハ凶荒等ノ爲メ經常ノ收入ヲ以テ其費途ニ充ツルニ足ラサルカ如キノ場合ハ固ヨリ別段ナリト雖モ是亦上司ノ許可ヲ受クルヲ要スト爲スハ其經濟上ノ處分ヲ重スル所以ナリ(市制第八十一條第百二十三條第二)町村制第八十一條第百二十七條第二)(乙)凡市町村ノ財産ハ市町村一般ノ爲メニ使用スルコト固ヨリ言ヲ俟タス故ニ特ニ之ヲ法律ニ掲載スルヲ要セスト雖モ若シ

在民中其財産ニ對シテ特別ノ權利ヲ有スル者アルトキハ自ラ其證明ヲ立ツルノ義務アリ即民法上其證明ヲ認ムルニ於テハ特別ノ權利ヲ有スルモノトシ其證明ナキモノハ即一般ノ使用權アルモノトス(市制町村制第八十二條)

市町村ノ所有ニ屬スル不動産ノ使用ヲ直接ニ在民ニ許スハ從來ノ實例少シトセス故ニ其慣行アルモノハ特ニ之ヲ存シ今ヨリ後ハ概シテ新ニ使用ヲ許スヲ禁セリ(市制町村制第八十三條第八十四條)又一方ニ於テハ使用權ニ相當スル納稅義務ヲ定メ(市制町村制第八十五條)且條例ニ依リ使用者ヨリ金圓ヲ徵收スルコトヲ許セリ(市制町村制第八十四條)然レトモ其使用ヲ許シタル物件ハ元來市町村ノ所有物ニシテ使用ノ權利ハ市町村在民タル資格ニ隨伴スルモノナレハ市町村ハ固ヨリ使用權ヲ制限シ若クハ取上クルノ權利ナカル可カラス(市制町村制第八十六條)但其議決ハ上司ノ許可ヲ受クルヲ要スト爲スハ(市制第百二十三條第四、町村制第百二十七條第四)細民無産ノ徒ノ不利トナル可キモノヲ防カンカ爲メナリ之ヲ要スルニ以上ノ規定ハ市町村在民タル資格ニ附隨スル使用權ニノミ用フルモノニシテ民法上ノ使用權ニハ關係ナキモノトス蓋此使用權ハ民法ニ據テ論定ス可キモノニシテ其爭論モ亦司法裁判所ノ判決ニ屬ス可キモノトス而シテ前段ノ使用權ニ關スル爭論ハ市制町村制第百五條ニ依テ處分ス可キナリ

市町村財産ノ管理ハ町村長及市參事會ノ擔任トス(町村制第六十八條、市制第六十四條)其管理上市町村會ノ議決ニ依ル可キハ町村制第三十三條、市制第三十一條及市制町村制第八十七條等ニ在リ

市町村ハ其在民ヲシテ市町村ノ爲メニ義務ヲ盡サシムルノ權利ナカル可カラスシテ此權利ナキトキハ共同ノ目的ヲ達スルコト能ハサルハ上既ニ之ヲ論述セリ其義務ノ廣狹ハ市町村事業ノ範圍ニ從ハサル可カラス其事業ハ全國ノ公益ノ爲メニスルモノアリ或ハ一市町村局部ノ公益ヨリ生スルモノアリ其全國ノ公益ニ出ツルモノハ軍事、警察、教育等ノ類ニシテ是皆別ニ規定ス可キモノトス其局部ノ公益ヨリ生スルモノ即共同事務ハ各地方ノ情況ニ從テ異同アレハ茲ニ枚擧スルニ暇アラスト雖モ農業經濟、交通事務、衛生事務等ノ如キハ其最重要ナルモノトス之ヲ要スルニ一市町村ノ公益上ニ於テ必要ナル事項ハ悉ク共同事務ニ屬ス可キナリ本制ニ於テ設ケタル委任ノ國政事務ト固有ノ事務即共同事務ト

ノ區別ハ專ラ市町村長ノ地位ノ兩岐ニ分ルヽ所ニシテ且市町村ノ必要事務ト隨意事務トノ區別ヲ立ツルノ根據トナルモノナリ即此區別ハ官權ノ及フ可キ限界ヲ立ツルニ在リテ必要事務ハ監督官廳ニ於テ強制豫算ノ權利（市制第百十八條、町村制第百二十二條）アルモノトス而シテ必要事務トハ委任ノ國政事務ハ勿論共同事務中市町村ノ需要ニ於テ闕ク可カラサルモノニ限リ必要事務ト謂フヲ得可シ市制町村制第八十八條ノ規定ハ實ニ此精神ニ出テタルモノニシテ市制第百十八條、町村制第百二十二條ニ云フ所ノモノモ亦同シ此ノ如キ規定アルトキハ共同行政上ノ事件ニ至ルマテ市町村ノ意向ヲ顧ミスシテ負擔ヲ受ケシムルコトヲ得從テ官ノ監督權ハ重キニ過クルノ恐アリト雖モ一方ヨリ考フルトキハ全ク檢束ヲ解キテ市町村ノ自由ニ任スルハ却テ將來ノ爲メ顧慮スル所アリ故ニ市町村ノ公益上已ムヲ得サルモノハ姑ク市町村會ノ意見ニ拘ラス監督官廳ノ命令ヲ以テ之ヲ決行スルノ權利ヲ存セサルヲ得ス但其處分ニ對シテハ上訴ヲ許シタルヲ以テ專制ノ弊ヲ免ルヽヲ得可シ其他必要ノ支出ハ本制市町村ノ組織ニ關スル條件中ニ含有セリ隨意事務ニ就テハ市町村ニ十分ノ自由ヲ與フト雖モ若シ過度ノ負擔ヲ爲スニ至テハ之ヲ制スルニハ市制第百二十三條第六、町村制第百二十七條第六ノ規定ヲ適用スルヲ得可シ市町村ニ於テ其費途ヲ支辨スルカ爲メニ左ノ款入アリ

一　不動產、資金、營業（瓦斯局、水道等ノ類）ノ所得

二　市町村ノ金庫ニ收入スル過怠金、科料（市制第四十八條、第六十四條第二項第五、第九十一條第百二十四條、町村制第五十條第六十八條第二項第五、第九十一條第百二十八條）

三　手數料、使用料

四　市稅、町村稅

手數料トハ市町村吏員ノ職務上ニ於テ一個人ノ爲メ特ニ手數ヲ要スルカ爲メ市町村ニ收入スルモノヲ謂ヒ使用料トハ一個人ニ於テ市町村ノ營造物等ヲ使用スルカ爲メ其料金ヲ市町村ニ收入スルモノヲ謂フ例ヘハ手數料トハ帳簿記入又ハ證寫事務上ニ於テ特ニ調査ヲ爲ストキノ收入ヲ謂ヒ使用料トハ道路鐵橋鐵等ノ類ヲ謂フ

手數料、使用料ノ額ハ法律勅令ニ定ムルモノヽ、外市町村會ノ議決ヲ以テ定ムヘキモノナリ（市制第三十一條第五、町村制第三十三條第五）凡市町村條例ヲ以テ一般ノ規定ヲ設ケ（市制町村制第九十一條）其地ノ慣行ニ依リ相當ノ手續ヲ以テ公告スヘキモノトス

且若シ手數料、使用料ヲ新設シ又ハ舊來ノ額ヲ增加シ又ハ其徵收ノ法ヲ變更スルトキハ內務大臣兩大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス（市制第百二十二條第二、町村制第百二十六條第二）但徵收ノ法ヲ改ムルコトナクシテ唯其額ヲ減スルニ過キサルトキハ其許可ヲ受クルヲ要セス

手數料ヲ納ムルノ義務アルハ行政上ノ手數ヲ要スル者ニシテ使用料ヲ納ムルノ義務アルハ營造物等ヲ使用スル者トス之ヲ免除スルハ市制町村制第九十七條、第九十八條ノ場合ニ限ル可シ第九十六條ノ場合ハ町村ノ課稅ヲ免除スルニ止リテ手數料、使用料等ノ事ニ及ハサルナリ

町村稅ニ關シテハ本制ハ成ルヘク現行法ヲ存スルノ精神ナリ町村稅ヲ十分ニ改正セントスレハ先ツ國稅徵收法ヲ改正セサル可カラス故ニ本制ニ於テハ現行ノ原則ニ依リ多少ノ修補ヲ加ヘタルニ過キス現今町村費ノ賦課目即地價割戶別割營業割等ノ如キ皆國稅府縣稅ニ附加シテ徵收スル者ニ外ナラス又或ハ特別ノ町村稅アリ故ニ本制ニ定ムル所ノ課目ハ現行ノ課目ヲ存スルニ於テ妨ケナキモノナリ

附加稅トハ定率ヲ以テ國稅府縣稅ニ附加スルモノニシテ納稅ノ負擔ニ偏輕偏重ノ患ナカラシメンカ爲メニ其連率ヲ均一ニスルヲ例則トセリ（市制町村制第九十條）其賦課法ヲ定ムルハ市町村會ノ職權ニ屬ス故ニ市町村會ハ臨時ノ議決又ハ豫算議定ノ際ニ之ヲ議決スヘキナリ若シ此例則ノ外ニ於テ課法ヲ設ケント欲スルトキハ郡參事會（町村制第百二十七條第七）若クハ府縣參事會（市制第百二十三條第七）ノ許可ヲ受クルヲ要ス

稅率ノ定限ハ豫メ之ヲ設ケスト雖モ獨リ地租及直接國稅ニ於テハ市制第百二十二條第三、町村制第百二十六條第三ニ定メタル制限ヲ越エントスルトキハ內務大臣兩大臣ノ許可ヲ受クルヲ要ス是レ國庫ノ財源ニ關係スル所アルヲ以テナリ

就中地租ノ如キハ從前此定限ヲ超過スルヲ得ルハ非常特別ノ場合ニ限レリ而シテ特別許可ノ道ヲ存セサルカ如キハ地方ニ依テハ却テ課稅ノ平均ヲ得サルノ弊アリ是レ本制現行ノ例ヲ移シテ多少ノ便法ヲ開キタル所以ナリ間接稅ハ概シ

テ市町村ノ附加税ヲ課スルニ便ナラス 故ニ市制第百二十二條第四及ヒ町村制第百二十六條第四ニ從ヒ渾テ官ノ許可ヲ要ストセリ 各種國税府縣税ノ内何レヲ直税トシ又何レヲ間税トス可キカハ往々疑點ヲ生スルコトアリ 此區別ニ就テハ今内務大藏兩省ノ告示ヲ以テ之ヲ定ムルコトヽセリ(市制第百三十一條 町村制第百三十六條)

附加税ノ特別税ニ優ル所以ノモノハ 附加税ニ在テハ納税者既ニ國税又ハ府縣税ノ賦課ヲ受クルヲ以テ別ニ其收益等ノ調査ヲ爲スヲ要セサルニ在リ 唯其町村税ハ免除セサルモ國税府縣税ノ賦課ヲ受ケサル者(一個人又ハ法人)ニ限リ更ニ其調査ヲ要ス可キニ付此場合ニ於テハ町村長若クハ市參事會ニ於テ 其國税府縣税徵收ノ規則ニ據リ 其調査ヲ爲サヽル可カラス

特別税ハ市制町村制第九十一條ニ從ヒ條例ヲ以テ之ヲ規定セサル可カラス 此點ニ於テハ既ニ手數料ニ就テ說明シタル所ニ同シ但特別税ハ市町村必要ノ費用ヲ支辨スルニ 附加税ヲ以テシ猶足ラサルトキニ限リ始メテ之ヲ徵收スルモノトス(市制町村制第九十條)

市町村税ヲ納ムルノ義務ヲ負擔スル者ニ就テハ一個人ト法人トヲ區別セサル可カラス即チ左ノ如シ

甲　一個人

凡ソ納税義務ハ市町村ノ住民籍ニ原クモノトス(市制町村制第六條第二項) 故ニ此義務ハ市町村内ニ住居ヲ定ムルト同時ニ起ルモノナリ 故ニ一日住居ヲ定メタル者ハ時々他ノ市町村ニ滯在スルコトアリト雖モ 納税義務ヲ免ルヘキニ非ス若シ之ニ反シテ住居ヲ定メスシテ一時滯在スルニ止マルモノハ 未タ此義務ヲ帶ヒス 唯三箇月以上滯在スルトキハ住居ヲ占ムルト同ク納税ノ義務ヲ生スルモノトス(市制町村制第九十二條) 又假令ヒ市町村内ニ住居若クハ滯在セスト雖モ其市町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲ス者ハ均ク其市町村ノ利益ヲ蒙ル ニ依リ共ニ納税ノ義務アリトス但此義務ハ一般ノ負擔ニ涉ラスシテ 唯其土地家屋營業若クハ是ヨリ生スル所得ニ賦課ス可キ市町村税ニ限リテ負擔ノ義務アルモノトス(市制町村制第九十三條) 住居ト滯在トハ常ニ必ス同一ニ歸セサルヲ以テ或ハ重複ノ課税ヲ受クルノ思ナシトセス 此弊害ヲ防クカ爲ニハ則チ市制町村制第九十四條、第九十五條ノ規定アリ他國ニ於テハ往々住居ヲ定ムル市町村ニ特權ヲ與フルノ例アリト雖モ 本制ハ特ニ此例ニ倣ハス要スルニ此ノ如キハ皆施行規則中ニ適宜ノ便法ヲ定ムル可キコトトス

市町村税ノ免除ヲ受クルハ市制町村制第九十六條及第九十八條ニ掲載シタル人員ニ限レリ

乙　法人

法人ハ市制町村制第九十三條ニ從ヒ 唯其所有ノ土地家屋若クハ之ニ依テ生スル所得ニ賦課スル 市町村税ニ限リ納税ス可キモノトス抑法人トハ政府、府縣(郡モ亦郡制制定ノ上ハ法人ト爲スノ見込ナリ)、市町村、公共組合(例ヘハ水利土功ノ組合 社寺宗教ノ組合ノ類) 慈善協會、其他民法及商法ニ從ヒ法人タル權利ヲ有ス可キ私法上ノ結社ヲ謂フ其私法上ノ結社ハ市制町村制第九十七條ノ免税ノ部ニ入レス 又官設ノ鐵道電信ノ如キハ官ノ營業ニ屬スト雖モ 是等ハ特ニ國家ノ公益ノ爲ニ免税トス(市制町村制第九十三條) 私設鐵道ニ至テハ 各市町村ニ於テ其收益ヲ調査スル頗ル難キヲ以テ施行規則中ニ於テ詳ニ之ヲ規定スルヲ要ス

凡ソ納税義務者ニ課税スルハ總テ平等ナル可キナリ 唯市制町村制第八十五條ハ 此例外トシテ使用ノ土地物件ニ係ル費用ヲ其使用者ニ課セリ 又一市町村ノ數部若クハ數區ニ分レタルトキ 其一部一區ノ專用ニ屬スル 營造物ノ費用ハ其一部一區ノ負擔トセリ(市制町村制第九十九條第二項) 尤其一部一區ニ特別ノ財産アルトキハ 先ツ其收入ヲ以テ其費用ニ充テ猶足ラサル時特別ニ其一部一區ノ人民ニ課税シ 又ハ一般全市町村税中ニ區別ヲ立テ 其率率ヲ高クス可シ之ニ反シテ第九十九條第一項ノ場合ニ於テ 數個人ノ專用ニ屬スル營造物ノ費用ハ 必其數箇人ノ負擔トシ之レヲ他人ニ賦課スルコトヲ得サルモノトス 但市町村税ハ總テノ納税義務者ト平等ニ賦課スルヲ以テ 例則ト爲スカ故ニ若シ此例則ニ遵ハントスルトキハ官ノ許可ヲ受クルヲ要ス(市制第百二十三條第八、町村制第百二十七條第八)

各納税者ノ税額ヲ査定スルハ 法律規則ニ依リ 市制町村制第百條ノ規定ニ從ヒ町村長(町村制第六十八條第八)及市參事會(市制第六十四條第八)ノ擔任トス大ナル町村及市ニ於テハ之カ爲メ專務ノ委員ヲ設クルヲ便宜トス

社會經濟法ノ稍進歩シタル 今日ニ在テハ舊時ノ夫役現品ニ代ヘテ 金納法ヲ行フニ至レリ 然レトモ町村費ノ課出ニ於テ

ハ夫役現品ノ法ヲ存スルハ特ニ必要ナルノミナラス往々便利ナルモノアリ且古來ノ慣行今日ニ傳フル者其例少カラス夫役賦課ハ專ラ道路、河溝、堤防ノ修築、防火水又ハ學校、病院ノ修繕等ノ爲メニ行フモノナリ殊ニ村落ニ在テハ農際ノ時ヲ以テ夫役ヲ課スルトキハ租稅ノ負荷ヲ輕減センカ爲メニ大ニ便益トスル所アリ農民ノ如キハ季節ニ依リ夫役ニ應スルヲ得ルノ間際アルコト市民ト其趣ヲ異ニス且地方道路ノ開通ヲ要スルモノ將來必少カラサル可キヲ以テ夫役賦課ノ法ヲ存スルトキハ幾許カ市町村ノ負擔ヲ輕減スルノ效アルコト必セリ依テ市制町村制第百一條ニ於テ市町村ニ許ス夫役賦課ノ法ヲ以テセリ但此點ニ於テハ今日ノ經濟ニ適應セシメンカ爲メ本制ハ本人自ラ其役ニ從事スルト適當ノ代理者ヲ出シ又ハ金額ヲ納ムルトヲ以テ義務者ノ選擇ニ任セリ其金額ニ算出スルハ其地ノ日雇賃ニ準シ日數ヲ以テ等差ヲ立ツルヲ通例トス唯火災水害等ノ如キ急迫ノ場合ニ於テハ金納ヲ禁スルコトヲ得可シト雖モ代人ヲ出スハ本人ノ隨意ニ在ルモノトス

夫役ハ總テ市町村稅ヲ納ムル可キ者ニ賦課シ其多寡ハ直接市町村稅ノ納額ニ準スルモノトス若シ此準率ニ依ラサルトキハ郡參事會(町村制第百二十七條第九)及府縣參事會(市制第百二十三條第九)ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス此場合ノ外ハ總テ市町村限リ許可ヲ受ケスシテ之ヲ賦課スルコトヲ得可シ

一般ニ夫役ヲ賦課スルト賦課セサルト及夫役ノ種類並範圍ヲ定ムルハ市町村會ノ職權(市制第三十一條第五、町村制第三十三條第五)ニ屬シ之ヲ各個人ニ割賦スルコトハ町村長(町村制第六十八條第八)及市參事會(市制第六十四條第八)ノ擔任トス

以上市町村ノ收入ハ皆公法上ノ收入ニ屬スルモノニシテ其徵收ハ市制町村制第百二條ヨリ第百五條ニ準據ス可キモノトス而シテ其賦課徵收上ノ不服ハ司法裁判所ニ提出スルヲ許サス郡參事會府縣參事會ノ裁決ヲ經テ結局ノ裁決ハ行政裁判所ニ屬ス此公法上ノ收入ハ私法上ノ收入ト相混同ス可カラス例ヘハ市町村有ノ地所ヲ一個人ニ貸渡シタルトキ其借地料ハ民法及訴訟法ニ準據シテ徵收ス可キナリ

將來市町村ノ事業漸ク發達スルニ從ヒ經常ノ歲入ヲ以テ支辨スルコト能ハサル所ノ大事業ノ起ル可キハ勢ノ免レサル所ナリ然レトモ豫メ其費用ニ備ヘンカ爲メ資本ヲ蓄積セントスルコトモ亦極メテ難カル可シ故ニ經常歲入ヲ以テ支ヘル可シ即公債募集ノ方法是ナリ抑公債募集ノ利益ハ收入時期ノ未タ到來セサルニ先テ豫メ歲入ヲ使用シテ以テ町村住民ノ爲メニ大事業ヲ起シ其經濟及納稅力ヲ奬誘シ且以テ納稅者ノ負擔ヲ輕減スルニ在ルナリ公債ノ事タル利益ノ在ル所斯ノ如シト雖モ之ニ伴フ所ノ弊害モ亦自ラ免レサルモノアリ若シ市町村ニ於テ此方法ニ依リ豫メ將來ノ歲入ヲ使用スルトキハ則其元利償却ニ充ツル所ノ金額ハ將來ノ歲入中ヨリ減却スルモノナレハ負債額ノ多寡ト償還期限ノ長短トニ從ヒ市町村ノ財政ニ影響スル所少カラス又市町村會ニ於テハ資本ノ得易キカ爲メニ輕忽ニ其市町村ノ實力ニ相當セサル事業ヲ起スノ傾向ヲ爲シ又ハ今日ニ負擔ス可キノ義務ヲ後日ニ後年ニ傳ヘントスルノ弊害ナキコト能ハス是最モ行政官ノ注意ス可キ所ニシテ市制第百六條第百二十二條第一及町村制第百六條第百二十六條第一ノ規定アルハ以上ノ論旨ニ起因スルモノトス

本制ハ公債募集ノ事項ヲ逐一列擧セス唯已ムヲ得サルノ必要若クハ永久ノ利益ト云フヲ以テ之レカ制限ヲ立テタリ若シ此制限ニ適合スルノ證明ナキモノハ許可ヲ與フ可カラス若シ又償還期限三年以內ニシテ許可ヲ要セサルモノハ町村制第六十八條第一及市制第六十四條第一ニ依テ相當ノ處分ヲ爲ス可キナリ其必要已ムヲ得サルノ支出トハ舊債ヲ償還シ又ハ傳染病流行若クハ水害等不慮ノ災厄ニ遭遇シテ一時ノ窮ヲ救ハントスルトキ又ハ學校ヲ開設シ道路ヲ修築スル等法律上ノ義務ヲ盡サントスルカ如キ場合ヲ謂ヒ永久ノ利益トナル可キ支出トハ市町村ノ力ニ堪フ可キ事業ヲ起シ以テ市町村有財產ノ生產力若クハ住民ノ經濟力ヲ增進シ假令一時ノ負擔ヲ增スモ永遠ノ利益ヲ生ス可キ場合ヲ謂フナリ尤何レノ場合ニ於テモ一時ノ歲入ヲ以テ支辨シ能ハサル時ニ限ルモノトス但年々要スル所ノ常費ハ必經常ノ歲入ヲ以テ支辨ス可キモノニシテ公債ヲ募ルヲ得ス公債募集ニ當テハ深ク注意ヲ加ヘ成ルヘク住民ノ負擔ヲ輕クシ利息ハ時ノ相場ニ準シ隨時償還ノ約ヲ立テ、市町村ニ便利ヲ與ヘサル可カラス到底償還方法ノ確定スルニ非サレハ募集ヲ許サス又公債ハ成ル可ク市町村ノ財政ニ適準シ償還期限ハ長キニ過ク可カラス故ニ本制ニ於テハ償還ハ三年以內ニ始マルモ

ノトシ年々ノ償還歩合ヲ定メ且募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スルヲ以テ例規ト爲セリ若シ此例規ニ違ハントスルトキハ必官ノ許可ヲ要ス（市制第百二十二條第一、町村制第百二十六條第一）元來許可ヲ要セサル公債ノ種類ト雖モ右ノ例規ニ違フトキハ亦官ノ許可ヲ請フ可シ

公債ヲ起スト起サヽルト及其方法ノ如何ハ市町村會ノ議決ニ屬ス（市制第三十一條第八、町村制第三十三條第八）唯定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メニシテ一會計年度内ニ償還ス可キ公債ハ市ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス市參事會ノ意見ヲ以テ募集スルヲ得ト雖モ（市制第百六條、第三項）町村ニ於テハ町村會ノ同意ヲ要スルコト勿論ナリ蓋斯ノ如キ公債ハ收入支出ノ多キ市ノ如キニ在テハ自然已ムヲ可カラサルモノニシテ其支出ノ時期ト收入期限ト常ニ相合一セサルカ故ナリ

凡公債ヲ募集スルニ付許可ヲ受クヘキハ右ニ陳述シタル場合及曾テ負債ナキニ新ニ公債ヲ起シ又ハ舊債ヲ增額スルトキニ在リ故ニ前記ノ如キ一時ノ借入金ヲ爲シ又ハ舊債償還ノ爲メニスル公債ニシテ其規約舊債ヨリ負擔ヲ輕クスルトキノ如キハ渾テ許可ヲ要セス其他ハ償還期限三年以内ノモノヲ除クノ外内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ク可シ

既ニ募集シタル公債ヲ豫定ノ目的外ニ使用セントスルトキハ市町村會ノ議決ヲ要シ且若シ其公債ニシテ官許ヲ要スルトキハ許可ヲ受ク可キコト言ヲ俟タス

市町村ノ財政ハ政府ノ財政ニ於ケルト均ク三箇ノ要件アリ即チ

甲、定額豫算表ヲ調製スル事

乙　收支ヲ爲ス事

丙　決算報告ヲ爲ス事

以上ノ三要件ニシテ法律中ニ細目ヲ設クヘキ必要アルモノハ本制第四章第二款ニ於テ之ヲ規定セリ

甲

財政ヲ整理シ收支ノ平衡ヲ保ツニハ定額豫算表ヲ設ケサル可カラス本制ハ（市制町村制第百七條）市町村ヲシテ豫算表調製ノ義務ヲ負ハシムル故ニ若シ市町村ニ於テ此義務ヲ盡サヽルトキハ法律上ノ權力ヲ以テ之ヲ強制スルヲ得可ク若シ之ヲ議決セサルトキハ府縣參事會郡參事會ノ議決ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得可シ（市制第百十九條、町村制第百二十三條）此義務ハ決シテ免ル可カラサルモノナレハ狹少ノ町村ト雖モ猶之ヲ負擔セサルヲ得ス其豫算表ハ一年ノ見積ヲ以テ之ヲ設ケ其會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同クセリ其他本制ハ豫算表調製ノ細目ヲ定メス要スルニ一切ノ收支及收入不足ノ場合ニ方リ支辨方法ヲ定ムルヲ以テ足レリトス但財政整理上ニ於テ其市町村ノ資力ヲ酌量スヽキ必要ノ細目ハ省令ヲ以テ之ヲ定ムルコトアル可シ

定額豫算ノ案ヲ調製スルコトハ町村長及市參事會ノ擔任ニシテ之ヲ議決スルハ市町村會ノ職權ニ屬ス收支ヲ許可スルコトハ市町村會ノ全權ニ任セスシテ法律上ノ檢束ヲ設クルモノアリ即當然支出ス可キモノヲ否決シタルトキハ監督官廳ニ於テ強制豫算ヲ命スルノ權（市制第百十八條、町村制第百二十二條）アリ又其議決ノ越權ニ渉リ又ハ公益ヲ害スルモノハ其議決ヲ停止スルノ權（市制第六十四條第一、町村制第六十八條第一）アリ事項ニ依リテハ官ノ許可ヲ要スルカ故ニ（市制第百二十二條第百二十三條第五第六、町村制第百二十六條、第百二十七條第五第六）市町村住民ノ爲メニ過度ノ負擔ヲ制止スルノ方法ハ十分備ハレリト謂フ可シ故ニ豫算表ハ市町村會ノ議決スル所ニ依リ其全體ニ於テ許可ヲ受クルヲ要セス唯右ニ記載シタル場合ニ限リテ許可ヲ受クルヲ要スルノミ

凡定額豫算表ハ二樣ノ效力アリ即一方ニ於テハ理事者ヲシテ豫定ノ收支ヲ爲スノ權利ヲ得セシメ一方ニ於テハ踰越ス可カラサルノ制限ヲ負ハシムルモノナリ殊ニ豫算外ノ支出豫算超過ノ支出若クハ費目ノ流用ヲ爲スニ當テハ更ニ市町村會ノ議決ヲ經可キモノトス此場合ニ於テ市町村會ハ當初豫算ヲ議定スルト同一ノ規定ニ從テ之ヲ議決ス可キナリ其追加豫算若クハ豫算ノ變更ヲ議決スルニ當リ其事項タル官ノ許可ヲ要スルトキハ均ク其許可ヲ受ク可キコトヽス豫備費ヲ設ク可キト否ト及其額ノ如何ハ市町村會ノ議定ニ在リト雖モ已ニ之ヲ設ケタルトキハ市制町村制第百九條ノ制限ヲ除クノ外町村長及市參事會ノ之ヲ使用スルニ任ス但其決算報告ヲ爲ス可キハ固ヨリナリトス

乙

市町村收支ノ事務ハ之ヲ官吏ニ委任セスシテ之ヲ市町村ノ吏員即收入役ヲ置テ之ニ委任ス是多ク各國ニ行ハルヽ所ノ

實例ニシテ其吏員ハ市町村ニ於テ之ヲ選任シ有給吏員ト爲セリ要スルニ本制ノ旨趣ハ收支命令者ト實地ノ出納者トヲ分離獨立セシメント欲スルニ在リ故ニ收入役ノ事務ヲ町村長ニ委任スルハ本制ノ敢テ希望スル所ニ非スシテ此ノ如キ場合ハ極メテ罕ナル可シ若シ町村ノ情況ニ依リ別ニ有給ノ收入役ヲ置クヲ要セサルトキハ寧ロ之ヲ助役ニ委任スルヲ可トス又比隣ノ小町村ハ町村制第百十六條ニ從ヒ共同シテ收入役一名ヲ置クモ亦便宜ニ任ス

收支命令權ハ町村長若クハ市參事會及監督官廳ニ屬ス收支命令ハ書面ヲ以テセサル可カラス收支命令ヲ受ケスシテ爲シタル支拂ハ市町村ニ於テ之ヲ認定スルヲ要セス抑收支命令ト實地ノ出納トヲ分離スルハ支拂前ニ於テ其豫算ニ基フ所ナキヤヲ監査スルニ便ナルカ爲メナリ元來決算報告ヲ爲スハ即此目的ニ外ナラスト雖モ既ニ支拂後ニ係ルヲ以テ其監査ハ往々時機ニ後ルヽノ憾アリ故ニ本制ハ（市制町村制第百十條）收入役ニ負ハシムルニ其命令ノ正否ヲ査スルノ義務ヲ以テシ其命令若シ定額豫算又ハ追加豫算若クハ豫算變更ノ決議ニ適合セス又豫備費ヨリ支拂フ可キトキ該費目ノ支出ニ關スル規定ヲ避守セサルニ於テハ之ヲ支出スルヲ得サルモノトス此義務ハ收入役ノ賠償責任ト懲戒處分ノ制裁ヲ以テ十分ニ之ヲ盡サシムルヲ得可シ

若シ町村長ニ收入役ノ事務ヲ擔任セシムルトキハ收支命令ト支拂トノ別ハ自ラ消滅シ隨テ上ニ記載シタル監査ノ法モ亦之レナキニ至ル可シ

收入役ヲシテ右ノ義務ヲ行ヒ易カラシメンカ爲メ定額豫算表ハ勿論追加豫算若クハ豫算變更ノ議決ハ必之ヲ收入役ニ通報セサル可カラス其豫算表及臨時ノ議決ハ併セテ簿記ノ標準ト爲ルモノナリ本制ハ簿記ノ事ニ就テハ規定ヲ立ツルコトナシト雖モ簿記及一般出納事務ニ就テハ追テ訓令ヲ以テ原則ヲ示スコトアル可シ又本制ハ出納ヲ檢査スルヲ以テ市町村ノ義務ト爲セリ（市制町村制第百十一條）若シ理事者ニ於テ此義務ヲ行ハス又ハ檢査ヲ行フテ盡サヽル所アルカ爲メ市町村ニ損害ヲ釀シタルトキハ市町村ニ對シテ賠償義務ヲ負ハシム可キナリ此賠償義務ノ外懲戒ヲ加ヘ得可キハ言ヲ俟タス

丙

決算報告ノ目的ハ二アリ左ノ如シ

一　計算ノ當否及計算ト收支命令ト適合スルヤ否ヲ審査スル事（會計審査）

二　出納ト定額豫算表又ハ追加豫算若クハ豫算變更ノ議決又ハ法律命令ト適合スルヤ否ヲ査定スル事（行政審査）

會計審査ハ會計主任者（即收入役又ハ收入役ノ事務ヲ擔任スル助役若クハ町村長）ニ對シ行フモノニシテ行政審査ハ市町村ノ理事者即町村長若クハ市參事會ニ對シテ行フモノナリ其會計審査ハ先ツ町村長（但町村長ニ於テ會計ヲ兼掌スルトキハ此限ニ在ラス）及市參事會ニ於テ之ヲ行ヒ次テ市町村會ニ於テ右二樣ノ目的ヲ以テ會計ヲ審査ス（市制町村制第百十二條）是故ニ收支命令者（町村長、助役、市參事會員）ニシテ市町村會ノ議員ヲ兼ヌルトキハ其議決ニ加ハルコトヲ得ス（市制第四十三條、町村制第四十五條）若シ又議長タルトキハ其議事中議長席ニ居ルコトヲ得サルモノトス（市制第百十二條、町村制第百十三條）是利害ノ互ニ抵觸スルヲ以テナリ

決算報告ノ時會計ニ不足アルトキハ市制第百二十五條若クハ町村制第百二十九條ヲ適用ス可シ

市制町村制第五章　市町村內特別ノ財產ヲ有スル市區又ハ各部ノ行政

行政ノ便利ノ爲メニ畫シタル區ト一市町村內ニ於テ獨立ノ法人タル權利ヲ有スル各部トノ區別アルハ固ヨリ言ヲ俟タス本制ハ一市町村ノ統一ヲ尚フモノニシテ一市町村內ニ獨立スル小組織ヲ存續シ又ハ造成スルコトヲ欲スルニアラス然レトモ強テ此原則ヲ斷行セントスルトキハ一地方ニ於テ正當ニ享有スル利益ヲ傷害スルノ恐レアリ故ニ概シテ此旨趣ニ依テ論ス可カラサルモノアリ大市町村ニ於テハ現今既ニ特別ノ財產ヲ有スル部落アリ現今ノ小町村ヲ合併スルトキハ更ニ又此ノ如キ部落ヲ現出ス可シ其部落ハ即獨立ノ權利ヲ存スルモノト謂フ可シ又他ノ一方ヨリ論スルトキハ市制町村制第九十九條ノ原則ニ依リ其部落ハ義務ヲ負擔スルコトアリト雖モ之レカ爲メ直ニ別段ノ組織ヲ要スルコトナカル可シ其特別財產又ハ營造物ノ管理ハ之ヲ其全市町村ノ理事者タル町村長又ハ市參事會ニ委任スルモ妨ケナシ（市制第百十四條、町村制第百十五條）若シ區長ヲ置クトキハ町村長又ハ市參事會ニ於テ區長ニ指揮シテ其管理ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得可シ尤其一部ノ權利ヲ傷害ス可カラサルハ言ヲ俟クス本制ニ於テ其一部ノ出納及會計ノ事務ヲ分別ス

可キモノトスルハ即是カ爲メナリ議會ノ職掌ヲ論スレハ（市制自第三十條至第三十五條、町村制自第三十二條至第三十七條）特別事務ト雖モ總テ之ヲ市町村會ニ委任スルモ妨ケナキ而已ナラス却テ希望ス可キ所ナリ然レトモ地方ニ依リテハ全市町村ト其各部落トノ利害ハ互ニ相抵觸スルコト往々之レアリ其甚キニ至テハ多數ノ爲メニ壓抑ヲ蒙ムルコトアリ依テ其一部限リノ選擧ヲ以テ特別ノ議會ヲ起シ以テ其議事ヲ委任スルコトヲ得可シ其之ヲ起スノ利害ニ就テハ一般ノ原則ヲ設ケ難キカ故ニ姑ク條例ノ規定ニ任セサル可カラス但此條例ハ固ヨリ普通ノ規定ニ依ル可クシテ特別ノモノニ非スト雖モ其之ヲ設ケ並其事項ヲ定ムルハ市町村會ノ議決ニ任セスシテ之ヲ郡若クハ府縣參事會ニ委任セリ何トナレハ利害ノ相抵觸スルカ爲メ偏頗ノ處置アランコトヲ恐ルレハナリ唯市町村會ノ意見ヲ徵ス可キハ勿論ナリ要スルニ區會ハ市町村會又ハ區內人民ノ情願ニ依リ之ヲ設クルヲ當然トス

區會ノ構成ハ本制ニ規定シタル市町村會ノ組織ニ依準シ條例中ニ之ヲ定ム可キモノトス區會ノ職掌ハ市町村會ノ職掌ニ同シ唯其特別事件ニ限ルノミ

町村制第六章　町村組合

本制ノ希望スル如ク有力ノ町村ヲ造成シ又郡ヲ以テ自治体ト爲ストキハ其他別ニ區劃ヲ設クルノ必要ナカル可キナリ殊ニ一事件アル毎ニ特別ノ聯合ヲ設クルヲ要セサル可シ若シ漫ニ聯合ヲ設クルトキハ行政事務煩明ナラス其組織錯綜ヲ極メ費用モ亦隨テ增加スルヲ免レサルハ英國ノ實例ヲ以テ證スルニ足ル可シ獨リ水利土功ノ聯合又ハ小町村ニ於テ學校ノ聯合ヲ設クルカ如キハ萬已ムヲ得サルモノニシテ皆別法ヲ以テ規定セサル可カラス然レトモ其別法ノ發布セサル間ハ本制ニ於テ豫メ之カ方法ヲ設ケサル可カラス又此必要アルノ外往々町村組合ヲ設クルノ活路ヲ示ス可キモノアリ即本制ニ於テハ關係町村ノ協議ヲ以テ其組合ヲ爲スノ目的、組合會議ノ組織、事務管理ノ方法及費用ノ支辨方法等ヲ定ムルトキハ（町村制第百十六條第一項、第百十七條第一項）監督官廳即郡長ノ許可ヲ得テ組合ヲ成スコトヲ許セリ町村ニ於テ相當ノ資力ヲ有セサルトキ組合ヲ爲サシムルヲ必要ト爲スカ如キ是ナリ此ノ如キ場合アルトキハ町村制第四條ニ於テ合併ヲ施ス可キコトヲ規定スト雖モ事情ニ依リテハ合併ヲ施ス可カラス又ハ之ヲ不便ト爲スコトナシトセス例ヘハ該町村ノ互ニ相遠隔スルカ如キ又ハ古來ノ慣習ニ於テ調和ヲ得サルカ如キノ類アリ此ノ如キニ至テハ其町村ノ異議アルニモ拘ラス事務共同ノ爲メ組合ヲ成サシムルノ權力ナカル可カラス其組合ヲ成ストキハ第四條ノ場合ニ異ニシテ其各町村ノ獨立ヲ存シ又別ニ町村長及町村會若クハ町村總會ヲ有ス可キ理ナリ然レトモ其組合ヲ成ス所ノ共同事務ノ多寡及種類ハ其組合ニ依テ互ニ異ナルモノトス

抑協議ニ依ラスシテ組合ヲ設クルハ町村ノ獨立權ヲ傷クルノ恐レアルニ依リ郡參事會ノ議決ニ任スルヲ妥當ナリトス（町村制第百十六條第二項）果シテ其共同事務ノ區域ヲ定メ強制ヲ以テ組合ヲ成サシメタルトキハ議會ノ組織、事務管理ノ方法、費用支辨ノ方法就中分擔ノ方法ニ至テハ先ツ關係町村ニ於テ之ヲ協議スルヲ要ス若シ其協議調ハサルニ及テハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スルノ外ナシ

組合議會ノ組織、事務管理ノ方法、費用支辨ノ方法殊ニ分擔ノ割合ハ本制ニ於テ豫メ之ヲ規定セス實際ノ場合ニ於テ便宜其方法ヲ制ス可シ故ニ組合ハ特別ノ議會ヲ設ケ或ハ各町村會ヲ合シテ會議ヲ開キ或ハ互選ノ委員ヲ以テ議會ヲ組織シ或ハ各町村會別個ニ會議ヲ爲シ其各議會ノ一致ヲ以テ全組合ノ議決ト爲スノ類各其宜キニ從フ可シ又町村長ノ如キモ組合ニ一ノ町村長ヲ置キ且之ヲ永久獨立トシ或ハ各町村長ノ交番ト爲スヲ得可シ又組合ノ費用ハ或ハ特別ノ組合費トシテ之ヲ各個人ニ賦課シ或ハ之ヲ各町村ニ賦課シ以テ其賦課徵收ノ法ヲ各町村ノ便宜ニ任スルヲ得可シ各町村分擔ノ割合ハ利害ノ輕重、土地ノ廣狹、人口ノ多寡及納稅力ノ厚薄ヲ以テ標準ト爲ス可シ但其納稅力ノ詮定方ニ至テモ亦之ヲ一定スルコト能ハサル可シ以上ノ各事項ニ關シ本制ハ全ク實地宜キニ從フヲ許セリ故ニ各地方ニ於テ其便ト爲ス所ヲ採擇ス可シ

組合町村ハ之ヲ解クノ議決ヲ爲スヲ得ト雖モ郡長ノ許可ヲ得ルヲ要ス（町村制第百十八條）

市制第六章町村制第七章　市町村行政ノ監督

監督ノ目的及方法ハ本說明中各處ニ之ヲ論セリ故ニ復タ之ヲ贅セス唯茲ニ其要點ヲ概括セントス

（第一）監督ノ目的ハ左ノ如シ

一法律有效ノ命令及官廳ヨリ其權限内ニテ爲シタル處分ヲ遵守スルヤ否ヲ監視スル事
二事務ノ錯亂澁滯セサルヤ否ヲ監視シ時宜ニ依テハ強制ヲ施ス事(市制第百十七條、町村制第百二十一條)
三公益ノ妨害ヲ防キ殊ニ市町村ノ資力ヲ保持スル事
以上ノ目的ヲ達スルガ爲メニハ左ノ方法アリ
一市町村ノ重役ヲ認可シ又ハ臨時町村長助役ヲ選任スル事(市制第五十條、第五十二條、町村制第五十九條、第六十條、第六十一條、第六十二條)
二議決ヲ許可スル事(市制第百二十二條、第百二十三條、町村制第百二十六條、第百二十七條)
三行政事務ノ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ査閲シ事務ノ現況ヲ視察シ並出納ヲ檢閲スル事(市制第百十七條、町村制第百二十一條)
四強制豫算ヲ命スル事(市制第百十八條、町村制第百二十二條)
五上班ノ參事會ニ於テ代テ議決ヲ爲ス事(市制第百十九條、町村制第百二十三條)
六市町村會及市參事會ノ議決ヲ停止スル事(市制第六十四條第一、第六十五條、町村制第六十八條第一)
七懲戒處分ヲ行フ事(市制第百二十四條、第百二十五條、町村制第百二十八條、第百二十九條)
八市町村會ヲ解散スル事(市制第百二十條、町村制第百二十四條)
(第二)監督官廳ハ左ノ如シ
町村ニ對シテハ
一 郡長　二 知事　三 内務大臣
市ニ對シテハ
一 知事　二 内務大臣
法律ニ明文アル場合ニ於テハ郡長若クハ知事ハ郡參事會若クハ府縣參事會ノ同意ヲ求ムルヲ要ス但參事會ヲ開設スルマテハ郡長知事ノ專決ニ任ス(市制第百二十七條、町村制第百三十條)

市町村吏員ノ處分若クハ議決ニ對スル訴願ニ就テハ先ツ市町村ノ事務ト市制第七十四條、町村制第六十九條ニ記載シタル事務トノ間ニ區別ヲ立テサル可カラス市制第七十四條、町村制第六十九條ニ記載シタル事務ニ關シテハ訴願ヲ許スト否トハ一般ノ法律規則ニ從フモノトス之ニ反シテ市町村ノ事務ニ關シテハ此法律ニ明文アル場合ニ限レリ(市制第八條第四項、第二十九條、第三十五條、第六十四條第二項第一、第七十八條、第百二十四條、町村制第八條第四項、第二十九條、第三十七條、第六十八條第二項第一、第七十八條、第百二十四條、第百五條、第百二十八條)本制ハ訴願ノ必要ナル場合ヲ列擧シ悉シタルモノトス又監督官廳ハ自己ノ發意ニ依リ其職權ヲ以テ監督權ヲ行フヲ得ルノミナラス人ノ告知ニ依テ亦之ヲ行フコトヲ得可シ而シテ其告知ハ本制ニ所謂訴願ノ種類ニアラサレハ期限ヲ定メス又前キノ處分若クハ議決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得サルナリ(市制第百十六條第二項第五項、町村制第百二十條第二項第五項)
市町村ノ行政事務ニ關シ郡長若クハ府縣知事ノ第一次又ハ第二次ニ於テ爲シタル處分若クハ裁決ニ對シテハ其參事會ノ同意ヲ得ルト否トニ拘ハラス一般ニ訴願ヲ爲スヲ許セリ特ニ法律ニ明文アル場合ニ限リテ之ヲ許サヽルモノトス(市制第百十六條第一項、町村制第百二十條第一項)若シ其處分又ハ裁決郡長ヨリ發シタルモノナルトキハ之ニ對スル訴願ハ知事之ヲ裁決シ郡參事會ヨリ發シタルモノナルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス知事及府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ共ニ内務大臣ニ訴願スルモノトス而シテ權利ノ消長ニ關スル結局ノ裁決ハ之ヲ行政裁判所ニ委任スルヲ妥當ト爲ス
ハ上來屢々之ヲ說明セリ但權利ノ爭論ハ一般ニ行政訴訟ヲ許スニアラスシテ之ヲ許ス可キノ必要アル場合ニ限リ特ニ之レカ明文ヲ掲ク故ニ其明文ナキ場合ニ於テハ結局ノ裁決ハ常ニ内務大臣ニ屬スルモノトス而シテ行政訴訟ヲ許シタル場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルヲ許サス最上官廳ノ裁決ヲ以テ法司ノ審判ニ付スルヲ欲セサルカ故ナリ但本制ニ於テ行政裁判所ノ權限ヲ規定シタルハ市町村ノ行政事務ニ關スル事ニ止マリ其他ノ事務ニ渉ル權限ハ他日別法ヲ以テ定ム可キコトヽス又目下行政裁判所ノ設ケナキヲ以テ之ヲ開設スルマテノ間ハ内閣ニ於テ其職務ヲ擔任ス可キコト止ムヲ得サルナリ(市制第百二十七條、町村制第百三十條)

以上記述スル所ノ要旨ハ則左ノ如シ

(第一)市町村ノ行政事務ニ屬セサル事件ニ對スル訴願及其順序ハ一般ノ法律規則ニ從フモノトス

(第二)市町村ノ行政事務ニ關スト雖モ市町村吏員ノ處分若クハ裁決ニ對シテハ本制ニ明文ヲ掲ケタル場合ニ限リ訴願ヲ許シ之ニ反シテ監督官廳又ハ郡府縣參事會ノ處分若シクハ裁決ニ對シテハ一般ニ訴願ヲ許ス其訴願ノ順序ハ左圖ノ如シ

- 町村
  - 郡長 ―― 知事 ―― 内務大臣
  - 郡參事會 ―― 府縣參事會 ―― 行政裁判所
    - 但法律ニ明文アル場合ニ限ル
    - 但法律ニ明文アル場合ニ限ル
- 市
  - 知事 ―― 内務大臣
    - 府縣參事會 ―― 行政裁判所
      - 但法律ニ明文アル場合ニ限ル
      - 但法律ニ明文アル場合ニ限ル

前圖ノ順序ハ必履行セサル可カラサルモノニシテ内務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴セントスルニハ必其前段ノ順序ヲ經由シタル後ニ在ル可キモノトス

○市制町村制中直接稅間接稅ノ類別 明治二十一年七月十三日(内務大臣連帶)大藏省告示第九十五號

本年法律第一號市制第百三十一條町村制第百三十六條直接稅間接稅ノ類別ハ左ノ諸稅ヲ以テ直接稅トシ其他ハ間接稅トス但府縣區町村ニ於テ特ニ徵收スルモノハ府縣知事ノ稟申ヲ以テ之ヲ定メ其直接トスヘキモノハ府縣知事ヲシテ管内ニ告示セシム

國稅
地租　所得稅
地方稅
地租割　戶數割　家屋稅　營業稅　雜種稅
區町村費
地價割　段別割　戶別割　家屋割　營業割

○

第十五 東京市區改正條例ヲ頒布ス 明治二十一年八月十七日 勅令第六十二號

朕東京市區ノ營業衛生防火及通運等永久ノ利便ヲ圖ル爲メ東京市區改正條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十一年八月十六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十二號

東京市區改正條例

第一條 東京市區改正ノ設計及每年度ニ於テ施行スヘキ事業ヲ議定スル爲メ東京市區改正委員會ヲ置キ内務大臣ノ監督ニ屬セシム其組織權限ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

東京市區改正委員會ノ費用ハ市區改正費ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二條　東京市區改正委員會ニ於テ市區改正ノ設計ヲ議定シタルトキハ內務大臣ニ具申スヘシ內務大臣ハ審査ノ上內閣ノ認可ヲ受ケ東京府知事ニ付シ之ヲ公告セシムヘシ

二十一年勅令第八十八號（第三十九）參照

第三條　市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京府區部內ニ於テ左ノ特別稅ヲ賦課ス

一地租割　地租同額以內但耕地ヲ除ク

一營業稅並雜種稅　地方稅十分ノ四以內

一家屋稅　同上

一清酒　區內ニ輸入又ハ區內ニ於テ釀造販賣スルモノ一石ニ付金五拾錢以內

十年第七十九號布告（初編第九十七）參照

第四條　特別稅滯納者ハ租稅滯納處分法ニ依テ處分ス

第五條　市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府區部ノ基本財產トシテ即今官用ニ供セサル東京府區部內ノ官有河岸地ハ總テ之ヲ下付ス

此河岸地ヨリ收入スル金額ハ市區改正事業ノ終ルマテ他ニ之ヲ支出スルコトヲ得ス

此河岸地ハ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免除ス

此河岸地ハ賣却讓與スルコトヲ許サス但己ムヲ得サル場合ニ於テハ東京府知事東京府區部會ノ議決ヲ取リ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得

第六條　市區改正ノ經費及特別稅賦課徵收ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府區部會ニ付シ之ヲ議定セシムヘシ

第七條　第三條第五條ノ收入合計ハ每年度二拾萬圓ヨリ少カラス五拾萬圓ヨリ多カラサルモノトス但每年度雜收入及前年度繰越金ハ本條ノ收入額ニ合算スルコトヲ得ス

第八條　前條ノ收入金額ハ先ツ燒失跡地改正事業ノ費用ニ充テ殘餘ヲ以テ其他ノ改正費用ニ充ツヘシ

第九條　東京府知事ハ每年四月ヨリ翌年三月マテヲ一周年度トナシ前年十月マテニ東京市區改正委員會ニ於テ議定シタル市區改正事業ニ屬スル收支豫算ヲ立テ東京府區部會ノ議決ヲ取リ內務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

東京府知事前項ノ認可ヲ受タルトキハ之ヲ東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十條　東京府知事ハ一周年度ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ東京府區部會ニ報告シ然ル後內務大臣大藏大臣及東京市區改正委員會ニ報告スヘシ

第十一條　年度中ニ於テ豫知スヘカラサル事狀ニ由リ既定ノ事業ヲ變更セサルヲ得サルトキハ東京府知事東京市區改正委員會ノ議定ヲ取リ內務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ施行スルコトヲ得但次回ノ東京府區部會ニ之ヲ報告スヘシ

第十二條　市區改正ノ爲メ一時巨額ノ支出ヲ要スルトキハ東京府區部ハ每年收入スヘキ特別稅ヲ目的トシ五十箇年以內ノ期限ヲ以テ公債ヲ募集スルコトヲ得其金額及起債ノ方法ハ東京府知事之ヲ定メ東京府區部會ノ議決ヲ取リ內務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　市區改正ニ屬スル會計ハ東京府知事特別ニ整理スヘシ

第十四條　市區改正ノ事務ハ東京府知事其執行ノ責ニ任スヘシ

第十五條　市區改正ニ係ル土地建物處分方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條　本條例ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

二十年勅令第五十六號（第四十七）及第六十一號（同第二項以下）二十一年法律第一號（第十四）市制第百三十二條及町村制第百三十八條參照

同上

○

第十六　府縣會規則

○尋常師範學校附屬小學校授業料府縣ノ議定ニ付スル件　明治二十年十一月十八日內務省訓令第四十九號府縣（沖繩縣ヲ除ク）

（大藏大臣連署）

尋常師範學校附屬小學校授業料ハ本年勅令第五十六號ノ規定ニ據リ地方稅一般ノ雜收入ト混淆スヘカラサルモノニ付右授業料ノ收支豫算ハ別議案ヲ以テ府縣會ノ議定ニ付スヘシ

同上

○

第十七　區町村會法

○區町村公共ノ共有物ハ區町村會ニ於テ評決セシム　明治二十年十一月五日內務省訓令第四十七號府縣

區町村公共ノ經濟ニ屬スヘキ共有物ニ關スル事件ハ渾テ區町村會ニ於テ評決セシムヘシ

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令訓令ハ取消ス

○區町村費支辨ノ事業ニ關スル寄附金穀物件ノ費途使用方及區町村費ノ雜收入區町村會ノ評決ニ付セシム　明治二十年十二月二十二日內務省訓令第五十一號府縣（沖繩縣ヲ除ク）

區町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ區町村會ノ評決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充テシムヘシ

區町村費ノ雜收入ハ他ノ收入ト同シク區町村會ノ評決ニ付セシムヘシ

第四類　地所建物並道路橋梁

第十八　土石掘採規則ヲ廢ス　明治二十一年十一月十日內務省令第九號

明治十年十月內務省甲第二十一號布達土石掘取規則ヲ廢止ス

甲第廿一號布告ハ初編第十三ニ掲ク

○

第十九　地所建物賣買質入書入規則

○失踪死亡跡遺留財產賣却交換質入書入等ノトキ始審裁判所ノ認許ヲ受シム　明治二十一年七月十四日

司法省訓令第十號裁判所

失踪又ハ死亡跡遺留財產ヲ其親族ニ於テ保管スル場合本人又ハ其家ノ利害ニ關シ協議ヲ以テ賣却交換若クハ質入書入等ヲ爲サントスルトキ不動產ニ付テハ自今都テ管轄始審裁判所ノ認許ヲ受ク可キ儀ト心得可シ

○失踪死亡跡遺留財產賣却交換質入書入ニ關スル認許請求書差出方　明治二十一年十月三十日司法省訓令第十五號裁判所

親族ノ保管ニ係ル失踪又ハ死亡跡遺留財產ノ賣却交換若クハ質入書入ニ關スル認許請求書ハ保管人又ハ其代人出頭ノ上差出ス可キ儀ト心得可シ

○失踪逃亡死亡者ノ遺留財產處分方治安裁判所ノ認許ヲ乞フヲ得　明治二十一年十二月七日司法省訓令第十七號始審裁判所治安裁判所

親族又ハ區戶長ニ於テ保管スル失踪逃亡並死亡者ノ遺留財產處分ノ件ハ自ラ始審裁判所所在地ヲ除クノ外管轄治安裁判所ニ認許ヲ乞フコトヲ得治安裁判所上席判事ハ始審裁判所長ノ代理心得ヲ以テ認許ヲ與フ可シ

十一年司法省達第四十一號（同初編第五十ノ第十六項）十七年內務省番號達ニ（同第十七項）十五年司法省達第四十四號（同第十八項）參照

同上

●伺指令

●單身戸主死亡跡財産處分ノ件ニ付長崎縣ヨリ內務省ヘ請訓　明治二十年九月十日（同年十二月六日官報）

單身戸主死亡跡相續者無之者ノ財産成規ニ據リ五箇年間區戸長ニ於テ保管中左ノ場合ニ於テ處理上疑團ヲ生シ候ニ付此段請訓候也

第一條　遺置財産ノ內土地ハ稅金不納ノ爲成規ニヨリ公賣ニ付シ所有權已ニ落札人ニ歸シタルヲ以テ地主ヨリ土地引渡ヲ請求スレトモ該地ニアル建物ハ第一第二債主アリテ今猶保管中ナレハ之レカ處分ヲ了ルノ後ニ非レハ右ニ當ル敷地落札人ヘ引渡スヘカラサル儀ト相心得可然哉

第二條　第一債主ハ戸主ト生前契約アル趣ヲ以テ依然遺置家屋ニ住居セリ然ルニ求タ所有權ノ第一債主ニ移リタルニ非ス郡區役所ニ於テ保管スヘキ筈ナルヲ以テ右等居住者ハ無論保管者ヨリ退去ヲ命スヘキモノト相心得可然哉

第三條　返金契約期限ヲ經過スルモ債主ヨリ裁判處分ヲ仰カサルカ爲成規ノ期限間之ヲ保管スルトキハ益負債確相嵩ミ且ツ第一條ノ如キ地主ノ權利ヲ妨クルノ不都合ヲ生ス右ノ場合ニ於テハ保管者ヨリ債主ヲ促シ告訴セシムヘキ義ニ候哉

指令　明治二十年十一月十六日（司法省達第）

第一條　建物ノ保管中ニ拘ハラス公賣ニ付セラレタル敷地ハ落札人ヘ引渡スヘキモノトス

第二條　家屋ノ所有者生存中負債ノ爲メニ債主ニ家屋ヲ貸與シ債主ニ於テ所有者生存中ヨリ引續キ現ニ住居シタルモノナレハ直ニ退去ヲ命スルヲ得サルモノトス但負債者ノ利益ノ爲メ家屋貸借ノ解約ヲ爲スハ格別ナリ

第三條　債主ヲ促シ出訴セシムヘキモノニアラス但該財産成規ノ期限內保管ノ上ハ官没ノ處分ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ負債償却方ニ付保管者ニ於テ意見アルトキハ裁判所ノ處分ヲ仰カシムヘシ

第二十　私賣治水修路橋梁架設

○私費開設ノ橋梁渡津道路等電報配達人賃錢請求不相成件　明治二十一年十二月二十二日內務省訓令第二十七號北海道廳府縣

人民私費ヲ以テ開設シタル橋梁渡津及道路等制服ヲ著シタル電報配達人ヨリ賃錢請求不相成旨明治十五年乙第六十六號ヲ以テ相達候處左ノ雛形ノ印鑑携帶ノ者ハ制服ノ著否ニ拘ハラス賃錢請求不相成ニ付此旨更ニ免許人ヘ示達スヘシ

印鑑雛形

二寸五分

第號

何國

何地郵便電信（電信）局集配人

○　何ノ誰

○明治　年月日

何國
何地
郵便電信局

第廿一　行政警察規則

○邏卒番人賞與規則及一般人民ニシテ邏卒番人同樣ノ働ヲナシ又ハ火附盜賊人殺ノ蹤跡ヲ訴出若クハ盜賊ヲ捕獲セシ者賞與方ノ達ヲ廢ス　明治二十一年十月十一日閣令第十七號

明治七年五月太政官達第六十八號同年七月同第百號同年八月同第百十四號並八年四月同第六十三號ヲ廢ス

○警察賞與規則ヲ定ム　明治二十一年十月十二日內務省訓令第二十一號廳府縣

警察賞與規則左ノ通相定ム

警察賞與規則

第一條　警察上功勞アル者ハ本則ニ依リ賞與スヘキモノトス

第二條　警察賞與ヲ分テ左ノ三種トス

甲種　金三圓以上拾五圓以下

乙種　金五圓以下

特別賞　金拾五圓以上三十圓以下

特別賞ハ事ノ重要ニ涉リ功勞ノ特ニ著明ナルモノニ限リ之ヲ給スルコトヲ得

第三條　犯罪事件ニ關スル功勞ノ賞與ハ左ノ各項ニ依ル

第一項　左ノ罪犯ヲ現行ノ場合ニ於テ捕獲シ又ハ容易ニ捕獲スルヲ得セシメタル者

甲種

一　國事ニ關スル重罪犯

二　兇徒聚衆ニ關スル重罪犯

三　貨幣僞造變造ニ關スル重罪犯

四　人命ニ關スル重罪犯

五　放火ニ關スル重罪犯

六　強盜ニ關スル重罪犯

乙種

一　貨幣僞造變造ニ關スル輕罪犯

二　竊盜ニ關スル罪犯

第二項　前項ノ罪犯ヲ分明ニ訴出タル者亦前項ノ區別ニ同シ

第三項　第一項ノ場合ニシテ罪犯暴行強迫ヲ以テ抗拒シタルトキハ其難易ニ因リ及第一項ニ掲クル罪犯ニシテ其未遂ノ時ニ訴出タル者ハ其乙種ハ金三圓以上拾圓以下甲種ハ五圓以上貳拾圓以下ノ金額ヲ賞與スルコトヲ得

第四項　前數項ノ外其功勞ノ前數項ニ比シ相下ラサルモノハ其適度ニ應シ賞與スルコトヲ得

第五項　前數項ニ該當スルモノト雖モ事ノ最モ輕キモノ又ハ功勞ノ最モ尠キモノ若クハ金圓ヲ賞與シ難キ事情アル者ハ賞詞ヲ與フルコトヲ得

第四條　水火災其他犯罪ニ關セサル功勞ハ乙種ノ賞ヲ給與スヘシ但其功勞ノ大ナル者ハ甲種ノ賞ヲ與フルコトヲ得

第五條　罪犯判決前ニ逃亡又ハ死去シタル場合若クハ賞與スヘキ事件ノ完結セサル前ト雖モ其疑ナキモノハ賞與ヲ施行スルコトヲ得

第六條　賞與ハ何等ノ場合ヲ問ハス一旦施行シタル後ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條　本則ニ定メタル賞與ノ金額ハ一事件ノ賞トス但第三條第一項ノ場合ハ一犯罪ニ付テノ賞トス

數事件數罪犯ニテ功勞者一人ナルトキハ數事件數罪犯ノ賞ヲ各別ニ給與スヘシ

一事件若クハ數事件一名若クハ數名ノ罪犯ニシテ功勞者數人ナルトキ之ヲ賞與スルニハ一事件若クハ一犯罪ニ對スル金額又ハ數事件若クハ數罪犯ニ對スル金額ヲ適宜功勞者ノ人員ニ配當給與スヘシ

第八條　功勞者賞與施行前ニ死去シタルトキハ賞與ノ金額ハ親屬ノ最近ナル者ニ給ス若シ親屬ナキトキハ戸長ニ交付シテ祭祀料ニ充用セシムヘシ

其所在不分明ナルトキ亦同シ但親屬ナキ者ニシテ三十六ケ月ヲ經過シタルトキハ賞與ヲ施行セス

第九條　公權ヲ剝奪セラレタル者ニハ賞ヲ與ヘス

第十條　自己又ハ親屬ノ利害ニ關スル事件ニ付テハ賞ヲ與ヘス但其功勞ノ特ニ著明ニシテ一般ニ洪益ヲ及ホスモノハ時宜ニヨリ之ヲ賞與スルコトヲ得其被害者ト利害ヲ共ニスル者亦同シ

第十一條　罪犯其親屬ニ係ルトキハ總テ賞與スルコトヲ得ス

第十二條　第八條第十條第十一條ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ニ記載シタル者ヲ云フ

第十三條　巡査ニシテ左ノ各項ニ該當スル者ハ本則ニ定ムル賞與ノ區別ニ從ヒ甲種以下及特別賞ヲ與フルコトヲ得

第一項　第三條ニ掲クル罪犯ヲ搜査シ又ハ捕獲シ其功勞著シキ者

第二項　前項ニ該當セスト雖モ其功勞ノ前項ニ比シ相下ラサル者

第三項　第四條ニ掲クル事項及流行病ニ付其功勞著シキ者

第四項　自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救援シタル者

第十四條　巡査罪犯ヲ捕獲シテ功勞アリト雖モ未タ拘留セサル前ニ逃走セシメタルモノハ賞與スルコトヲ得ス

護送中逃走セシメ其護送者ニ於テ捕獲シタルトキ亦同シ

第十五條　巡査私事旅行中其管内ニ於テ賞與スヘキ功勞アリタルトキハ其職務上ニ於テ爲シタルモノト同一ノ賞ヲ與フヘシ

第十六條　巡査ニシテ一般人民共ニ人命ヲ救援シタルトキハ賞與スヘキ金額ヲ救援者ノ全數ニ分賦シ其巡査ニ屬スル金額ヲ賞與スヘシ

第十七條　本則第七條乃至第十一條ハ巡査ノ賞與ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第十八條　巡査ノ賞與ハ其所屬廳ニ於テ施行シ其他ハ左ノ區別ニヨリ各管轄廳京東府ハ警視廳ニ於テ施行スヘシ

第一項　訴ヲ受タル地ノ管轄廳

第二項　罪犯ヲ最初ニ受取タル地ノ管轄廳

第三項　犯罪事件ニ屬セサルモノハ其事件ノ生シタル地ノ管轄廳

第十九條　賞與スヘキ事件若クハ功勞者ノ數官廳ニ牽連スルモノハ互ニ協議ヲ盡シ其金額ヲ定メ之ヲ差分シ又ハ功勞ノ多少ニ依リ適宜分割シ各其廳ニ於テ賞與スヘシ

第二十條　警部其他警察事務ニ從事スル者ニシテ功勞アルトキハ巡査ノ例ニ準シ賞與スルコトヲ得

第二十一條　賞與ヲ行フタルトキハ一箇年取纏翌年一月三十一日マテニ當省ヘ報告スヘシ但特別賞與ニ屬スルモノハ其都度報告スヘシ

第二十二條　賞與ノ費額ハ各其所屬ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ

刑法（初編第百八十二）第四百廿五條第十項參照

第廿二　賣淫取締懲罰地方官ヘ委任ノ件ヲ廢ス　明治二十一年十二月四日　勅令第八十號

朕明治十四年第六十四號布告廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十一年十二月三日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵松方正義

勅令第八十號

明治十四年第六十四號布告ヲ廢ス

○九年内務省乙第九號同十五年乙第十七號達ヲ廢ス　明治二十一年十二月五日　内務省訓令第二十五號廳府縣

明治九年内務省乙第九號達同十五年乙第十七號達ヲ廢ス

第廿三　保安條例ヲ創定ス　明治二十年十二月二十六日　勅令第六十七號

朕惟フニ今ノ時ニ當リ大政ノ進路ヲ開通シ臣民ノ幸福ヲ保護スル爲ニ妨害ヲ除去シ安寧ヲ維持スルノ必要ヲ認メ茲ニ左ノ條例ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十年十二月二十五日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

勅令第六十七號

保安條例

第一條

凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百

集會條例ハ初編第二十二ニ掲出ス

圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ

内務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯結通信ヲ阻遏スル爲ニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違犯スル者罰前項ニ同シ

第二條

屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帶セシメタル者又ハ各自ニ携帶シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條

内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖畫ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ

印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ルヽコトヲ得ス

第四條

皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ内亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以内同一ノ距離内ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得

退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍五年以下ノ監視ニ付ス

第五條

人心ノ動亂ニ由リ又ハ内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其一地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得

一凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス豫メ警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事

二新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事

三特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

四旅人出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

第六條

前條ノ命令ニ對スル違犯者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第七條

本條令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○

第廿四 遺失物條例

●伺指令

●拾得從軍記章處分ノ件ニ付福岡縣ヨリ內務省ヘ伺 明治二十一年一月二十一日

明治七年臺灣從軍記章壹箇明治十八年五月中遺失セシ者有之得者ニ於テ屆出タルニ付直チニ成規ノ通リ掲示ノ手續ヲ爲シ且ツ所屬管所ヘモ照會取調タレトモ其遺失者更ニ不相分就テハ該記章ハ之レヲ公賓ニ付スルモ穩カナラサル樣思料被致候仍テ該記章ハ陸軍省ヘ進達致シ可然哉

指令 明治二十一年二月二十一日

伺ノ趣遺失者分明ナラサル從軍記章ハ賞勳局ヘ納付スヘシ

但費用及報勞金等支給ヲ要スル場合ニ於テハ賞勳局ヘ申出ツヘシ

第六類 監獄

第廿五 監獄則

○假留監聯合地方ヲ改ム 明治二十一年九月十七日 內務省訓令第十八號警視廳府廳(北海道廳東京府沖繩縣ヲ除ク)假留監

明治十七年七月當省乙第三十號達聯合地方區分中東京假留監聯合地方茨城縣ヲ宮城假留監聯合地方ニ改ム

○在監人工錢給與手續 明治二十一年十月十六日 內務省訓令第二十二號警視廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

監獄則ニヨリ在監人ニ給與スル工錢ハ自今府縣會ノ議決ヲ經監獄費內譯ニ給與錢ノ目ヲ設ケテ之ヲ支拂ヒ其工錢ハ監獄費雜入ニ編入スルコトヲ得

○監獄內ノ建物中稟請ヲ要セス處分ノ件 明治二十一年十二月十四日 內務省訓令第二十六號廳府縣

監獄內ノ建物ニシテ左ニ掲クルモノハ自今稟請ヲ要セス處分シテ後其位置ノ略圖ヲ具シ一箇年取纏メ翌年一月三十日迄ニ報告スヘシ

一 倉庫ノ新築

一 物置ノ新築

一 人民控所ノ新築

一 小使部屋ノ新築

一 監舍ニ屬セサル厠ノ新築

一 馬建ノ新築

第七類　戸籍

第廿六　戸籍取扱規則

●伺指令

●寄留者届出ノ件ニ付石川縣ヨリ内務省ヘ伺　明治二十一年二月六日

他府縣ヘ出寄留中本籍移轉スルトキハ寄留所ハ轉セサルモ本籍異動ノ爲メ更ニ本人ヨリ寄留届ヲ爲サシムヘキ儀ニ候哉將本人ヨリハ寄留地戸長ヘ本籍異動セシノミノ届ヲ爲サシメ移轉地戸長ヘハ本人ヨリ更ニ寄留届ヲ爲サシメス前任地戸長ヨリ送籍ノ際裏ニ受理セシ出寄留届書ヲ引繼キ移轉地戸長ニ於テハ其引繼書ニ依リ出寄留簿ヘ登記シ尚引繼ニ依リ取扱タル事項ヲ記載セシメ出寄留ノ取扱ヲ結了爲致可然義ニ候哉

指令　明治二十一年二月二十一日

後段伺ノ通

第八類　衛生

第廿七　醫術

○高等中學校醫學部ニ於テ死體解剖ノ出願問屆方　明治二十一年九月二十四日文部省告示第十號（內務大臣連署）

從來死體解剖ノ儀帝國大學醫科大學ヘ願出ル者アルトキハ該學ニ於テ問屆來候處自今文部省直轄高等中學校醫學部ニ於テモ同樣可問屆ニ付右望ノ者ハ該醫學部ヘ願出ヘシ

○

第廿八　賣藥規則

○賣藥行商鑑札表面記載方ノ件　明治二十一年六月十一日內務省訓令第十三號北海道廳府縣

明治十年當省乙第三十二號達第八項行商鑑札表面自今左ノ書式ニ依リ記載セシムベシ

賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證
何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業者　氏　名
賣子　氏　名
一方名　一方名
一方名　一方名
右行商問屆候事

賣藥營業者自ラ行商ノ分

賣藥行商許可之證
何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業者　氏　名
一方名　一方名
一方名　一方名
右行商問屆候事

賣藥請賣者自ラ行商ノ分

賣藥行商許可之證
何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業人　氏　名
何廳府縣郡區町村族籍
賣藥請賣營業　氏　名
一方名　一方名　一方名
一方名　一方名
右行商聞屆候事

賣藥請賣者賣子ヲ派出シ行商セシムル分

賣藥行商許可之證
何廳府縣郡區町村族籍
賣藥營業人　氏　名
何廳府縣郡區町村族籍
賣藥請賣營業　氏　名
賣子　氏　名
一方名　一方名　一方名
一方名　一方名
右行商聞屆候事

第九類　圖書

第廿九　新聞紙條例ヲ改正ス　明治二十年十二月二十九日　勅令第七十五號

朕新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

勅令第七十五號

新聞紙條例

出版條例（第三十）第二條參照

第一條　新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳（東京府ハ警視廳）ヲ經由シテ内務省ニ屆出ヘシ

第二條　新聞紙發行ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　題號
二　記載ノ種類
三　發行ノ時期
四　發行所及印刷所
五　發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條　届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條　發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條　發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條　内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條　編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條　發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ納ムヘシ

一　東京ニ於テハ千圓

一　京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一　其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一　一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

第九條　保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第十條　第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警廳總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十一條　新聞紙ハ毎號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ

發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條　新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳（東京府ハ警視廳）及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條　新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價

ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ

正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ルヽトキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條　官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第二回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條　刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論説ヲ記載スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條　公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非レレハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條　治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條　新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條　外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條　陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アル

コトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條　裁判確定ノ日ヨリ一週日以內ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以內ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條　第一條第三條第四條ノ屆出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條　第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條　第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人編輯人印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條　猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條　時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

○新聞紙ニ關スル諸届書式ヲ定ム　明治二十一年一月二十六日　内務省告示第一號

新聞紙ニ關スル諸届書式左ノ通相定ム

發行届書式但用紙美濃紙以下之ニ同シ

何新聞(雜誌)發行届

一題號　何新聞

一記載ノ種類　政治法律農工商業等ノ類

一發行ノ時期　毎日、毎週、毎月何回、一箇年何回ノ類

一發行所　府縣國郡區町村番地何社(社號ナキモノハ戸主ノ氏名)

一印刷所　同

一發行人　住所　氏名　何年何月生本月何年何箇月

一編輯人　同　氏名　何年何月生本月何年何箇月

各部門ニ主任編輯人ヲ設クルトキハ茲ニ列記スヘシ

一印刷人　同　氏名　何年何月生本月何年何箇月

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行ノ預リ手形公債證書ヲ以テ)管轄廳ヘ納置候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納ムルニ及ハサルモノハ例ハ左ノ如シ)

右ハ新聞紙條例ヲ遵守シ年月日ヨリ發行致候間此段御届申上候也

年月日　內務大臣某殿　發行人　氏名印

題號變更届書式

何新聞改題届

一何新聞改題

右年月日ヨリ改題候間此段御届申上候也

年月日　內務大臣某殿　發行人　氏名印

種類變更届書式

何新聞記載ノ種類變更届

一現今種類　政治法律農工商業其他何々

一變更種類　何々

右年月日ヨリ變更致候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メス發行シタルモノ更ニ保證金ヲ要スル種類ニ變更スルモノハ例ハ左ノ如シ)

右年月日ヨリ變更致候ニ付保證金何圓(若クハ國立銀行ノ預リ手形公債證書ヲ以テ)管轄廳ヘ納置候間此段御届申上候也

(保證金ヲ納メ發行シタルモノ更ニ保證金ヲ要セサル種類ニ變更スルモノハ例ハ左ノ如シ)

上候也

右年月日ヨリ變更致候ニ付是迄納置候保證金御下渡之儀ハ管轄廳ヘ可申出候間此段御屆申上候也

年　月　日　　發行人　氏　名　印

內務大臣某殿

發行人變更屆書式

何新聞發行人變更屆

何新聞發行人ニ候處年月日ヨリ何誰ニ於テ新聞紙條例ヲ遵守シ發行致候ニ付此段御屆申上候也

何新聞是迄何誰發行人ニ候處何月何日死去（若クハ法律上ノ資格ヲ失ヒ）候ニ付何誰假發行人ノ名義ヲ以テ引續發行致居候處年月日ヨリ何誰ニ於テ（以下前例ニ同シ）

（發行人死去シ又ハ法律上資格ヲ失ヒタルモノヽ例ハ左ノ如シ）

年　月　日　　舊發行人　氏　名　印（發行人死去ノトキハ其遺族親戚等ト新發行人ト連署ス）

新發行人　住所　氏　名　印

何年何月生本年何年何箇月

內務大臣某殿

編輯人印刷人變更屆書式

何新聞編輯人（又ハ印刷人）變更屆

舊編輯人（又ハ舊印刷人）氏名

住所

新編輯人（又ハ新印刷人）氏名

何年何月生本年何年何箇月

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御屆申上候也

年　月　日　　發行人　氏　名　印

內務大臣某殿

時期變更屆書式

何新聞發行時期變更屆

一何年何月何日發行第何號マテハ隔日（若クハ毎月一回又ハ何々）

一何年何月何日發行第何號ヨリ改メ毎日（若クハ毎週又ハ何々）

右之通變更致候間此段御屆申上候也

年　月　日　　發行人　氏　名　印

內務大臣某殿

發行所變更屆書式（印刷所變更屆書モ亦本例ニ依ル）

何新聞發行所變更屆

一舊發行所

何社（社號ナキモノハ戸主ノ氏名）

府縣國郡區町村番地

何社（社號ナキモノハ戸主ノ氏名）

一新發行所

右之通年月日ヨリ變更致候間此段御屆申上候也

年　月　日　　發行人　氏　名　印

內務大臣某殿

第三十　出版條例ヲ改正ス　明治二十年十二月二十九日　勅令第七十六號

○

朕出版條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

勅令第七十六號（官報十二月二十九日）

出版條例

新聞紙條例（第廿九條以下第十一條例第二條脚本樂譜條例第一條參照）

第一條　凡ソ機械舍密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若クハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條　新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此條例ニ依ルヘシ但雜誌ニシテ專ラ學術技藝ニ關スル事項ヲ記載スルモノハ内務大臣ノ許可ヲ得テ此條例ニ依ルコトヲ得

第三條　文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達シ得ヘキ日數ヲ除キ十日前製本三部ヲ添ヘ内務省ヘ屆出ヘシ

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本三部ヲ内務省ニ送付スヘシ

第五條　出版屆ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但非賣品ハ著作者ノミニテ屆出ルコトヲ得著作者又ハ其相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ屆ハ其學校會社等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ差出スヘシ

第六條　文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作者又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條　文書圖畫ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハス印刷ノ年月日及印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所ヲ併セテ記載スヘシ

第八條　社則塾則引札諸藝ノ番付普通ノ書式アル諸種ノ用紙又ハ證書ノ類ハ第三條第六條ニ據ルヲ要セス

第九條　文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但雜誌ノ類ニ在テハ内務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省略スルコトヲ得

第十條　一タヒ出版屆ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版屆ヲ要セスト雖モ若シ改正增減シ又ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ第三條ニ依ルヘシ

第十一條　演說若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演說者若クハ講義者ヲ以テ著作者トス但演說者若クハ講義者ノ許諾ヲ經スシテ出版シタルモノニ關シテハ其演說者若

クハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演説ハ其講義者又ハ演説者ノ許諾ヲ經ルニ非レハ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權條例ニ依リ其責ニ任セシム

第十二條　數人ノ著作若クハ數人ノ講義演説ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲スモノハ編纂者ヲ著作者ト見做スヘシ

前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用スヘシ

第十三條　翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ但翻譯トハ漢文ヲ延譯スルモノヲモ包含ス

第十四條　學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其出版居ヲナス者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ

第十五條　公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十六條　治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押ユルコトヲ得

第十七條　外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其文書圖畫ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

第十八條　軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖畫ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條　刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論説ヲ出版スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十一條　第三條ノ屆出ヲ爲サスシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ年月日ヲ記載セサル文書圖畫ヲ發行シタルトキハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條　印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若クハ記載スト雖ヒ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條　政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ文書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者

印刷者共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

圖書ニシテ其目的前項ニ同キモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條　猥褻ノ文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　文書圖畫ヲ寫眞トナシ因テ第十八條第二十四條第二十五條ヲ犯ス者ハ各本條ニ依テ處分ス

第二十七條　本條例ニ依リ出版ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布スルトキハ發行者又ハ發賣頒布者罰前項ニ同シ但其未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第二十八條　第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢察官ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印本ハ裁判ノ確定ヲ待チ無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒收ス

第二十九條　前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十條　他人ノ講義演說ヲ筆記若クハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編纂シタル文書圖畫ヲ出版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合ニ於テ講義者演說者若クハ著作者ニシテ其出版ヲ承諾シタルモノナルトキハ筆記者若クハ編纂者ト同シク其罪ヲ論ス

第三十一條　文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十三條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖畫ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十四條　文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直チニ發賣頒布セスト雖モ其目的發賣頒布ニ在ル者ハ總テ此條例ニ依ル

○版權條例ヲ制定ス　明治二十年十二月二十九日　勅令第七十七號

朕版權條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

内務大臣伯爵山縣有朋

出版條例第三條脚本樂譜條例第三條參照

勅令第七十七號（官報 十二月二十九日）

司法大臣伯爵山田顯義

版權條例

第一條　凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其文書圖畫ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條　出版條例ニ依リ文書圖畫ヲ出版スル者ハ總テ此條例ニ依リ其版權ノ保護ヲ受ルコトヲ得

第三條　版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ント欲スルトキハ其由ヲ內務省ニ通知スヘシ

第五條　版權登錄ノ文書圖畫ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條　內務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アル每ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

登錄ヲ經タル文書圖畫ハ內務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條　版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

講義若クハ演說ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲シタルモノヽ版權ハ講義者若クハ演說者ニ屬シ若シ筆記者ニ於テ講義者若クハ演說者ノ許諾ヲ經テ出版スルトキハ筆記者ニ屬シ筆記者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

官廳學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ノ版權ハ其官廳學校等ニ屬スルモノトス

數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シタル文書圖畫ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但編纂者ト原著作者講義者演說者又ハ其相續者トノ關係ハ相互ノ約束ニ依ル

第八條　版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第九條　版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其再度下付ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但手數料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ

第十條　版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若シ版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍ホ三十五年ニ足ラサル時ハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノヽ版權年限ハ最終ニ死亡シタル者ニ據リテ計算ス

官廳又ハ學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫並著作者死亡ノ後

ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條　冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ各號毎ニ其出版ノ月ヨリ起算ス但其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條　版權ノ保護ハ其文書圖畫ヲ改正增減シ又ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲メ變更スルコトナカルヘシ

第十三條　特ニ世ニ有益ナル文書圖畫ニシテ版權年限間ノ利益其著作出版ノ勞力ト費用トヲ償ハサルノ事情アルモノニハ版權所有者ノ願出ニ依リ內務大臣ニ於テ仍ホ十年間版權保護ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十四條　文書圖畫ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並其所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月內ニ版權相續者ノ出テサルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受テ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニヨリ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條　新聞紙又ハ雜誌ニ於テ二號以上ニ涉リ記載シタル論說記事又ハ小說ハ其編輯者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ刊行ノ月ヨリ二年內ニ之ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲シ出版

スルコトヲ得ス

其二年ヲ經ルト雖モ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條　版權所有ノ文書圖畫ヲ僞版シタル者ハ其版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條　僞版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但審理ノ未僞版ニアラスト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條　僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條　版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖畫ヲ翻譯シ增減シ註解附錄繪圖等ヲ加ヘ若クハ其未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及本條例第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス

他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條　翻譯書ノ版權ハ其翻譯者ニ屬スト雖モ其原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但其既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此限ニアラス

第二十一條　世人ヲ欺瞞スル爲メ故ラニ版權所有ノ文書圖畫ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又

ハ氏名社號屋號等ノ類似シタル者ヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十二條　著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スル者亦僞版ヲ以テ論ス

第二十三條　文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其版權ヲ犯ス者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十四條　內國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ僞版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十五條　僞版ノ訴アリテ其僞版タルヤ否ヲ決シ難キトキハ其訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條　僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ其原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第二十七條　僞版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若クハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

僞版ニ係ル刻版及印本ハ其何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其既ニ販賣シタルモノハ其賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條　版權ヲ所有セサル文書圖書ト雖モ之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十九條　第三條ノ手續ヲナサスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖書ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十一條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖書ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十二條　現行ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル版權ノ年限ハ現行條例ニ據リ計算スルモノトス

○脚本樂譜條例ヲ制定ス

明治二十年十二月二十九日　勅令第七十八號

朕脚本樂譜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十年十二月二十八日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文
內務大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

勅令第七十八號

脚本樂譜條例

出版條例第二條版權條例第二條以下參照

第一條　演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條　演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權（即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權）ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

第三條　演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賃渡シ讓渡スコトヲ得

第四條　演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ

第五條　興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

○寫眞版權條例ヲ改正ス

明治二十年十二月二十九日　勅令第七十九號

朕寫眞版權條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十年十二月二十八日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

内務大臣伯爵山縣有朋

勅令第七十九號（官報十二月二十九日）

司法大臣伯爵山田顯義

寫眞版權條例

第一條　凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫眞ト云ヒ寫眞ヲ發行シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ寫眞版權ト云フ

第二條　寫眞版權ハ寫眞師ニ屬シ寫眞師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノハ寫眞版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

囑托ニ係ル寫眞ノ種板ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫眞師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス

第三條　寫眞版權ノ保護ヲ受ントスル者ハ發行前寫眞一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ内務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫眞ハ登錄ヲ待タスシテ其保護ヲ受クルモノトス

第四條　版權登錄ノ寫眞ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第五條　内務省ニ於テハ寫眞版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

寫眞版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖書ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス

第六條　寫眞版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス

第七條　寫眞版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第八條　版權ノ保護ヲ受ル寫眞ハ之ヲ覆寫シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ增製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫眞術ト類似ノ摸寫ヲ爲シ及寫眞師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ囑托ニ係ル寫眞ヲ增製スルコトヲ得ス

第九條　第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第八條ニ違フ者ハ版權條例ニ據リ僞版ヲ以テ論シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ及損害賠償ノ責ニ任セシム

第十一條　此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレタル寫眞又ハ摸寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス

第十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

○出版版權脚本樂譜寫眞條例ニ關スル願屆手續等ヲ定ム

明治二十一年一月二十四日

内務省令第一號

出版條例版權條例脚本樂譜條例並寫眞版權條例ニ關スル願屆手續等左ノ通之ヲ定ム

第一條　凡願屆書ニ署名スル者ハ各住所ヲ詳記シ實印ヲ捺シ内務大臣宛ニテ差出ス可シ

第二條　凡文書圖書ヲ印刷スル者ハ出版條例第七條ニ從ヒ其印刷竣功ノ年月日並住所氏名ヲ記載シ其之ヲ發行スル者ハ同條例第三條ニ從ヒ屆出ノ年月日並其住所氏名ヲ記載ス可シ

第三條　出版屆ハ第一書式再(三)版屆ハ第二書式版權登錄願ハ第三書式寫眞版權登錄願ハ第四書式版權登錄證再度下付願ハ第五書式ニ依ル可シ

第四條　專ラ學術技藝ノ雜誌ニシテ出版條例第二條但書ニ從ヒ同條例ニ依ラント欲スル者並第九條但書ニ依リ屆出ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第六書式ニ依ル可シ

第五條　版權條例第十一條第二項ニ依リ版權登錄願ノ手續ヲ省略セント欲スル者ハ第七書式ニ依リ豫メ二回以上出版ノ分隨意取束ネ版權登錄ヲ願出ルコトヲ得

第六條　外國ノ圖書ヲ翻譯シテ出版スル者ハ原書ノ題名著者ノ氏名出版ノ地名及年號ヲ原字ヲ以テ認メ屆書ニ添付ス可シ

第七條　版權登錄料並登錄證再度下付手數料東京ニ在テハ大藏省金庫局其他ノ地方ニ在テハ國庫金出納本支所ヘ預ケ入レ其預證書ヲ願書ニ添ヘ納付ス可シ

第八條　版權登錄願ヲ許可スルトキハ第八書式寫眞版權登錄願ヲ許可スルトキハ第九書式ノ證書ヲ下付ス可シ但毀損紛失等ニ依リ再度下付スルモノハ本證書ノ謄本ニ其事由並下付ノ年月日ヲ裏書シ内務省ノ印ヲ捺ス

第一書式 用紙美濃

出版御届

一書名　全何冊(枚)(又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)自第何號至第何號)

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)何々ノ事ヲ記載(論述)セシモノニテ今般出版候條製本三部相添此段御届申上候也

年　月　日

道廳何府縣何郡區何町村何番地
發行者　氏　名　印

同上
著作者(相續者)氏　名　印

第二書式 用紙同上

再版御届

一書名　全何冊(枚)(又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)自第何號至第何號)

右何誰著述(編纂、演說、講義、翻譯)ノ書ニシテ何年何月何日出版セシ處改正(增減、注解、附錄、繪圖等)相加ヘ今般再(三)版候條製本三部相添此段御届申上候也

年　月　日

道廳何府縣何郡區何町村何番地
發行者　氏　名　印

第三書式 用紙同上

版權登錄願

一書名　全何冊(枚)(又ハ何冊(枚)ノ内何冊(枚)自第何號至第何號)

右今般出版致候條版權登錄被下度六部ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所)預證書相添此段相願候也

年　月　日

道廳何府縣何郡區何町村何番地
版權所有者ノ氏　名　印

内務大臣(爵)何誰殿

同上
著作者(相續者)氏　名　印

第四書式 用紙同上

寫眞版權登錄願

一物象ノ名　何枚

右何々ノ眞形ヲ寫シタルモノニテ今般發行致度候條版權登錄被下度見本二葉並六葉ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所)預證書相添此段相願候也

道廳何府縣何郡區何町村何番地

内務大臣(爵)何誰殿

年　月　日

内務大臣(爵)何誰殿

版權所有者ノ氏　名　印

第五書式　用紙同上

(寫眞)版權登錄證再度御下付願

(寫眞)版權登錄證第何號

一書名(物象ノ名)全何冊(枚)(又ハ何冊(枚)ノ內何冊(枚)自第何號至第何號)

右何年月日版權登錄御許可ヲ受タル處何々ニ依リ毀損(紛失)候條版權登錄證更ニ御下付被下度手數料金五拾錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所)預證書相添此段相願候也

年　月　日

道廳府縣郡區何町村何番地

版權所有者ノ氏　名　印

内務大臣(爵)何誰殿

第六書式　用紙同上

學術(技藝)雜誌出版條例ニ依リ出版(並手續省略)願

一書名

右專ラ何々ノ學術(技藝)ニ關スル事項ヲ記載シ每月何回(又ハ何々ノ日ヲ以テ)發行致スヘキモノニ候處出版條例ニ依リ出版(致シ且同條例第三條ノ日限ニ不拘其出版ノ都

度御屆ニ不及發行前製本ノミ相納候樣)致度此段相願候也

年　月　日

道廳府縣郡區何町村何番地

發行者　氏　名　印

同上

編輯者　氏　名　印

内務大臣(爵)何誰殿

第七書式　用紙同上

學術(技藝)雜誌版權登錄手續省略願

一書名

右出版條例ニ依リ出版致度旨今般(何年月日)御許可ヲ得候處自第何號至第何號何冊分一時版權登錄被下度各號六部ノ定價金何圓錢大藏省金庫局(何々國庫金出納本(支)所)預證書相添此段相願候也

年　月　日

道廳府縣郡區何町村何番地

發行者　氏　名　印

同上

編輯者　氏　名　印

第八書式

版權登録之證

△割印

書名　何冊

著作者　氏名

版權所有者　氏名

右第　號ヲ以テ版權登録簿ニ登録ス

明治　年　月　日

内務省△印

同上謄本裏書書式

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ依リ此謄本ヲ下付ス

△割印

明治　年　月　日△

内務省印

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セス

△印ハ朱

第九書式

寫眞版權登録之證

△割印

物象ノ名　何枚

版權所有者　氏名

右第　號ヲ以テ寫眞版權登録簿ニ登録ス

明治　年　月　日

内務省△印

同上謄本裏書書式

本證書毀損(紛失)再度下付願出ニ依リ此謄本ヲ下付ス

△割印

明治　年　月　日△

内務省印

但謄本ハ表面省名ノ下ニ押印セス

○舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タル者免許狀毀損紛失シタルトキ及免許ヲ得テ未タ出版セサル圖書出版ノモノ出版屆出免許料手數料納付方　明治二十一年四月二日　内務省令第三號

第一條　舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得タル者其免許狀ヲ毀損又ハ紛失シタル時ハ其事

由ヲ記シ證明書ノ下付ヲ内務省ニ願出ルコトヲ得但手數料トシテ金五拾錢ヲ同省ニ納ム可シ

第二條　舊出版條例ニ依リ版權免許ヲ得未タ出版セサル圖書ニシテ自今出版ノモノハ其製本ニ何年月日版權免許ト記載シ改正出版條例第三條ニ依リ届出ヲナスト同時ニ舊出版條例第二十條ノ免許料ヲ内務省ニ納ムヘシ

第三條　第一條ノ手數料並第二條ノ免許料ハ本年内務省令第一號第七條ニ從ヒ大藏省金庫局又ハ國庫金出納本支所ノ預證書ヲ以テ之ヲ納ム可シ

○出版條例施行以前届出ヲナシ爾後出版スルモノ届出方　明治二十一年三月十九日内務省告示第二號

明治二十年勅令第七十六號出版條例施行以前出版届出ヲナシ爾後出版スルモノハ更ニ同條例第三條ノ届出ヲナス可キ筈ニ付右届出ハ本年内務省令第一號第三條ノ書式ニ依ル可シ

第三十一　社寺什物

●伺指令

●寺院所有地ヲ境内附屬地ニ使用ノ件ニ付群馬縣ヨリ内務省ヘ伺　明治二十一年四月二十六日

上野國西群馬郡高崎九藏町

第四十七番

民有宅地百九十二坪六合三勺ノ内

一坪數百八十三坪一合八勺

第四十九番

同百七十三坪ノ内

一同七十六坪五合五勺

外

坪數三百九坪七合三勺

正法寺境内附屬地ニ使用ノ分

右同斷

現境内

右正法寺境内ノ儀區域屈曲堂宇建設ニ際シ差支候ニ付該寺持宅地ヲ分割シ境内附屬地ニ使用致度旨管長添書ノ上出願實地取調候處右ハ曩ニ境内外區畫査定ノ節舊境内中人民常住ノ家屋或在有之候處ヨリ現境内區域ノ形狀並ニ法用必需ノ如何ヲ不問上地セショリ斯ク不正ノ境内ト相成方今ニ至リ差支候儀ニテ事實無止次第ニ候條出願ノ如ク民有地第一種ノマヽ境内附屬ト定メ可然哉且又爾來本願同一在來地種ノマヽ境内附屬地ト爲シ度旨出願セシ社寺有之候節ハ實際不得止箇所ニ限リ縣限リ處分ノ上報告候樣取計可然哉

指令　明治二十一年五月十五日

伺ノ通

第十一類　歳入歳出

第三十二　歳入歳出出納規則中ヲ改正ス　明治二十一年三月三十一日　閣令第五號

明治十九年三月閣令第三號歳入歳出出納規則第七十一條中「翌月七日マテ」トアルヲ「翌月十五日マテ」ト改正シ明治二十一年度ヨリ施行ス

○歳入歳出出納規則書式中ヲ更正ス　明治二十一年三月二十八日　大藏省令第二號

明治十九年三月當省令第三號歳入歳出出納規則書式中第十八號及第二十號甲乙書式二十一年度ヨリ別紙ノ通更正ス

但別紙ハ當省ヨリ別ニ頒ツ　（別紙略ス）

○歳出取扱順序中改正削除　明治二十一年十月二十三日　大藏省令第十一號

明治十九年三月當省省令第五號歳出取扱順序中左ノ通リ改正削除ス

一第十三條ヲ削除ス

一第十四條ヲ左ノ通リ改ム

仕拂切符ノ書換ヲナストキハ更ニ通常ノ手續ニヨリ仕拂切符ヲ發行ス但會計ノ整理期限ヲ經過シテ仕拂切符ノ書換ヲナストキハ過年度支出ノ手續ヲ履ミ之ヲ發行ス

一第十五條中第十二條第十三條トアルヲ第十一條第十二條ト改ム

一第三十七條中「金額ヲ改メテ再度仕拂切符ヲ發行セシメタルトキ又ハ會計ノ整理期

ヲ過キ」ノ二十四字ヲ削除ス

○森林收入ノ内貸附ニ係ルモノ整理方ノ訓令ヲ廢ス　明治二十一年二月四日　農商務省訓令第三號北海道廳府縣

明治十九年十一月　農商務省訓令第十八號ヲ廢ス

○歳入歳出出納規則第七十一條歳出報告書差出方　明治二十一年三月二十四日　大藏省訓令第十號北海道廳府縣

歳入歳出出納規則第七十一條歳出報告書ノ儀ハ來ル四月以降國庫金出納所事務順序ニ據リ同所ヨリ送付スル支拂案内書差引表案内書受領高ヲ以テ歳出報告書締高ニ照合ノ上之ヲ添付シ差出スヘシ

○歳入徵税令書納額告知書歳出支拂案内書等誤記訂正ノ件　明治二十一年三月二十六日　大藏省訓令第十一號北海道廳府縣

歳入歳出出納規則ニ據リ發行スル歳入徵税令書納額告知書若シクハ歳出支拂案内書等ニ目ノミヲ誤記シタル場合ニ於テハ來ル二十一年四月以降其訂正方ヲ金庫ニ請求スルニ不及但歳入歳出報告書ノ儀ハ右ノ場合ニ於テ從前ノ通リ夫々訂正スル儀ト心得ヘシ

○森林收入取扱順序ヲ定ム　明治二十一年三月二十七日　農商務省訓令第六號府縣（沖繩縣ヲ除ク）

當省所管森林收入取扱順序別冊ノ通相定メ明治二十一年度ヨリ施行ス

但別冊ハ山林局ヨリ送付ス　（別冊略ス）

○森林收入既納金拂戻方　明治二十一年三月二十七日　農商務省訓令第十號府縣（沖繩縣ヲ除ク）

森林收入既納金年度後ノ拂戻ハ明治十九年大藏省訓令第六十號及第六十一號ニ據リ同省所管經費ヨリ仕拂歳出出納規則第二十一號甲書式ニ據リ歳出報告書ヲ製シ翌月七日マテニ當省ヘ差出スヘシ

○十九年農商務省訓令第六號森林收入取扱順序ヲ廢止ス　明治二十一年三月二十七日　農商務省訓令第十一號府縣

明治十九年五月　當省訓令第六號森林收入取扱順序明治二十年度限リ廢止ス

○徵税額表及歳入報告書訂正追加手續附録書式ヲ更正ス　明治二十一年三月二十八日　大藏省訓令第十二號北海道廳府縣

明治十九年十月　當省第四十九號訓令附録書式二十一年度ヨリ別紙ノ通更正ス

但別紙ハ當省ヨリ別ニ頒ツ（別紙略ス）

○歳入歳出出納規則第七十一條中改正ノ件　明治二十一年四月六日　内閣訓令號外

本年三月閣令第五號歳入歳出出納規則第七十一條中ノ改正明治二十一年度ヨリ施行ストアルハ明治二十一年四月一日以後各官廳ヨリ送付スヘキ總テノ歳出報告書ヲ包含シタルモノトス

○森林收入ニ屬スル辨償金等徵入期限　明治二十一年四月七日　農商務省訓令第十三號府縣（沖繩縣ヲ除ク）

森林收入ニ屬スル辨償金（訴訟入費償却金違約金盜難品賠償金返納金及懲罰金ハ其確定後三十日以内ニ徵收スヘシ

但事實止ヲ得サル事故アルトキハ會計年度内ニ於テ適宜徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

○内國税統計臺帳調製規則第二條ヲ廢ス　明治二十一年六月七日　大藏省訓令第二十九號北海道廳府縣

内國税統計臺帳調製規則第二條ノ儀ハ本年度ヨリ廢止ス

○森林收入取扱順序第五條第九條中改正加除　明治二十一年六月三十日　農商務省訓令第二十六號府縣（沖繩縣ヲ除ク）

本年三月當省訓令第六號森林收入取扱順序中左記ノ通改正加除ス

第五條ノ現金ヲ徵收シタルノ下「トキハ其時々」トアルヲ「モノハ」ト改メ報告書ヲ製シノ下ヘ「年度後十五日以内ニ」ノ九字ヲ加フ

第九條ノ金庫ヘ送付ノ下「セシメ其旨當省ヘ報告」ノ十字ヲ除ク

○他廳ニ係ル歳入取扱納付金過誤納下戻方　明治二十一年十月十一日　大藏省訓令第四十一號北海道廳府縣

他管廳ニ係ル歳入ヲ取扱其納付金ニ過誤納アリテ下戻承認ヲ得發付スル支拂切符及支拂案内書ニ（其廳主管）ノ印ヲ押捺スヘシ

○租税官損稟申方ヲ改定ス　明治二十年五月二十一日大藏省訓令第三十四號北海道廳府縣（沖繩縣ヲ除ク）

租税官損稟申方等明治十八年六月第三十四號ヲ以テ相達置候處更ニ左ノ通改定ス

一明治十年第七十九號布告ニ據リ內國税不納者公賣處分ノ末官損ニ歸シタル金額ハ甲號樣式ニ倣ヒ調成シ毎税納期限後五十日以內ニ稟申スヘシ

一前項既往年度ニ屬スルモノハ乙號樣式ニ倣ヒ前後半年度ニ區分調製シ前半年度分ハ十月二十日以內後半年度分ハ翌年四月二十日以內ニ稟申スヘシ

一荒地成檢査中又ハ非常ノ災害ニ罹リ備荒儲蓄金ヨリ補助或ハ貸與取調中若クハ水火災ニ罹リ家屋焼盡シ納期徵税シ能ハサルトキ其延期ヲ爲スヲ得ヘシ二十一年六月九日訓令第三十號ヲ以テ本項ヲ改正ス

但其延期二箇月以外ニ渉ルモノハ其旨申報ス可シ

○租税計算整理順序中ヲ更正追加ス　明治二十一年十一月五日大藏省訓令第四十二號北海道廳府縣（沖繩縣ヲ除ク）

客年七月當省訓令第五十號租税計算整理順序中左ノ通更正追加ス

一第一條ニ列記表名第二項ノ割註ヲ（納期ヲ豫定セサルモノ及國立銀行、北海道水産米商會所、株式取引所、度量衡税ヲ除ク）ニ改ム

一第六條及第七條ヲ削リ更ニ左ノ各條ヲ挿入シ爲第八條ヲ第十條トナス

第六條　租税表送付後所屬年度ノ會計整理期限翌年度八月以前ニ於テ賦課額ニ減殺スヘキモノヲ生シ又ハ誤テ賦課徵收シタルモノヲ發見シ其税金還付ヲ了シタルトキハ前ノ租税表ニ對シ減額表ヲ調製シ其時々之ヲ送付スヘシ

第七條　租税表送付後所屬年度ノ出納閉鎖翌年度十一月三十日以前ニ於テ租税表ヘ編入洩レノ金額ヲ發見シ其徵收處分ヲナシタルトキハ前ノ租税表ニ對シ增額表ヲ調製シ其時々之ヲ送付スヘシ

第八條　前兩條ニ掲クル場合ノ外其年度ノ結算終了以前ニ於テ租税表又ハ租税收納報告表ノ誤詐脫漏其他編入方ノ錯誤等ヲ發覺シタルトキハ租税表ハ訂正增減表收納報告表ハ更正表ヲ調製シ其訂正又ハ引換ヲ請フヘシ

第九條　出納閉鎖ヲ過キ租税表ヘ編入洩レノ金額ヲ發見シ追徵處分ヲナシタルトキハ其年度會計年度ニ於テ既往年度追加租税表ヲ調製シ其時々之ヲ送付スヘシ但税目ノ廢止ニ屬セシカ爲メ更ニ科目ヲ設ケタルモノハ其税表ヲ調製シ右同期ニ之ヲ送付スヘシ

一租税表其他差立期限表中地租延納年賦金表ノ差立期限及ヒ諸表樣式ノ內第十八號式ヲ改正シ第十三號第十四號及ヒ第十六號式ノ表題其他諸表調製心得ニ數項ヲ追加ス

但改正樣式等ハ主税局ヨリ送付スヘシ

○租税延納年賦異動報告製表送付方　明治二十一年十一月五日大藏省訓令第四十三號地租延納年賦アル府縣

客年七月當省訓令第五十二號地租延納年賦額異動報告ノ儀明治二十一年五月以降ノ分ハ左ノ區分ニ依リ製表送付スヘシ

其年四月一日ヨリ同三十日迄ニ係ル分　五月三十一日限

其年五月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ係ル分　四月三十日限

○農商務省所管第二部歳入免許紙手數料等決算證明式ヲ定ム　明治二十年十一月四日農商務省訓令第十六號北海道廳府縣

當省所管第二部歳入免許及手數料鑛山借區税決算證明式別冊ノ通相定メ候條十九年度以降右ニ照準調製シ毎年十二月十五日迄ニ當省ヘ差出スヘシ

但別冊ハ別ニ頒ツ（別冊略ス）

○西洋形商船海員雇入雇止證書用紙拂下代金整理及拂下報告方　明治二十一年一月十九日遞信省訓令第一號北海道廳府縣

西洋形商船海員雇入雇止證書用紙拂下代金ハ來明治二十一年度ヨリ各廳ノ歳入トシテ整理スヘシ

但一周歳用紙拂下高ハ別表書式ニ倣ヒ調製ノ上翌年度十二月三十日限リ當省ヘ報告スヘシ

別表書式

明治何年度中西洋形船海員雇入雇止證書用紙受拂明細表　　廳　　名

種別	越高受取高	小計排下高	排下代金	減役場控除代支拂高	殘高
大雇入證書用紙 形					
小雇入證書用紙 形					
雇止證書用紙					
總計					

●伺指令

●納額告知書年度誤記訂正方ノ件ニ付鹿兒島縣ヨリ大藏省主計局ヘ照會 明治二十年十月十五日

第二部歳入徴收濟ノ分年度訂正方ノ儀ハ本月八日電報ヲ以テ及御問合候處同十一日御回答ノ趣ニ依リ貴省ニ對シ取扱ノ順序ハ判明致候得共只金庫ヘ對シテハ歳入取扱順序第三十條ニ據リ會計主務官ヨリ照會スヘシトノミ有之然ニ創始ノ事ニシテ其訂正手續了然不致候抑モ年度其他ノ訂正ニ當リ國庫金出納所ヘ照會スル場合ニ於テハ自ラ納額告知書ヨリ訂正スルニ非レハ彼我ノ帳簿モ亦訂正ス可ラサル理ナルヲ以テ無論告知書ヨリシテ更正ヲ加フヘキ筈トハ存候得共納人ヘ割與セシ告知書ノ一片ハ各所ヘ散在スル數多ノ人員之ヲ所持スルモノトセハ總テ訂正スルハ事實困難ニ有之候ニ付告知書ハ正副二片（縣廳ト出納所ノ分）ノ年度等更正スル迄ノ事ト相心得可然乎將又告知書ノ年度等ハ依然更正ヲ加ヘス單ニ第三十條ノ照會書ヲ以テ出納所帳簿ノ更正ヲ了セシメハ其訂正方ハ結了セシモノト心得ヘキ乎

回答　同年十一月十一日

後段伺ノ通但納人ヘモ訂正ノ旨御通知アルヘシ

●歳入科目訂正方ノ件ニ付司法省會計局ヨリ大藏省主計局ヘ照會 明治二十年十二月二十三日

出納閉鎖後其年度ノ歳入科目遞等發見シタル場合有之トキハ過年度歳入課納下戻ヲ請求シ而シテ貴省御所管經費諸拂戻及缺損金ヨリ受入其發見セシ年度ノ歳入相當科目ニ編入納付スヘキ義ニ候ヤ又課納下戻等ノ手續ハ要セス其科目遞ノ義ヲ證明シ其儘整理シ可然ヤ

追テ十九年度中ノ歳入ニシテ甲月ニ屬スル分ヲ誤テ乙月ニ組入報告シタル等ノ如キヲ出納閉鎖後發見シタル場合ハ如何取計可然ヤ

回答　明治二十一年一月七日

右科目訂正ノ義ハ金庫出納閉鎖後ニ付訂正難相成候間其儘整理ノ義貴省大臣ヨリ當省大臣ヘ報告相成度又十九年度歳入ニシテ甲月金庫ヘ納入ノ分誤テ乙月ノ歳入ニ組入報告セシモノハ金庫出納閉鎖後ト雖モ歳入訂正報告相成義ニ有之候

●納額告知書押印ノ件ニ付東京府ヨリ大藏省主計局ヘ照會 明治二十一年一月二十日

農商務主管鑛山借區稅取立方青森縣ヨリ委托ニ付納額告知書發付ニ際シ單ニ農商務省主管ノ印押捺候而已ニテハ當廳管理ノ分ト混淆シ不都合ニ付右等ノ如キ場合ニ於テ某省主管何廳委托ノ印ヲ押捺シ區分候樣致度候得共御差支無之哉

回答　明治二十一年二月二日

御見込ノ通ニテ差支無之候

●歳入第二整理簿中備考欄增設並歳入報告書式ノ件ニ付德島縣ヨリ大藏省主計局ヘ照會 明治二十一年四月二十三日

本年三月二十八日御省訓令第十三號ヲ以歳入歳出計算記簿規程中御改正ニ依リ甲第十一第二部歳入月割額整理簿廢止尚省令第二號ニテ歳入歳出出納規則書式中第十八號及第二十號甲乙書式御改正相成候處整理上左ノ廉々疑義ニ渉候ニ付及御問合候

一月割額整理簿廢止候ニ付テハ金庫ノ歳入月額ヲ區分スルニハ第二整理簿中摘要ト借方金額トノ區畫間ニ備考ノ一

欄ヲ設ケ何月分トシ整理シ可然哉將タ自今ハ金庫收入月ノ區分ヲ要セス縣廳記帳ノ月ヲ以テ何月分ノ歳入トシ整理スヘク義ニ候哉

一前項後段ノ通整理スヘキ義ニ候得ハ客年六月御省訓令第四十一號同第四十六號金庫歳入金毎月報告表ニ照合ノ上送付ノ義ハ自然消滅ニ屬スル義ニ候哉

一歳入報告書改正書式ニハ下戻額ノ一欄ヲ設ケ有之就テハ客年二月御省令第二號ヲ以テ改正歳入取扱順序第六條ニ據リ既納金支拂濟報告ハ恰モ重複ニ屬スルヲ以テ之レヲ要セサル義ニ候哉 將タ從前ノ通リ會計主務官ニ於テ仕拂切符發行セシ都度報告スヘク義ニ候哉

回答 明治二十一年四月二十三日

一第一項第二項歳入報告書ハ從前ノ通リ金庫毎月報告表ヲ添ヘ送付可相成義ニ付第一部歳入ニ在テハ徵稅額第一整理簿第二部歳入ニ在テハ徵稅額整理簿ニ於テ各其摘要欄内ヘ（特ニ備考ノ欄ヲ設ルニ及ハス）實收ノ月日ヲ記載シ金庫納濟ノ月分ヲ以テ整理相成度

一第三項ハ後段御申越ノ通リ

●歳入報告書式ノ件ニ付福井縣ヨリ大藏省主計局ヘ照會 明治二十一年四月十一日

今回大藏省令第二號同訓令第十二號但書ニ該ル書式御頒布相成候ニ付テハ解釋上疑義ニ渉ル廉有之則左記ノ件ハ差向郡長ヘ訓示ノ都合モ有之義ニ付至急御明示有之度

一第一部歳入報告書ノ附記ニ「第十八號第二十號甲書式ヲ合シテ云々」トアル以上ハ別段合達ナキモノト雖モ歳入歳出出納規則第六十七條ハ自ラ消滅ニ歸シタル義ナル哉

二同報告書中過年度收入ハ專ラ未納賞帳ニ登記シアル未納額ノ追徵ニシテ錯謬發見等ニテ既往ヘ溯リ追徵ノ分ハ限外ナリト解釋シ可然哉

三同書中未納額トハ賦稅額ニ對スル收入未濟高ナルハ明了ナリト雖モ時ニ徵收額ノ内過誤納アリテ徵稅額ニ對シ歳額ヲ報告シタル後未タ下戻ニ至ラサル間ニ計算上郡ヲ過剩トナルトキハ如何整理スヘキヤ又假令ハ甲郡役所ノ報告ニハ未納額金十圓ナルモ乙郡ハ過誤納アル爲メ金一圓徵收過トナル場合ニ於テ其過未納ヲ差引金九圓トナスカ如キハ允當ヲ得サル樣存候

四「歳入報告書追加」ニ表記スヘキ年月ハ徵稅令書ヲ發シ若クハ稅金徵收シタル現年月ヲ記載スル義トルヤ又ハ豫定納期ノ年月例ハ事故アリ二十一年三月ニ於テ徵收シタル地租第一期分ハ二十年八月分ト記スル類ヲ記スヘキ義ナル哉

五訂正表中ノ「增」ト「歳入報告書追加」ノ金額ハ概シテ言ヘハ等シク增額ナラン然ルニ「追加報告書」ト「訂正表」ノ「增」トヲ要セラルヽハ如何ノ成立チヲ押ヘ判然其區別ヲナスヘキ哉一二ノ適例ヲ御垂示アリタシ

六訂正表中ノ摘要ニハ「目」ヲ要セサルヤ果シテ然ラハ其金額ハ渾テ「項」ノ合計額ヲ掲ル義ナル哉

七前項第二ニ限外ナリト解釋スル既往ヘ溯リ追徵ノ分ハ如何整理スヘキ哉

八前月未納越高及徵稅額ノ内不納處分ノ上官損ニ歸シタルトキハ該金額ハ如何整理スヘキ哉

回答 明治二十一年四月二十四日

第一項 御見解ノ通

第二項 誤謬發見等ニテ既往ヘ溯リ追徵ノ分モ過年度收入トシテ御取扱可相成義ニ有之候

第三項 前段過剩ノ分ハ未納額ノ欄内ヘ朱書ス可キ義ニ有之候後段乙郡ニ於テ徵收過云々ハ事實有ル可ラサルヨト、存候尤モ乙郡ニ於テ前段ノ如キ朱書トスヘキモノアルニ振リ起リタル徵收過ニ有之候ハヽ甲郡未納ト差引相成ル可ク候

第四項 徵稅額ノ追加ハ徵稅令書ヲ發布シタル現年月ヲ記載シ徵收額ノ追加ハ稅金收入ノ現年月ヲ記載可相成候

第五項 訂正表中ノ增ハ報告ノ誤謬ニ出テシモノニシテ追加表ノ增ハ全ク報告洩ニ係ル分ヲ指シタル義ニ有之候

第六項 訂正表表中ノ摘要ニハ款項目共記載相成度候

第七項　第二項ニテ御了知可相成候

第八項　徴税額訂正表ヲ以テ減額可相成義ニ候

歳出報告書ト支拂案内書差引表ト照會ノ件ニ付岡山縣ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十一年五月十一日

去ル三月御省訓令第十號ヲ以四月以降差出スヘキ歳出報告書ノ儀ハ國庫金出納所ヨリ送付スル支拂案内差引表添付可致旨被相達居候處今回夫々送付有之候然ルニ同所事務順序ニ據リ第三部歳出大藏省主管經費又ハ内務省主管經費トノ主管處ヲ以テ區別有之候得共御省主管經費ノ内ニ於テモ農商務大臣承認ノ分モ有之内務省主管經費ノ内ニ於テモ府縣費並囚徒費ノ區分有之報告書ハ何レモ各別ニ調製致候ニ付該表添付差支且案内書受領高ト報告書締高ト對査難致如何取計可然哉

指令　明治二十一年五月二十四日

伺ノ趣左ノ通リ心得ヘシ

一送付先ノ同一ナル歳出報告書各別冊ニ調製スルモノニシテ金庫支拂案内書差引表ハ一葉ニ合算記載シアル場合ニ於テハ歳出報告書數冊ノ合計ヲ以テ照合シ差出スヘシ

一送付先ヲ異ニスル歳出報告書即チ農商務省ト當省トニ關スル例ノ如キハ前段ノ如ク照合ノ上其一方ヘ支拂案内書差引表ヲ添付シ尚雙方ノ報告書ヘ附箋ヲ爲シ其事由ヲ記載シ差出スヘシ

大藏省訓令第三十二號ニ依リ歳入決算報告書調製ノ件ニ付京都府ヨリ大藏省主計局ヘ照會　明治二十一年六月二十日

歳入決算報告書様式今般御省第三十二號御訓令相成候處調製上疑義有之左ニ御問合候

一歳入豫算增減表中豫算原額トハ御裁定額ニシテ爾後數回增減報告セシモノアルモ勅令若クハ法律ニヨリ增減セシモノナケレハ增減欄内ニ掲出及ハストセハ原額ト現額ハ同數ヲ記入シ前記説明ノ位置ニハ何等記入不致候テ可然哉

一歳入決算報告表中收入確定額トハ徴税令書等ヲ發セシモノト有之然ルニ既納額未納額ヲ合セ以テ該確定額ニ符合セシムルモノトセハ確定額ハ勿論官損金ヲ控除シタルモノヲ掲載シ可然哉

一前項ノ通ニ候ハヽ收入確定額ハ本年度過年度收入ノ區分ナクシテ税表額トハ符合セサルモノアルモ差支無之義ニ候哉

一既納額ト決算額トハ符合スヘシトアリ若過誤納ニ係リ其下戻過年度ニ屬シ單ニ實收ノ過ト相成候分ハ既納額及決算額トモ同數ヲ記入シ置其事由ハ別段記載セサルモ差支無之哉

一豫算現額ト既納額トノ差アルモノハ事由記載スヘキ例ニ有之其事由ハ勅令又ハ法律ニヨリ增減セサル即チ毎月豫算ニ對シ增減報告セルモノヽ總計ヲ掲クル義ニシテ假令ハ既納額ノ減少セシハ失踪ニヨリ未納額ニ於テ何回官損ニヨリ何回廢業者等ノ多キニヨリ何回減少アリト記スルノ類ニ候哉

一歳入決算報告表説明第一欄何々第一項何々云々トアレアリ右ハ第一項ノ合額ニ對シ豫算現額ト既納額ト對比シ其增減ノ事由ヲ陳述スヘキ義ニシテ毎月ニ對シ記載セシ事由ヲ併セ再ヒ記載スヘキ義ニ有之候哉

一今般定メラレタル歳入決算報告書定期ニ據リテ差出スヘシトアリ右定期ハ何年何號ノ御達ニ依ルヘキ義ニ候哉

回答　明治二十一年六月二十八日

第一第二第三第五第六項ハ御見解ノ通リ

第四項　過誤納ニ係リ下戻過年度ニ屬スル金額ハ收入確定額既納額及增ノ金額ニ併算シ事由中ニ其旨設明アルヘシ

第七項　二十年四月閣令第八號（十八年十月大政官第五十七號達參觀）ノ旨趣ニ依ルヘキ義ナリ

第二部歳入現金收入整理簿ノ件ニ付島根縣ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十一年九月十一日

本年三月御省訓令第十三號ヲ以テ第二部歳入月割頒整理簿被廢候ニ付第二部歳入報告書其他整理方德島縣本年四月官報第千四百四十二號ヨリ御省主計局長ヘ照會ノ處右報告書ハ徴收額整理簿ヲ以テ調製方云々御回答相成然ルニ第二部歳入中現金收

入地券下付書替手數料トモ ニ屬スル部分ハ徵收額整理簿ヘ登記致シ難キ筋ニテ整理上差支候條別紙模本（別紙模本略之）ノ通リ現金收入整理補助簿本年度以降新設方御承認相成度

追テ客年一月御省訓令第一號ニヨリ地券下付書替手數料現金ハ戶長ニ於テ納付書ヲ以テ金庫ヘ納入スヘキモノニ付現金受拂簿ヘ登記セサルモ本文補助簿ヘハ登記ノ積爲念副申候也

指令　明治二十一年九月二十六日

伺ノ趣第二部歲入中現金收入ノ分地券下付書替ハ二十一年度以降徵收額整理簿ニ登記借方貸方トモ整理スル儀ト心得ヘシ

●歲入決算報告書書式ノ件ニ付福岡縣ヨリ大藏省主計局ヘ問合　明治二十一年九月二十五日

本年御省訓令第三十二號歲入決算報告書書式中歲入豫算增減表ノ儀者勅令若クハ法律ニ據リ增減シタルモノヲ記入調製スヘキモノニシテ其增減ナキ場合ハ決算報告表ノ豫算現額ト同數ナル豫算原額ヲ記入スルニ止リ其他ニ記入ヲ要スルモノモ有之間敷樣被存候條若シ御差支無之儀ニ候ハヽ增減ナキ場合ハ該表進達セサル樣致度

追而增減表調製ニ當リ其增減ナキ稅目ハ該表ヘ記入セサルモ御差支無之哉

回答　明治二十一年十月十三日

右ハ御意見ノ通ニテ可然尤モ此場合ニ於テハ決算報告表表紙ニ「豫算裁定額ニ對シ增減ナキヲ以本表豫算現額ノ欄內ニハ裁定額ヲ掲ク」ト御記載相成度且御追書ノ趣ハ差支候條都テ御記載可有之候

●登記印紙料徵收方ニ付茨城縣ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十一年十一月十七日

本年十月八日勅令第六十六號登記印紙規則公布相成リ同月二十四日第四三七號ヲ以テ第二部歲入ヘ登記印紙料ノ目ヲ設ケ整理スヘキ旨達セラレシカ右印紙料徵收ニ際シテハ納額告知書ヲ發付スルノ手續ヲ履行シ難キニ付キ出納規則第十六條ニ準シ直ニ現金ヲ以テ郡役所ニ徵收シ該役所主任者ヨリ納付書ヲ添ヘテ金庫ニ送付セシメ然ルヘキヤ

指令　明治二十二年十二月三日

納入ヲシテ現金ヲ金庫ニ預入ト其預リ證ヲ以テ納入セシメ郡區役所ヲシテ之ニ納付書ヲ添ヘ更ニ金庫ニ送納セシムヘシ

○

第三十三　地租條例

●伺指令

●開墾土地檢査方ノ件ニ付兵庫縣ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十一年三月十七日

土地檢査方ノ義ハ定期臨時ノ二期ニ分チ實地檢査ヲ遂ケ而シテ十八年御省第四十九號達ノ進達期限ニヨリ屆申可致筈ノ處其臨時檢査ニ屬スル新規開墾ノ義ハ地押調査後地租條例ノ御趣旨人民ニ貫徹シタル結果ト蠶絲業勸誘ノ爲メ桑園增殖トニヨリ近來之カ願出ヲ爲スモノ殊ニ增加シ而シテ之カ檢査方請求スル頗ル急劇ニシテ恰モ酒醬油ノ造石檢査願ト一般ノ感ヲ顯セリ要スルニ開墾ノ事タルヤ農間ノ季節ト作付ノ時季トヲ慮リ之ヲ爲スモノナルカ故ニ開墾ノ時季ヲ過リ又ハ許可前開墾着手シ地租條例ニ觸ルヽヲ恐レ受檢ノ急ヲ欲スルニ外ナラス如此事實ナルヲ以テ出願後速ニ檢査ヲ爲サヽレハ再三急ヲ促シ來リ猶豫シ能ハサル情況ナリシ然ト雖トモ限リアル檢査員ト限リアル費用ナルヲ以テ每ニ人民ノ願望請求ニ應スル能ハス自然開墾ノ時季ヲ過ラシメ怨言ヲ明クコト實ニ少シトセス夫レ如斯ニシテ止マサレハ將來或ハ無願開墾ノ犯則者ヲ醸成スルノ弊ナキヲ保スヘカラス深ク愛ル所ニ有之候抑モ開墾出願ノ最モ多キ季節ハ本縣ニ於テハ十月ヨリ翌年四月迄ノ間ニシテ此季節ニ於テハ造酒盛時ノ際ナルヲ以テ外部ニ在テハ土地檢査ニ從事スヘキ餘暇無之內部ニ於テモ事務最モ繁劇ノ季節ニ有之加之費用ニ限リアルヲ以テ隨時檢査員ヲ增加セシムル能ハス爲メニ人民ノ請求ニ應スル能ハサルモノナリトス因テ按スルニ開墾ノ急ヲ要スルモノニ限リ先以テ開墾着手ノ義ヲ特許シ他日實地檢査ノ上漸下年季ヲ查定スルモノトセハ實際不都合無之ノミナラス却テ官民トモ便利ヲ得ルコト蓋シ渺々ナラサル義ト相見込候就テハ前陳檢査事務繁劇且開墾急ヲ要スル場合ニ限リ特ニ檢査以

前開張着手ノ義聽許致度尤モ鍬下年季査定方ノ義ハ一層注意爲致候條特ニ御詮議ノ上御聽許相成度

指令　明治二十一年三月十二日

伺ノ趣短年期ヲ要スル種類ニシテ着手以後ト雖トモ年期査定無差支モノハ申出ノ通取計苦シカラス

但着手後遲クモ三箇月以内ニ檢査セシムヘシ

○

第三十四　地券渡方規則

○地券取扱順序末項ヲ廢止ス　明治二十一年二月十六日大藏省訓令第八號北海道廳府縣（沖繩縣ヲ除ク）

明治十二年三月地租改正事務局乙第三號達地券取扱順序中末項地券下與及ヒ書換ヲ爲シタルモノハ云々ノ一項ヲ廢止ス

○

第三十五　北海道水産稅則

○北海道水産稅則施行細則中追加　明治二十一年五月十日大藏省令第四號

明治二十年四月大藏省令第六號北海道水産稅則施行細則第一條中「左ノ如シ」ノ下ヘ「但組合會ノ評決ヲ以テ征納期ノ納額割合ヲ繰上ケ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其繰上クヘキ割合ヲ定メ郡區町ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ」ノ七十字「石狩國」ノ下ヘ（石狩郡ヲ除ク）ノ割註並「千島國」ノ次ヘ「石狩國石狩郡」ノ六字ヲ加フ

○

第三十六　酒造稅則

○酒造稅則取扱心得書第十九項ヲ更正ス　明治二十一年四月二十四日大藏省訓令第二十號府縣（沖繩縣ヲ除ク）

明治十七年八月當省第六十四號達酒造稅則取扱心得書第十九項ヲ左ノ通更正ス

第十九項　麴類及胴張樽其他異樣ノ樽類ニシテ前項丈量法及算則ニ據リ實量ヲ得難シト認ムルモノハ便宜適當ノ方法ヲ以テ之ヲ査定スヘシ

但麴類番號石數等ハ木札ニ書載シ之ヲ正面ニ附シ置カシムヘシ

○

第三十七　輸出酒類戻稅規則ヲ定ム　明治二十一年七月十二日　勅令第五十四號

朕輸出酒類戻稅規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十一年七月十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第五十四號

輸出酒類戻稅規則

第一條　内國ニ於テ造石稅ヲ賦課シタル酒類ヲ外國ニ輸出スルトキハ輸出港稅關ノ檢査ヲ受ケ置輸入港稅關ヲ通過シタル證憑ヲ得テ之ヲ輸出港稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請フコトヲ得但其證憑ヲ得タル後滿三箇年以内ニ差出サヽル者ハ其効力ヲ失フヘシ

第二條　造石稅ノ下戻ヲ受ケタル酒類ヲ本邦ニ輸入シタルトキハ輸入港稅關ノ檢査ヲ受ケ陸揚ノ際其戻稅ハ之ヲ還納スヘシ

第三條　本則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム
第四條　本則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

○輸出酒類戻稅規則施行細則ヲ定ム　明治二十一年八月三日　大藏省令第八號

本年七月勅令第五十四號輸出酒類戻稅規則施行細則左ノ通相定ム

輸出酒類戻稅規則施行細則

第一條　酒類ヲ外國ヘ輸出セントスルモノハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數輸入地名積入船名等ヲ記載シタル書面ヲ輸出港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟ノ證明書ヲ受クヘシ

第二條　酒類ヲ外國ニ輸入シタルトキハ該港ノ陸揚免狀及輸出港稅關ノ證明書ニ必ス在留本邦領事ノ檢印ヲ受ケ當初輸出ノ稅關ニ申出テ造石稅金ノ下戻ヲ請フヘシ

第三條　外國ニ輸出シ造石稅下戻ヲ受ケタル酒類ヲ更ニ輸入スル時ハ其酒類ノ種目石數及容器ノ箇數ト當初稅金ノ下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記載シタル書面ヲ輸入港稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケ造石稅金ヲ還納スヘシ

第四條　造石稅金下戻及還納ノ際石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサル端數ハ之ヲ切捨ヘシ

○

第三十八　沖繩縣酒類出港稅則ヲ定ム　明治二十一年三月二十二日　勅令第十二號

朕沖繩縣酒類出港稅則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十一年三月二十一日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第十二號

沖繩縣酒類出港稅則

第一條　沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣ヘ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類壹石ニ付金三圓ヲ賦課ス

第二條　出港稅ヲ徵收スルタメ那覇港ニ船改所ヲ設置ス

第三條　荷主ハ酒類ヲ他府縣ヘ輸出スルトキ出港稅ヲ船改所ニ納メ船積免狀並領收證ヲ受ケ船積スヘシ

第四條　船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船改所ニ屆出ヘシ

第五條　沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ檢査スルコトアルヘシ

但其官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第六條　出港稅ヲ納メス酒類ヲ他府縣ヘ輸出セントシテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出港稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第七條　第四條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　主任官吏ノ檢査ヲ拒ム者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　此稅則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十條　前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乘組人ノ所犯ニ係ルモノトヽ雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

第十一條　此稅則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス

○沖繩縣酒類出港稅則施行細則ヲ定ム

明治二十一年七月七日　大藏省令第七號

本年三月勅令第十二號沖繩縣酒類出港稅則施行細則左ノ通相定ム

沖繩縣酒類出港稅則施行細則

第一條　酒類ヲ他府縣ヘ輸出スル者ハ少ナクトモ出港二十四時以前ニ左ノ項目ヲ記載シタル書面ニ稅金相添ヘ那覇船改所ヘ申出其酒類ノ檢査ヲ請ヒ船積免狀及稅金領收證ヲ受クヘシ

一酒類ノ種目及石數
一出港稅額
一容器ノ種類及箇數
一荷主ノ族籍住所姓名
一船名及船長姓名
一出港地名

第二條　船改所ハ酒類ヲ檢査スル ニ當リ前條ノ書面ニ照シ石數不相當ト認ムルトキハ每容器ヲ開キ實量スルコトアルヘシ

第三條　第一條ノ場合ニ於テ稅金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ桝量ヲ合計シ合位ニ金員ハ厘位ニ止メ以下切捨ルモノトス

第四條　主任官船舶ノ檢査ヲ爲シ犯罪ヲ發見シ若クハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコトアルヘシ

第五條　出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九　○東京府區內清酒輸入規則ヲ制定ス

明治二十二年十二月二十日　勅令第八十八號

（廿一年勅令第六十二號（第十五）參照）

朕東京市區改正條例施行ニ付清酒輸入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十一年十二月十九日

勅令第八十八號

東京府區內清酒輸入規則

內閣總理大臣伯爵黑田清隆
內務大臣伯爵松方正義
大藏大臣伯爵松方正義

第一條　東京府區內ニ於テ區外ヨリ清酒ヲ輸入スル者ハ清酒輸入營業免許ヲ受クヘシ

第二條　免許ヲ受ケタル者ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ東京府區內ニ清酒ヲ輸入スルコトヲ得ス

第三條　免許ヲ受ケスシテ清酒ヲ輸入シタルトキハ其清酒及容器ヲ沒收シ既ニ之ヲ費消シ又ハ賣捌タルモノハ其代金ヲ追徵ス

第四條　清酒輸入者ニシテ東京市區改正條例第二條第四項ノ稅金ヲ逋脫シタルトキハ其稅金ニ相當スル金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第五條　此規則ニ依テ沒收シタル物品代金ハ東京市區改正費ニ充用スルモノトス

第六條　清酒ヲ再輸出スルトキハ其特別稅下戻ヲ請フコトヲ得其下戻ノ方法ハ府縣會規則ニ依リ東京府知事東京府區部會ニ付シテ之ヲ議定セシムヘシ

第七條　東京府知事ハ此規則實行ノ責ニ任ス

第八條　此規則ハ明治二十二年一月一日ヨリ施行ス

○

第四十　煙草稅則ヲ改正ス　明治二十一年四月七日　勅令第二十號

朕煙草稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十一年四月六日

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第二十號　大藏大臣伯爵松方正義

煙草稅則

第一條　煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者

煙草仲買人

葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依賴ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依賴ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條　煙草營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所每ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條　煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキコトヲ證約スル爲メ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限內ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ證約金額ヲ記入スルモノトス

證約金　營業場一箇所每ニ五十圓以上五百圓以下

煙草製造人此税則ヲ犯シ證約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徴收スヘシ

第四條　煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帶シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條　鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料　一枚ニ付金二十錢

煙草仕入鑑札料　一枚ニ付金十錢

煙草出賣鑑札料　一枚ニ付金十錢

第六條　煙草營業者ハ各左ノ營業税ヲ納ムヘシ

煙草製造營業税　營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草仲買營業税　營業場一箇所ニ付一箇年金十五圓

煙草小賣營業税　營業場一箇所ニ付一箇年金五圓

第七條　煙草營業税ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業税ヲ納ムヘシ

第八條　煙草製造人煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條　製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條　煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條　外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節税關ノ檢査ヲ受置キ輸入港税關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税關ニ差出シ其印紙税ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙税ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條　煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十三條　煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條　煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條　何人ニテモ製造人ニ雇使セラルヽノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス

第十六條　煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス煙草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スコトヲ得ス

第十七條　煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十八條　煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條　何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條　鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條　煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十二條　煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第二十三條　營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ逋脫ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條　第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條　帳簿ノ記載ヲ僞リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脫稅ヲ謀リ又ハ脫稅シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條　第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條　第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條　第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條　煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條　此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消滅シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第三十一條　此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條　煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

第三十三條　煙草營業者未丁年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十四條　此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

煙草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

第三十五條　沖縄縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此税則ヲ施行セス但此税則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此税則ニ從フベシ

第三十六條　此税則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條　此税則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ證約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條　此税則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル巻煙草ハ煙草製造人ニ委托シ又ハ自ヲ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條　此税則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此税則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ委托シ又ハ自ラ此税則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

○煙草税則施行細則ヲ定ム　明治二十一年四月二十六日　大藏省令第三號

今般勅令第二十號ヲ以テ煙草税則改正ニ就キ右施行細則左ノ通相定ム

煙草税則施行細則

第一條　税則第二條ニ依リ煙草製造又ハ煙草仲買營業ノ免許ヲ願出ル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受ケタル後異動ヲ生シタルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ

第二條　税則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人器械ノ員數及ヒ其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

北海道廳長官府縣知事必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ノ員數坪數ニ拘ハラス證約金額ヲ增減スルコトアルヘシ證約ノ手續及ヒ證約狀ノ樣式ハ別ニ之ヲ告示スヘシ

第三條　煙草製造營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類箇數及ヒ雇人、弟子、職工ノ數(職工ハ其住所モ)ヲ其府縣ノ租税檢査員派出所ニ届出ヘシ但異動ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第四條　税則第二條但書及第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ掲クル者ハ後見人ト爲ルコトヲ得ス

一　公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

一　身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條　税則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第六條　煙草營業者其營業場外ニ住居スルトキハ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業上自己ノ代理人タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏

名ハ租稅檢査員派出所ニ屆出ヘシ

第七條　稅則第四條ノ仕入出賣ヲ爲スコトヲ得ル家屬雇人ハ其營業者ト同居常住ヲ爲ス者ニ限ル

第八條　煙草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

黑色	一枚	二厘
淡赭色	一枚	三厘
黃色	一枚	四厘
赭色	一枚	六厘
萌黃色	一枚	八厘
淡青色	一枚	一錢
茶褐色	一枚	一錢二厘
淡紅色	一枚	一錢六厘
桔梗色	一枚	一錢八厘
橙黃色	一枚	二錢
老綠色	一枚	二錢四厘
濃青色	一枚	三錢
淡黑色	一枚	三錢二厘
黃綠色	一枚	四錢
燒栗色	一枚	四錢八厘
紫色	一枚	六錢
朱色	一枚	六錢四厘
赤色	一枚	八錢

第九條　製造煙草ノ包裹每一箇ノ定量種類ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻煙草每一包(函)ニ付

百匁入	八十匁入
六十匁入	五十匁入
四十匁入	三十匁入
二十匁入	十五匁入
十匁入	五匁入
二百本入	百本入

卷煙草每一包(函)ニ付 五十本入 二十本入 十本入 六本入

第十條　稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束每ニ各之ヲ紙袋入リ、又ハ紙包入リ、トシ其包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ完全ニ之ヲ固着シテ貼用印紙ヲ破毀セサレハ煙草ヲ取リ出スヲ得サル樣ニ密封スヘシ

製造煙草每箇ノ量目本數定價、氏名、住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裹ノ表面ニ記入スヘシ

第十一條　煙草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得

第十二條　製造煙草每一箇ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルトキハ二厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス

第十三條　毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條　煙草營業者ハ既ニ用ヒタル煙草印紙又ハ其包裹ヲ所持スルコトヲ得ス又何人ニテモ之ヲ賣買シ若クハ讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　煙草營業者ハ商品見本トシテ每種刻煙草五匁紙卷煙草十本葉卷煙草五十本ニ超ヘサル包裹ヲ切披キ之ヲ店頭ニ陳列スルコトヲ得

第十六條　稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺徑七分以上ノモノヲ用ヒ黑肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛ケテ之ヲ押捺スヘシ

第十七條　煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖ヒ總テ煙草稅則ニ從フヘシ

第十八條　煙草製造人、仲買人ニシテ葉煙草ヲ買入レ又ハ預リタルトキハ壹俵、壹「カマス」又ハ壹束每ニ其葉ノ種類、量目、及ヒ買入レ預リタル番號、年月日、賣リ預ケ主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル票札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條　煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査員派出所ニ屆出テタル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ス但葉取リ葉拵又ハ賃卷ノ爲ニ煙草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條　煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條　煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一葉煙草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數、量目、荷數、荷送受主ノ氏名、住所

一製造煙草ノ種類、包裹ノ區別、箇數、荷送受主ノ氏名、住所

第二十二條　煙草製造人ハ煙草印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス每ニ之ヲ携帶シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

一印紙賣渡ノ年月日

一印紙ノ種類枚數
一賣捌人ノ氏名住所

第二十三條　輸出製造煙草ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類、箇數、定價、印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出港稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙草ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦同シ

第二十四條　稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條　送狀ヲ添付セサル煙草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルヿアルヘシ

第二十六條　代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管廳ニ屆出左ノ期日以內ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

一代替書換ハ六十日間
一其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條　煙草稅則及此規則ニ揭クル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條　煙草營業者廢業ノ節ハ租稅檢査員派出所ニ屆出其製造器械ニハ當該官吏ノ封印ヲ受クヘシ

第二十九條　第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第二十八條第三十一條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條　稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業者包裝ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條　從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及第三條ノ屆出ヲ爲スヘシ

○煙草稅則取扱方要領　明治二十一年四月二十七日大藏省訓令第二十二號北海道廳府縣（沖繩縣ヲ除ク）

煙草稅則改正ニ就キ其取扱方要領左ノ通心得ヘシ

煙草稅則取扱方要領

第一款　吸烟ノ用ニ供スル烟草類（混和製ノ諸品トモ）ハ總テ稅則ニ照シテ之ヲ取扱フヘキモノトス

第二款　左ノ事項ハ從來各府縣ニ於テ經驗セル取締規則其他ノ慣例ヲ參酌シ改正稅則ノ精神ニ基キ適當ノ取締ヲ施スヘキモノトス

一葉烟草ノ取締即チ檢證封印等ノ方法ヲ施スコト
一收獲ノ調査ヲ施スコト
一質抵當ニ係ル烟草ノ受授及ヒ廢業者所持ノ烟草賣捌方ニ就テ取締ヲ施スコト
一烟草製造ニ關スル場所ニ取締ヲ施スコト
一烟草製造器械ノ取締即焼印等ノ方法ヲ施スコト
一內國產製ニ非ル烟草ノ取引賣買貸借等ニ就テ取締方法ヲ施スコト

第三款　稅則第四條仕入出賣ノ免許鑑札ニハ各其受免許人ノ屬籍、氏名、年齡、免許ノ番號及ヒ其年月日ヲ記載スヘシ

第四欵　製造烟草ノ包裹ニ各種ノ商標彩紋裝飾ヲ加フルハ製造人ノ便宜ニ任ス但豫メ其見本ヲ租稅檢査員派出所ニ屆出置カシムヘシ

第五欵　天災其他抗拒スヘカラサル事故ニ罹リ烟草營業者所持ノ烟草包裹及ヒ其貼用印紙毀損又ハ汚染セル場合ニ於テハ當該官吏其事實ヲ審明シタル上特ニ其印紙ノ交換ヲ許スヘシ但交換ノ手續ハ別ニ告示スヘシ

○煙草稅則第三條ノ證約狀調製手續

明治二十一年四月三十日
大藏省告示第五十八號

本年四月勅令第二十號煙草稅則第三條ニ據リ管廳ニ差出ス證約狀ノ調製手續左ノ如シ

第一項　證約狀ハ左ノ樣式ニ據リテ調製シ煙草製造營業出願ノ際願書ト共ニ差出スヘキモノトス

第二項　證約金額ハ管廳ノ指示スル所ニ從ヒテ掲記スルモノトス

第三項　證約狀ノ保證人ハ最寄郡區內ニ住シ正實ニシテ同府縣內ニ於テ所得稅ヲ納ムル資產アル者二名以上ヲ要ス

證約狀

一金何十圓也

一私儀烟草製造營業御許可相成候上ハ左ノ事項ヲ確守スル爲メ前顯ノ通證約金額ヲ掲記シ保證人ト共ニ署名調印ノ上證約ヲ爲スヿ如件

第一欵　營業上ニ關スル法律規則ヲ遵守シ正實ニ營業ヲ爲ス事

第二欵　此證約ニ違背シ前記證約金額ノ一部又ハ其全部ヲ徵收セラルヽトキハ徵收御達ノ日ヨリ五日以內ニ無相違完納スヘキ事

第三欵　前欵日限內ニ證約金ヲ上納セサルトキハ連署ノ保證人ニ於テ直ニ本人ニ代リ辨納可致事

右之通相違無之候也

何府縣何郡何町何村

年月日

何府縣知事氏名殿

何府縣何郡何町何村　本人　何某印
保證人　何某印
何府縣何郡何區何町何村　保證人　何某印

●伺指令

●煙草稅則證約狀保證人ノ件ニ付東京府ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十一年五月七日

證約者相當ノ保證人ヲ得サル場合ニ於テハ公債證書國立銀行ノ預リ金券國立銀行又ハ政府ニ於テ利益ヲ保護スル會社ノ株券ヲ抵當トシテ差出シ特ニ證約ヲ爲ストキハ保證人ヲ設クルノ手續ヲ省カシムルヿトキハ之ヲ聽許スルモ妨ケナキヤ

指令　明治二十一年五月十一日

申出ノ通

●煙草製造人證約狀保證ノ件ニ付長野縣ヨリ大藏省ヘ稟申　明治二十一年六月八日

貴省告示第五十八號第三項證約狀ノ保證人ヲ得サル場合ニ於テハ公債證書國立銀行ノ預リ金券國立銀行又ハ政府ニ於テ利益ヲ保護スル會社ノ株券ヲ抵當トシテ差出シ特ニ證約ヲ爲ストキハ保證人ヲ設クルノ手續ヲ省カシムルヿトヲ得ル旨第一〇七號ヲ以テ御訓示相成タリ然ルニ本縣下ノ煙草製造人ハ多ク山間僻地ニ占居シ其村落中所得稅ヲ納ムル資產ヲ有スルモノハ僅々タル少數額ニシテ之ヲ其郡內ニ求ムルモ相當ノ保證人ヲ得ルハ頗ル困難ナリトス又御訓示ノ證券ノ如キハ僻地ノ製造人ニ於テ所持スルモノハ絕無ナルノ有樣ニ有之右等萬不得已ト視認ムルモノニ限リ地券證ヲ抵當トシ登記ノ手續ヲ經テ差出シ證約ヲ爲スコトヲ願出ルトキハ御訓示ノ證券ニ準シ取扱ヒ可然哉

指令　明治二十一年六月十一日
伺ノ趣聞屆ク

●煙草税則第三項證約金ノ件ニ付山口縣ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十一年六月十三日

勅令第二十號改正烟草税則第三條第三項ニ據レハ製造營業人ヨリ證約狀ヲ徵シ若シ税則ニ觸レ其他證約ニ逃脱スル事アルトキハ其證約金ノ全部又ハ一部ヲ徵收可致答ニテ其徵收金ハ第二部據入ニ編入スヘキ筈御省主務局ヨリ御送付ノ問答書中ニ相見候得共相當ノ科目無之何レヘ編入可致哉猶又右ハ科料罰金ヘ其性質類似ノモノニ付據入據出出納規則第十六條ニ可屬モノト相心得可然哉

指令　明治二十一年六月二十九日
伺ノ趣ハ雜收入ノ款辨償金ノ項違約金ノ目ヲ以整理スヘシ但該金徵收方ハ申出ノ通

●葉煙草藏置場ノ件ニ付神奈川縣ヨリ大藏省ヘ稟申　明治二十一年八月三十一日

本縣下烟草ノ産地ナル大住郡曾屋村地方ノ製造人仲買人ニシテ許多ノ葉烟草ヲ賣買スルモノアリ然ルニ右等ノ營業者ハ居住營業場ノ狹隘ナルカ爲メ更ニ荷物ノ税御等ニ便宜ナル箇所ニ其藏置場ヲ設ケ營業場ノ附屬ト致度旨願出タルモノ有之右ハ烟草税則ノ成文ニ據リ之ヲ見レハ各別ニ營業鑑札ヲ受ケシムヘシト雖モ該藏置場ニ於テハ烟草ノ賣買取引等ヲ爲スニ非ス單ニ之ヲ藏置スルニ止ルモノナレハ一ノ營業場ト見做シ鑑札ヲ受ケシムルハ穩カナラス之ヲシテ鑑札ヲ受シムヘキモノトセハ營業者ハ其箇所毎ニ帳簿ヲ作リ代理人ヲ常在セシメサルヘカラス其費用ト手數トヲ要スル蓋シ鮮少ニアラサルヘシ殊ニ葉烟草ノミノ藏置ニ止ルモノナレハ敢テ不取締ノ儀モ無之ト思考候間該藏置場ニ對シテハ別ニ鑑札ヲ下付セス届書ヲ徵スルニ止メ度

指令　明治二十一年九月一日
伺ノ趣特別ヲ以之ヲ聽置ク

第四十一　證券印税

●伺指令

●印紙貼用ノ件ニ付銀行集會所ヨリ大藏省ヘ出願　明治二十一年九月六日

當座貸越金及「コルレスポンデンス」約定書ニ印紙貼用ノ儀ニ就テハ去ル十七年五月證券印税規則御公布相成候以來同盟銀行中ニ於テ再三評議有之或ハ該規則第二條第一類第三項ニ屬スヘシトシ或ハ第二類第七項ナルヘシト論議不定ノ折柄十八年九月中日本銀行ヨリ御省ヘ當座貸約定書ハ其取引ノ樣度金額ヲ豫約スル證書ニシテ殊ニ其金圓ヲ授受スルハ印税既濟ノ小切手ヲ以テ引出スモノニ付規則第二條第一類ニ據リ可然哉又ハ云々又「コルレスポンデンス」約定書ハ送金爲替代金取立及融通貸等各種取引金額ノ極度ヲ定ムルモ其約束ノ當時該金額ヲ取引スルニ無之所謂豫約ノ證書ナレハ規則第二條第一類ニ據リ印紙ヲ貼用シ而シテ實際取引ノ都度其手形證書等ヘ相當印紙ヲ貼用シ可然哉又ハ云々トノ伺ニ對シ各項共前段申出之通ト御指令有之候趣承知致候ヨリ當集會所同盟銀行中過半並各地方銀行ニ至ルマテ大抵此御指令ヲ標準ト致居候處實際ニ當リ往々差支相生候其一二ヲ例スレハ當座貸越結約相成其根抵當不動産ナルトキハ登記法ニ據リ之カ登記ヲ爲サヽルヘカラス然ルニ登記官ノ見解ニヨリ或ハ一類ニテ相濟ムコトアリ或ハ第二類印紙ヲ要セラルヽコトモ之アリ又頃日名古屋地方同業者ノ事情ヲ詳カニスルニ右貸越「コルレスポンデンス」共亦日本銀行ヘ御指令ノ御趣旨ヲ標準トシテ取扱來リシ處其貸越根抵當品不動産ナルトキハ二類印紙ヲ貼用スルニ非サレハ登記官ニ於テ受理ナキヲ以テ此種ニ限リ第二類印紙ヲ貼用致居候由ニ御座候又「コルレスポンデンス」結約ニ據リ甲乙約定書ヲ交換スルニ當リ甲銀行ハ一類印税即登錄印紙ヲ貼用シテ之ヲ乙ニ送付シ乙銀行ハ二類即相當印紙ヲ貼用シテ之ヲ甲ニ送リ雙方ニ約定書ヲ落手ノ後印税ノ見解ニ付往復ノ勞ヲ費スコト往々明知致候右ノ如ク官民共ニ其取扱區々相成候テハ取引上差支不尠候ニ付其適從可仕一定ノ方向其御筋ヨリ銀行者一般ヘ御訓示被成下候樣仕度

演示　明治二十一年九月二十日

貸借スヘキ金高ヲ明記シタル證書ハ現金取引ノ如何ニ拘ハラス證券印税規則第二條第二類第七項ニ據リ相當印紙貼用スヘキモノトス

○

第四十二 船税規則

●伺指令

●庭前泉水ニ泛フ遊船課税免除等ノ件ニ付鹿兒島縣ヨリ大藏省ヘ伺 明治二十一年七月十九日

河海航行ノ用ニ供セス單ニ庭前ノ泉水ニ泛ヘ來客待遇又ハ兒童遊戯ニ供スル船ハ船税規則ノ支配ヲ受クヘキモノニ非サル旨司法大臣ノ内訓アリ右ハ税則ノ支配ヲ受ケサルモノトセハ其船ノ大小如何ニ拘ハラス課税ハ勿論該則第十條免税ノ烙印ヲモ受クヘキモノニ非サル儀ト心得然ルヘキヤ

指令 明治二十一年七月三十一日(電報)

申出ノ通

●宅地構内ノ泉水又ハ池沼邊隅ニ家宅ヲ構ヘ來客ノ遊戯ニ供スル小船課税否ノ件ニ付愛知縣ヨリ大藏省ヘ伺 明治二十一年八月二十四日

河海航行ノ用ニ供セス單ニ庭前ノ泉水ニ泛ヘ來客待遇又ハ兒童遊戯ニ供スル船ハ免税ノ烙印ヲモ要セス全ク船税規則ノ範圍外ナル旨鹿兒島縣ヘ御指令本月四日第千五百三十號官報欄内ニ掲載有之候付テハ料理屋營業自己宅地構内ノ泉水ニ小船ヲ泛ヘ平素他ノ用ニ使用セサル船來客ノ遊戯ニ供シ間接又ハ直接ニ其賃錢ヲ受領スルモノ或ハ官有池沼ノ邊隅ニ宅地ヲ構ヘ料理營業者トモ該池沼ニ小船ヲ泛ヘ爰季來客ノ待遇遊戯ニ供スル迄ニシテ他ニ使用セサルモノヽ類モ船税規則範圍外ト心得可然哉

指令 明治二十一年八月二十九日

伺ノ趣構内ノ池沼ニ泛ヘルモノハ賃錢ヲ受領スルト否トヲ問ハス船税規則ノ範圍外ト心得ヘシ

○

第四十三 車税規則ヘ附則ヲ追加ス 明治二十一年二月二十五日 勅令第七號

朕車税規則ヘ附則追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第七號

明治八年二月第二十七號布告車税規則ニ附則ヲ追加シ本年七月一日ヨリ施行ス

附則

北海道廳管内ニ限リ第一則ニ掲クル諸車ノ内荷積馬車牛車荷積大七大八車荷積中小車ハ當分ノ内税金ヲ免除ス

○明治十三年大藏省乙第二十三號達ヲ取消ス 明治二十年十二月七日 大藏省訓令第六十六號北海道廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治十三年當省乙第二十三號達ハ自今取消ス

●伺指令

●車税規則取扱心得書ノ件ニ付兵庫縣ヨリ大藏省ヘ伺 明治二十一年二月九日

第一條 客年十一月大藏省第六二五三號訓示車税規則取扱心得書第九項ニ車類ヲ變更シ税金ニ增減ヲ生シタルトキ

ハ該期ヨリ其增差ニ係ル金額ヲ徵收スヘキ筋ニ相成居之ヲ例スルニ二月其日人力車一人乘ヲ二人乘トシ荷積馬車ヲ馬車一匹立ニ爲スモノヽ如キハ既ニ原車ニ對シテハ稼續ノ部分ニ於テ稅金徵收濟ナルヲ以テ更ニ增差ニ係ル五十錢ヲ追徵スヘキ筋ニ可有之付テハ稅表調理ニ於ケル追徵ノ稅金ハ隨時收入ノ部ニ加ヘ備考ニ其事由ヲ詳記シ盟可然哉

第二條　前條ニ反シ車類ヲ變更若クハ修繕シ稅金ノ減額ヲ來タシタルトキハ該期ハ車籍臺帳ニ其事由ヲ記入スルニ止メ翌期ヨリ相當ノ稅金ヲ徵收スヘキハ勿論付テハ稅金調理ニ於テハ翌期ヘ稼續稅表備考面ヘ其事由ヲ記シ盟クヘキ哉

第三條　車類ヲ修繕シ稅金ニ差異ナキモノハ更ニ檢印ヲ要セサルモ之ヲ變更シタルトキ又ハ修繕シ稅金ニ差異ヲ生シタルトキハ更ニ檢印ヲ請ハシムルハ勿論其變更車ニシテ稅金ノ差異ナキモノトイヘトモ車籍臺帳ニ其事由ヲ記シ變更ノ迹ヲ明ニシ稅表調理ニ於テモ同上ノ心得ヲ以テスヘキ歟

指令　明治二十一年二月二十一日

伺ノ通

但第一條稅表ノ備考ハ菓子增稅ノ例ニ準シ記載スヘシ第二條第三條ハ備考ヲ記スニ及ハス

○

第四十四　醬油稅則ヲ改正ス

明治二十一年六月十八日　勅令第四十七號

朕醬油稅則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十一年六月十六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第四十七號（官報　六月十八日）

醬油稅則

第一條　醬油（溜ヲ併稱ス）製造ノ營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出製造場一箇所每ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第二條　醬油製造人ハ左ノ營業稅及造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅　製造場一箇所ニ付一箇年　金五圓

造石稅　醬油ニ諸味一石ニ付　金一圓

溜ハ製成一石ニ付　金一圓

第三條　營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業ヲ爲ス者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四條　造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期　五月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第二期　九月三十日限

五月一日ヨリ八月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第三期　翌年一月三十一日限
九月一日ヨリ十二月三十一日マテノ間査定濟石數ニ係ル稅額

第五條　醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以內ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ

造石數査定濟ノ醬油ト査定未濟ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條　醬油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條　免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條　醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ屆出タル後ニ非サレハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條　醬油製造人ハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條　造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避ヘカラサル事故ニ因リ廢業ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條　醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條　外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戾ヲ請求スルコトヲ得其下戾ノ步合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戾ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條　醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第十五條　醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス其同居者亦同シ

第十六條　自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條　醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條　當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立

入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條　免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條　醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ前項ニ同シ

第二十一條　第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條　第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消滅シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條　此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條　醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條　此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條　此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條　北海道沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條　此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以內ニ管廳ニ屆出ヘシ

○醬油稅則施行細則ヲ定ム

明治二十一年八月三日
大藏省令第九號

本年六月勅令第四十七號醬油稅則施行細則左ノ通相定ム

醬油稅則施行細則

第一條　稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トシ之レニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第二條　二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條　免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第四條　第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ增減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第五條　醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ届出ヘシ

第六條　醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第七條　醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年月日買入先キヲ帖簿ニ記載シ置クヘシ

第八條　醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

前項ノ容器ハ左ニ揭クル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受クヘシ但容器ニハ番號及管廳ノ烙印ヲ施スモノトス

丈量法

口徑（口頭ヨリ三寸下リタル箇所）胴徑（口底徑ノ中央）底徑（底板面孰レモ内測）ニテ縱横（十）圖ノ如ク度リ此縱横徑ヲ和シ二ヲ以テ之ヲ除ス深サハ其桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ヲ以テ之ヲ除ス

但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

口徑ト底徑ノ和ヘ胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四（乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス）ヲ乘シ二ヲ以テ之ヲ除シ其容量ヲ得

容器中甕類其他異樣ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

第九條　石數査定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿タサル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定スヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス（此底徑ヲ求ムルニハ空積ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス）口徑ヨリ胴徑ヲ減シ

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四（乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス以下準）

之ヲ乘シ其得ル石數ヲ容器帳簿記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス（此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニ滿タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス）

假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第十條　醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出鑑札ヲ還納スヘシ

第十一條　改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日內ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一代替書替ハ　六十日間

一其他ノ書替再渡ハ　十日間

第十二條　製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ受ケ二十日以內之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條　稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定濟ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條　稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢棄石數等ヲ詳記シ所管租稅檢査員派出所ニ申出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條　造石數査定未濟ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租稅檢査員派出所ニ屆出ヘシ

第十六條　醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油麴製造原品買入帳

醬油麴製造帳

醬油仕込帳

醬油賣揚帳

第十七條　稅則及ヒ此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條　稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名、名稱、石數、箇數、輸入地名、積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ受クヘシ

第十九條　造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ稅關ニ申出ヘシ

第二十條　輸出醬油造石稅下戻ノ步合ハ其製造セシ府縣管內ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均步合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條　稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名石數箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十二條　稅則及此細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條　稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條　第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條　此細則ニ關スル帖簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

●伺指令

●醬油諸味ニ課稅ノ件ニ付鹿兒島縣ヨリ大藏省主稅局ヘ問合　明治二十一年七月十一日

二番三番諸味ニ課稅スヘキヤ

同答　明治二十一年七月三日

二番三番諸味ハ課稅ノ限ニアラス

●醬油稅則及煙草稅則取扱ノ件ニ付福島縣ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十一年九月十二日

第一項　醬油稅則施行細則第十一條及ヒ烟草稅則施行細則第二十六條ニ代替書換期限ヲ定メラレタリ該期限ハ死亡代替ノミニ適用スヘキモノナルヤ果シテ然ラハ營業者戶籍上代替隱居ノ屆ヲナスモ依然該營業ヲ繼續シ他日該鑑札ヲ戶主(嗣子)ニ讓渡ス如キハ醬油稅則第七條烟草稅則第二十條ノ範圍外トシ書替下附可然哉

第二項　烟草稅則施行規則第十一條ノ見本ハ每種一箇ニ限ルカ如シ然ルニ管下ニ於テ每月數回ノ市日ヲ定メアル市場ノ如キ開市ノ日ヤ平常ノ寒鄙俄然繁閙ヲ極メ滿市立錐ノ地ナキニ至ル故ニ烟草小賣店ノ如キモ來客店頭ヲ埋ルノ有樣ナレハ一箇ノ見本ヲ以テ數客ニ充テ難ク爲メニ商機ヲ失スルノ憾有之趣ニ相聞候右ハ各地名店ノ商況ニ從ヒ兼テ箇數ヲ屆出シムル等適宜取締ヲ立テ每種二箇以上ノ見本ヲ供ヘシムルモ不苦哉

指令　明治二十一年九月二十日

第一項ハ死亡生存ニ不拘醬油ハ細則第十一條ニ烟草ハ細則第二十六條ノ代替ニ準シ之ヲ取扱フヘシ第二項ハ豫定セル開市ノ日時ヲ限リ特別ヲ以テ之ヲ許ス

○

第四十五　菓子稅則中ヲ改正ス　明治二十一年二月二十五日　勅令第八號

朕菓子稅則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十一年二月二十四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第八號

明治十八年五月第十一號布告菓子稅則中左ノ通改正シ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

第八條中

製造營業稅第四項雇人二人ノ下「以下」ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス

雇人一人アル者　一箇年金三圓

卸賣營業稅第四項雇人二人ノ下「以下」ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス

雇人一八ァル者　一箇年金三圓
小賣營業税第二項雇人二八ノ下「以下」ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス
雇人一八ァル者　一箇年金二圓
第十四條　菓子製造税額ハ前條ノ届出ニ據リ郡區長之ヲ調査シ府縣知事之ヲ定ム
第十六條　削除
第十八條中「又ハ第十四條ノ帳簿」ノ九字ヲ削除シ記載ヲ爲シノ下「又ハ第十五條ノ檢査ヲ拒ミ」ノ十二字ヲ加フ
第二十條中「及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者」ノ十八字ヲ削除ス

伺指令

菓子税則取扱ノ件ニ付秋田縣ヨリ大藏省主税局ヘ問合　明治二十一年四月五日
菓子税則取扱方訓示アリ其二項檢査員ノ意見トハ製造人各自ニ就テノ事カ又四項檢査員ノ報告書トアルハ意見ノ報答ナルヤ御報アレ
回答　明治二十一年四月五日
前段ハ御見込ノ通リ後段ハ郡區長ノ求メト否トニ拘ハラス檢査シタルトキ必要ト認メ郡區長ニ報告シタル書類ヲ云フ

菓子税則取扱方要領ノ件ニ付神奈川縣ヨリ大藏省主税局ヘ照會　明治二十一年四月六日
菓子税則改正相成候ニ付取扱方要領大藏大臣ヨリ訓令有之候處其第四項ニ租税檢査員ノ報告書云々ト有之右報告書トハ同第二項ニヨリ郡區長カ檢査員ニ意見ヲ聽キタル場合之ニ對シ檢査員ノ賣上ケ見込額ヲ各營業者ノ届出高ニ比照シ其意見アルモノヲ報告スル儀ニ可有之哉又同第六項ノ精神ハ檢査員ハ常ニ一般營業者ノ分限並ニ其正不正ヲ巡視シ内正業者ニ對シテハ寛待ノ檢査ヲ與ヘ不正業ニ向テハ緻密ノ檢査ヲナスト云フ意歟將タ正業者ニハ檢査ヲナサス單ニ不正業者ノミニ檢査ヲナス儀ニヤ果シテ然ラハ税則第十五條ノ檢査ハ不正業者ニ向テ施行スルニ止マル儀ニ可有之乎隨テ前顯報告書ハ隨時臨檢セシ不正業者中意見アルモノヽミニ就テ之ヲ報告スル儀ト心得可然乎
回答　明治二十一年四月十日
要領第四項報告書トハ第二項郡區長ヨリ意見ヲ聽キタルトキ報告スルモノニ非ラス又不正業者ニ關スル意見ノミヲ報告スルモノニモ無之都テ檢査員ニ於テ正業者不正業者ノ別ナク税額調査上必要ト認メタル事狀アルトキハ何時モ報告スヘキ義ニ有之又第六項檢査ハ不正業者ノミニ止ムルト云フノ精神ニハ無之正業者ト雖モ必要ト認ムル場合ニ於テハ何時モ臨檢スルハ勿論ニ有之只不正業者ト同ク頻繁臨檢シテ彼レカ營業ノ煩ヲ爲ス等ノ弊ナキヲ期スルノ精神ニ有之候

菓子税則取扱心得書及取扱要領中疑義ノ件ニ付長野縣ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十一年四月七日
本年二月勅令第八號ヲ以テ菓子税則御改正相成候テ三月三十日付ヲ以テ本年七月以後該税則取扱方要領御訓達相成候處左ノ各項疑義ニ涉リ候間相伺候
第一項　菓子税則第十四條御改正ニ付テハ同則取扱心得書第十三項ハ消滅ノ義ナルカ果シテ然ラハ税額調査ノ材料ナキニヨリ便宜縣令ヲ以テ相定メ可然歟
第二項　御訓達第二項ハ各營業人ヨリ届出タルモノヲ調査ノ上不相當ナキモノト認ルモ製造高賣上高納税額一人別表ヲ製シ租税檢査員ニ廻付シ當否ノ如何ヲ聽クノ精神ナルヤ
第三項　同第三項ハ一月一回カ又ハ二箇月ニ一回カ郡區長ニ於テ臨時檢査ヲ爲シ豫想ヲ定メ置キ尚税額ヲ調査スル前必ス郡區長各營業者ニ就キ視察スルノ義ナルカ將タ税額調査ノ際ニ方リ視察スルノ儀ナルヤ又ハ同第四項ニ時宜ニ應シ收税長ニ協議シテ實地ノ檢査ヲ求ムルコトアルヘシトアルヲ以テ見レハ郡區長ハ實地ノ檢査ヲナサス唯

營業者各自ヨリノ屆出ト前期ノ製造高賣上高等ヲ參照シ尚爾後營業上ノ盛衰ヲ審量シテ當否ヲ調査スルニ止ル義ナルヤ

第四項　同第四項ニ郡區長ハ租稅檢査員ノ報告書ヲ參照シ云々トアルハ同第二項郡區長ヨリ租稅檢査員ノ異見ヲ聽ク爲メ廻付スル一人別表ニ對シ檢査員ヨリ報道セシ報告書ヲ參照シ當否ヲ考察スルノ儀ナルヤ

指令　明治二十一年四月十四日

伺ノ趣第一項ハ申出ノ通第二項以下ハ今般主稅局長ヨリ收稅長ヘ廻付シタル菓子稅則取扱方要領問答ニテ了解スヘシ

○

第四十六　所得稅法

○所得稅納稅者屆出ノ書面誤謬訂正申立取扱方　明治二十一年七月九日　大藏省訓令第三十五號府縣（沖繩縣ヲ除ク）

所得稅納稅者屆出テタル書面ニ誤謬ノ廉アルヲ以テ訂正方申出ツルトキハ郡區長之ヲ審査シ其事實明確ト認ムル者ニ限リ左ノ區別ニ從テ之ヲ取扱フヘシ

第一項　調査委員會開會以前ニ申出ツル者ハ郡區長ニ於テ之ヲ訂正セシムヘシ

第二項　屆出ノ重複ニ渉レル者ハ調査委員會決議後ト雖モ郡區長ニ於テ之ヲ訂正スルコトヲ得

第三項　第二項ノ場合ヲ除クノ外其申出ノ調査委員會決議後ニ係ル者ハ所得稅法第十八條及第二十條ニ據リ處分スヘシ

●伺指令

●所得稅取調ノ件ニ付滋賀縣ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十年十二月二日

所得稅納稅者他ノ郡區役所所轄內ニ轉居セントスル時及轉居シタル時ハ其地ノ戶長ヲ經テ屆出郡區長ハ直チニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ轉居先郡區長ニ通報スヘキ營本年五月貴省令第八號施行細則第八條第九條ニ掲載有之候處既ニ調査會結了後他ノ調査會開會以前ノ郡區ヨリ轉居シタルモノアルトキハ其當人所得稅ヲ調査スル爲メ再ヒ調査會ヲ開クニ及ハス郡區長限リ査定セシメ可然哉

指令　明治二十年十二月六日

伺ノ通

但郡區長ニ於テ本人屆書ニ對シ意見アル時ハ稅法第十八條ニ據ルヘシ

●所得稅金達後納稅屆書誤謬訂正方ノ件ニ付鹿兒島縣ヨリ大藏省主稅局ヘ問合　明治二十一年一月十九日

郡長ニ於テ所得稅法施行細則第十五條ノ達ヲ爲シタル後納稅者ヨリ同稅法範圍外ノ金額（例ヘハ軍人官舍料及馬飼料類等ヲ謂手當ト屆出置タルノ類）算入屆出置タル旨ヲ以テ曩ノ屆書中扣除ノ義申出タル者有之右ハ諸手當ノ名稱ニテ既ニ委員會ニ於テ議決セシモノナレトモ申立ノ事實相違アキトキハ郡長ハ直チニ右達金額更正取計可然義ニ候哉

回答　明治二十一年一月二十八日

稅法第十八條若クハ十九條ニ據ルノ外訂正ノ途ナシ

●所得稅等級金額達後誤謬引直方ノ件ニ付大坂府ヨリ大藏省主稅局ヘ問合　明治二十一年一月二十四日

所得稅法第十七條ニヨリ納稅者ニ所得稅等級金額ヲ達シタル後納稅者ニ於テ曩ノ屆出ニ誤謬第二條第二項原質品ノ原價ヲ扣除スルヲ誤リタルアルヲ發見シ引直方ヲ申出ルモノアリ右ハ調査委員會ニ相當ト見認メ議決セシモノニ付第十八條ニ據リ郡區長等ノ意見アルモノヽ外ハ第十九條ノ期限內外ニ拘ハラス總テ受理セサル儀ニ候哉

回答　明治二十一年一月二十八日

所得屆誤リノ者ハ稅法第十九條ニ據ルヲ得ヘシ

●所得金届出高誤謬發見ノ際取扱方ノ件ニ付福島縣ヨリ大藏省ヘ伺 明治二十一年一月二十一日

所得稅調査委員會議決ノ末該稅法施行細則第十五條ニヨリ等級稅金額等示達ノ後當初ノ届書金高ニ誤謬アリテ其訂正方ヲ本人ヨリ郡長ヘ申出事實相違ナキモノ又ハ寺院等ニテ無形人ノ所得ヲ届出其儘調査委員會ニ於テ議定シタルヲ發見シ右處分方郡長ヨリ申出タルトキハ假令議定後ト雖トモ止ムヲ得サル義ニ付更正又ハ取消ノ儀聞届不苦哉

指令 明治二十一年一月二十七日

稅法第十八條第二十條ニ據ルノ外訂正不相成

●所得稅臨時取調掛ノ件ニ付兵庫縣ヨリ大藏省主稅局ヘ問合 明治二十一年二月二十四日

所得稅法施行細則第十六條ニ據リ設置致候縣下神戸區所得稅臨時取調掛ノ義ハ來ル二十一年度ニ在テモ依然繼續可致ハ當然ト存候付テハ之レカ手當ノ義ハ同年度内國稅徵稅費ノ内ヘ被差加候哉ト相心得可然哉

回答 明治二十一年三月一日

右ハ總テ御申越ノ通ニテ可然被存候

●所得稅納人轉居セシ者處分方ノ件ニ付新潟ヨリ大藏省主稅局ヘ問合 明治二十一年二月二十二日

所得稅ヲ納ムルモノ納期ニ至リ（例ヘハ三月一日ヨリ三十一日迄ノ内）甲郡區ヨリ乙郡區ヘ轉居シタルトキ甲郡役所ニ於テハ既ニ徵稅令書ヲ發シタル後ニ付假令本人轉居先ニ納稅致度旨申出ルモ取扱上不都合ノ嫌ナキニアラサルニ付甲郡區役所ニ於テ徵稅可爲致義ト存候得共疑貳ニ渉リ候ニ付一應及御問合候

回答 明治二十一年三月一日

右ハ既ニ徵稅令書ヲ發シタル者ニ限リ御見込ノ通リ御取扱可然ト被存候

●所得減額免稅ノ件ニ付宮城縣ヨリ大藏省ヘ伺 明治二十一年九月十四日

所得稅届出者中月俸稅算一箇年三百圓ノ所得ヲ得ルトナセシモノ納期前ニ於テ其年額二百圓ニ下レルモノアリ之ヲ稅法第二十三條ニ問ヒ末段ニ照セハ免稅スヘキモノヽ如シト雖モ前段ニ據レハ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルモノニアラサレハ申出ルヲ得サルニヨリ之ヲ免稅スヘカラストナストキハ十分ノ五以上ヲ減損シテ所得三百圓ヲ缺クモノニ對シ權衡ヲ失フノ甚シキモノニ似タリ右ハ免稅範圍内ノモノト心得可然哉

指令 明治二十一年九月二十日

所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタル場合ヲ除ク外ハ免稅申出ルヲ得ス

●所得稅法第二十三條納期減損ノ件ニ付愛知縣收稅長ヨリ大藏省主稅局ヘ問合 明治二十一年九月十七日

所得稅法第二十三條ニ納期前ニ於テ十分五以上ヲ減損シタルトキハ云々トアリ右ハ稅法上納期ハ九月トアルニ據リ則チ九月三十日迄ヲ指サヽレタルモノト信ス然ラハ假令九月ニ入ルモ未タ稅金上納セサル前ノ減損ハ第二十三條ニ據リ不苦哉且官吏等ニシテ俸給ノミヲ以テ納人トナルモノハ營業者一時損失ト異ナリ減損ノ月ヨリ全ク所得ノ見込ナキモノニ付總金高ニ對シテ十分五以上ノ減損ニアラサルモ左ノ如キ類ハ第二十三條ニ據リ第一項ハ前後半年分トモ減損額ニ對シ納稅セシメ第二項ハ前後トモ免稅シ不苦哉

第一 三十五圓月給ノモノ八月二日非職當初届出金高則チ本年確定高四百二十圓ナリ非職ニ付減損額百十五圓十七錢八厘ヲ差引三百四圓トナルノ類

第二 二十六圓月給ノモノ九月十五日二十一圓月給ニ減額當初届出金高則チ本年確定高三百十二圓ナリ減俸ニ付減損額十七圓五十一錢ヲ差引二百九十四圓トナルノ類

回答 明治二十一年九月二十四日

前段ハ御見込ノ通リ後段官吏云々ハ減免ノ限ニ無之ト存ス

○

廿年内務省訓令第四十九號（本編第十二）及廿一年法律第一號（第十四）三十二條及町村制第百三十八條參照

第四十七 地方税ニ關スル寄附及雜收入ノ件 明治二十年十一月五日 勅令第五十六號

朕地方税ニ關スル寄附及雜收入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十年十一月四日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
内務大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第五十六號

第一條　地方税ヲ以テ支辨スヘキ事業ニ關シ寄附スル金穀物件ハ府縣會ノ議決ヲ經テ寄附者ノ指定シタル費途又ハ使用ニ充ツヘシ

第二條　地方税ノ雜收入ハ他ノ收入豫算ト同シク府縣會ノ議定ニ付スヘシ

第三條　本令ハ明治二十一年度ヨリ施行ス

○警察費ニ對スル國庫下渡金改定 明治二十一年八月七日 勅令第六十一號

朕地方税中警察費ニ對スル國庫下渡金改定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十一年八月六日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

同上 同日閣令第十三號ヲ以テ明治二十二年度ヨリ施行ノ旨ヲ布令ス

廿一年法律第一號（第十四）市制第百三十

勅令第六十一號

明治十四年二月第十六號布告府縣警察費ニ對スル國庫下渡金ノ割合左ノ通改定ス

第一條　地方税中警察費及警察廳舍建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ拾分ノ四トシ其他ノ府縣（沖繩縣ヲ除ク）ハ六分ノ一トス

第二條　前條割合ノ外警察官吏並ニ之ニ準スヘキ傭内外國人ノ諸給與警視廳ノ廳費ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

第三條　本令ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

○貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ヲ地方税ニ編入シ警察機密費撿徵費ヲ地方税ヨリ支辨ス 明治二十一年八月七日 閣令第十二號

貸座敷引手茶屋娼妓ノ賦金ハ府縣知事（東京ハ警視總監）ニ於テ適宜ニ之ヲ賦課シ地方税雜收入ニ編入スヘシ

警察機密費（高等警察ニ屬スルモノヲ除ク）ハ警察費中ノ一科目トシ檢徵費ハ衞生病院費中ノ一科目トシ地方税ヨリ支辨スヘシ

○地方税支辨ニ係ル並木枯損木拂代並木植繼費組入及支出方並寄附金支出議案精算報告書式及收入豫算議案書式改正 明治二十年十一月五日 内務省令第三號

一地方税ノ支辨ニ係ル道路ノ並木枯損木拂代金ハ明治二十一年度ヨリ該年度地方税土木費雜入ニ組入レ並木植繼費ハ該土木費ヨリ支出ス可シ

二條及町村制第百三十八條參照

一地方税ヲ以テ支辨ス可キ事業ニ關スル寄附金ノ支出豫算議案及精算報告書式ハ明治二十一年度ヨリ警察費國庫下渡金ノ例ニ準シ寄附者指定ノ費目ニ於テ地方税ト寄附金ト内譯ヲ爲ス可シ

一物件ノ寄附又ハ年賦寄附等ニシテ通常豫算ニ編入シ難キモノハ便宜別議案ヲ以テ議定ニ附スルコトヲ得

一明治十五年十二月内務大藏兩省乙第七拾貳號達地方税收入豫算議案並精算報告書式中戸數割ノ次合計以下明治二十一年度ヨリ左ノ通改正ス

收入豫算議案書式

一金		雜收入
	内譯	
	金	警察費雜入
	金	土木費雜入
	金	何費雜入
	金	何費雜入
一金		前々年度ヨリ繰越金
一金		國庫下渡金
一金		國庫補助金
一金		寄附金
	合計金	

收入精算報告書式

△豫算金		△印ハ朱書
一金		雜收入
	内譯	
△豫算金		警察費雜入
金		土木費雜入
△豫算金		何費雜入
金		何費雜入
△豫算金		前々年度分何税延納
金		前々年度ヨリ繰越金
△豫算金		國庫下渡金
一金		國庫補助金
△豫算金		寄附金
一金		寄附金
△豫算金		
一金		
△豫算金		
一金		
△豫算金		
一金		
△豫算金		
合計金		

○警察費ノ内地方税連帶支辨金支出方及決算上殘金取扱ノ件 明治二十一年二月二十五日 内務省訓令第四號府縣ヘ（沖繩縣ヲ除ク）

警察費ノ内地方税連帶支辨金支出方之儀ハ二十年度以降總テ精算拂トナシ爾後決算ノ上殘金ヲ生セシキハ戻入ニ相立ヘシ

但會計整理期限後ニ於テハ精算拂ノ儘据置キ決算ノ上該殘金ハ直チニ現年度ノ第二部收入トシテ國庫ヘ納付シ其旨當省ヘ報告スヘシ

○地方税又ハ區町村費支辨ノ堤塘使用料道路並木布貸渡料並竹木拂代金取扱方 明治二十一年七月十七日 大藏大臣連帶 内務省訓令第十七號府縣（沖繩縣ヲ除ク）

地方税又ハ區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘使用料及道路並木布貸渡料其他同上ノ並木及堤塘道路用惡水路土居布等ニ屬スル竹木拂代金ハ左項ニ準シテ取扱フヘシ

但本文ニ抵觸セシ從前ノ指令訓令ハ取消ス

一修繕費ノ全部ヲ地方税ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ地方税ヘ其區町村費ヨリ支辨スル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ編入セシムヘシ

一修繕ハ區町村費ノ主擔ニシテ地方税ノ補助ニ係ル箇所ノ收入ハ區町村費ヘ編入セシムヘシ

一地方税ト區町村費ト修繕ノ主擔ヲ定メスシテ分擔支辨ニ係ル箇所ノ收入ハ其支出金額ノ歩合ニ隨ヒ編入セシムヘシ

一地方税ト區町村費ト年々修繕負擔ヲ異ニスル箇所ノ收入ハ該年度負擔ノ方ニ編入セシムヘシ

一區町村費ノ支辨ニ係ル堤塘道路用惡水路土居敷修繕費及並木植繕及保護費ハ區町村費中土木費ヨリ支出セシムヘシ

一前各項ノ收入金ニシテ府縣廳（稅置タル分ハ前各項ニ準據シ本年度中悉皆交付スヘシ

○在府縣獄囚徒費用交付金地方税編入方 明治二十一年九月二十九日 内務省訓令第十九號警視廳府縣（沖繩縣ヲ除ク）

明治十七年本省乙第二十九號達ニ據リ集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者ノ費用トシテ交付スル金額ハ府縣會ノ議決ヲ經地方税ノ收入支出ニ編入スルコトヲ得

第四十八　租税未納者處分規則

○内國税未納追徵整理順序樣式凡例中ヲ改正ス 明治二十一年二月十五日 大藏省訓令第七號北海道廳府縣（沖繩縣ヲ除ク）

十九年七月訓令第三十三號内國税未納追徵整理順序甲乙號樣式凡例中左ノ通リ改正ス

甲號樣式凡例第二項

一　追徵處分ノ末官損ニ歸セシモノハ其徵税令書ヲ發セシ年度ノ賽帳ヘ記入スルモノトス但徵税令書ヲ發セサルモノハ其指令三月三十一日已前ニ係ルモノハ該當年度四月一日已降ニ係ルモノハ翌年度ノ賽帳ヘ記入ス

乙號樣式凡例第三項

一　未納減額ノ内官損及缺損額並追納額ハ本年度未納賽帳ニ登記セシ金額ヲ記入ス

○租税不納者處分規則ニ據リ處分ノ末官損ニ歸スルモノ取扱方 明治二十一年五月十一日 大藏省訓令第二十六號北海道廳府縣（沖繩縣ヲ除ク）

租税不納者處分規則ニ據リ處分ノ末官損ニ歸スルモノハ二十一年度以降算申ニ及ハス該金額ハ本年當省訓令第十二號徵税額訂正表ヲ以減額報告ヲ爲スヘシ

但他ノ事故ノ訂正表ト區別シテ調製スヘシ

伺指令

●未納税追徵方ノ件ニ付宮崎縣收税部ヨリ大藏省主税局計算課ヘ問合 明治二十一年二月二十三日

納税期限ニ際シ本人旅行又ハ失踪等ニテ財産ノ所在不分明公費處分ナシ能ハサル分ハ所在認知ノ節税金徵收方各府

縣ヘ照會致シ來リ候處右稅金徵收シタルトキハ現金ノ回付ヲ受ケ所轄郡長ヘ交付シ金庫ヘ納付セシムヘキ哉又ハ十九年三月大藏省令第四號歳入取扱順序第十六條第十七條第二部歳入ノ例ニ準シ徵收シタル府縣ニ於テ納付ノ手續ヲ了シ該府縣ノ報告ヲ得歳入報告書ヲ製シ御省ヘ進達スヘキ筋ニ候哉且ツ十九年大藏省訓令第三十三號第五條ニ據レハ未納臺帳ニ記載シタル納稅者他管ヘ移住送籍ノ節不納ニ係ル書類引繼キ方御示シ相成居リ候得共公賣處分ノ末公賣代價不納金額ニ充タス官損相成候分ハ別段御明示無之右ハ該條ニ據リ引繼ヲ爲スヘキ義ト存候乍然ラハ單身他管ヘ寄留シ再營業ヲ爲スカ如キモ是亦前陳同樣引繼キヲ爲シ其引繼キヲ受ケタル管廳ニ於テ決算整理候義ニ候哉

回答　明治二十一年二月二十七日

第一節後段御見込ノ通リ第二節御見込ノ通リ第三節第一節後段ノ通リ御承知相成度

●土地分割質入ノ地租不納公賣處分方ノ件ニ付靜岡縣ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十一年十一月二十一日

登記法第七條第九項ニ依リ一筆ノ地所ヲ區別シテ質入トナシタルモノ債主若クハ持主ニ於テ其一分ニ係ル地租ヲ不納スルトキハ之レヲ區分セス全筆ヲ公賣シ可然哉

指令　明治二十一年四月十六日

伺ノ趣質地ト殘地ト地租ノ區分ニ對シ各自徵稅傳令書ヲ發セシメ若シ其一方不納スル場合ニ於テハ裂筆公賣處分ノ手續ヲナスヘシ

但質入ノ際該筆區分ノ實況ヲ記入セル繪圖ヲ製シ其步數及ヒ地價地租ヲ相當ニ分配シ戶長ノ承認ヲ受盟カシムヘシ

●所得稅不納處分方ノ件ニ付兵庫縣ヨリ大藏省ヘ伺　明治二十一年四月十日

所得稅不納者處分方ノ儀去月十七日付ヲ以內訓ノ旨モ有之候處他ノ負債ノ爲メ身代限リ處分ニ際會スルトキハ該稅金ハ先取ノ樣アルモノトシ郡區長ヨリ裁判官ヘ照會シ財產競賣代價ノ內ヨリ請取可然哉

指令　明治二十一年四月二十六日

所得稅不納處分ノ件ハ伺ノ通リ裁判所ヘ請求ス可シ

第四十九　備荒儲蓄法

○備荒儲蓄金取扱順序ヲ改正ス　明治二十年十二月九日　大藏省令第十五號府縣（沖繩縣ヲ除ク）

明治十三年十一月內務大藏省第三十八號達備荒儲蓄金取扱順序左ノ通改定ス

但報告書式ハ別ニ頒ツ　（書式略ス）

備荒儲蓄金取扱順序

第一條　備荒儲蓄金ハ每年政府ヨリ配付スルモノヲ配付金ト稱シ人民ヨリ徵收スルモノヲ公儲金ト稱ス而シテ右配付金及公儲金ヲ合セテ府縣儲蓄金ト稱スヘシ

第二條　配付金ハ前年度ノ地租豫算高ニ據リ其額ヲ定メ以テ每年十一月以前ニ達スヘシ

第三條　府縣ニ於テハ配付金高ヲ以テ最下額トシ公儲金徵收ノ割合ヲ定メ而シテ其徵收期限ハ支出上差支ナキ爲メ適宜前收ノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第四條　公儲金ヲ免除スルハ罹災ノ年度ニ限ルモノトス其免除及不納處分等ヨリ生スル缺額ハ總テ翌々年度ニ於テ一般ニ賦課シテ補充スヘシ最其總額配付金ノ高ヨリ不足セサル場合ニ在リテハ之ヲ補充セサルモ妨ナシ

但前年度內ニ公儲金ノ全額ヲ前收スルモノニ限リ本年度罹災者ハ翌年度ノ公儲金ヲ免除スルヲ得

第五條　地租ノ貸與金事故ナクシテ返納ヲ怠ルモノハ裁判ニ付スヘシト雖モ不慮ノ災害ニ遭遇シ返納シ能ハサルモノハ之ヲ猶豫シ又ハ免除スルノ方法ヲ設ケ府縣會ニ於テ議定セシムヘシ

第六條　備荒儲蓄法第五條ニ因リ內務大藏兩大臣ヘ具申スルトキ儲蓄金收支豫算書ヲ添ヘ差出スヘシ大藏大臣ハ配付